平成 30 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業

障害者芸術文化活動普及支援事業
評価ガイドライン作成事業報告書

平成 31 年 3 月

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

本報告書は厚生労働省障害者総合福祉推進事業「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業報告書」の一環で作成されました。

目次

1. はじめに 1
2. 本評価ガイドラインについての概要 3
3. 事業内容 5
3-1. ロジックモデルの作成 5
3-2. 効果的援助要素の作成 12
3-3. 普及支援事業実施団体等へのヒアリング調査 15
3-4. 支援センターへの質問紙調査 22
3-5. 自治体へのヒアリング調査 74
4. 検討委員会の実施 78
5. まとめ 82
6. 資料 83

1. はじめに

厚生労働省では、「障害者の芸術活動普支援モデル事業（以下、モデル事業）」[1]（平成 26 年度～平成 28 年度）及び「障害者芸術文化活動普及支援事業（以下、普及支援事業）」[2]（平成 29 年度～）により、地域における障害者の自立と社会参加の観点から、障害者の芸術文化活動支援の体制づくりを行ってきた。モデル事業及び平成 29 年度の普及支援事業の実施においては、民間法人を対象に実施団体を公募し、事業計画や実施結果に対する評価委員会を設け、事業の成果や課題について評価を行ってきた。しかし、平成 30 年度から、都道府県レベルにおける事業においては、各都道府県が実施主体となり、評価委員会での審査が行われなくなるため、これまでの事後評価の指標を踏まえ、各自治体が自らの評価等に活用する新たな指標や評価の枠組みが必要となった。そのため、「障害者芸術文化活動普及支援事業効果測定ガイドライン作成事業（採択名：障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業）」が実施されることとなった。

本評価ガイドラインを作成するにあたり、障害者の芸術文化活動においては、ジャンルや活動の在り方が多様であり、福祉や芸術文化、共生社会等様々な価値観が交錯する中で行われている事業であるため、画一的な定量評価の手法による評価では、成果の全体を捉えることが困難であることが懸念された。同時に、「評価」というものへの抵抗感や、誤解を拭いながら、事業を通して成果を高めていくために、自治体や障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）[3]が評価を「活用」できるようになることを重視した。成果だけを評価するのではなく、支援センターが活動からの学びを事業改善に活かし、活動を通して、普及支援事業全体により良い成果（インパクト）をもたらすことに役立つよう、プロセス評価[4]にも着目した評価モデルを提示することが重要だという視点に立ち、モデルとなる評価ガイドラインを作成した。

本評価ガイドライン作成事業では、まず普及支援事業が目指す成果が何か、それを達成するための道筋を整理するために、ロジックモデルを作成した。支援センターがどのような文脈や役割期待の中に位置し、どのような成果をもたらすことを求められている事業なのかを整理し、活動を行っている現場からの知見をもとに構造化し、普及支援事業における支援センターの戦略図を描いた。次に、実際支援センターにおいて成果をもたらしている活動のコツ（効果的援助要素）

---

[1] 芸術活動を行う障害者及びその家族並びに福祉事業所等で障害者の芸術活動の支援を行う者を支援するモデルを構築するもので、その成果を普及することにより障害者の芸術活動の支援を推進することを目的とする。（参考：障害者の芸術活動普支援モデル事業実施要綱）

[2] 障害のある人が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人たちの芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することを狙いとしている事業。平成 29 年度から実施し、平成 30 年度は、全国 24 都道府県が支援センターを開設し、それぞれの支援センターを支援する広域センター、全国を横断的に支援する事務局（連携事務局）も設置している。（参考：厚生労働省障害者芸術文化普及支援事業パンフレット 2018 年 10 月版。関連ウェブページ：http://renkei-sgsm.net/）

[3] 普及支援事業における都道府県の支援拠点となり、絵画や陶芸等の美術分野、演劇や音楽、舞踊等の舞台芸術に関する多様な支援事業を展開している。支援センターの主な事業内容としては、相談支援、人材育成、関係者とのネットワークづくり、発表等機会の創出、情報収集・発信、成果報告のとりまとめ等がある。（参考：同上）

[4] プログラムの実施中に何が起きているかを見るための評価

を抽出し、実施団体が事業の計画や振り返りの際に参考にできる活動の指標を評価ガイドラインとして作成し、別冊の「障害者芸術文化活動普及支援ガイドーよりよい協働と事業成果を高めるためのヒント集ー」（以下、ガイド）にまとめた。

本報告書は、その作成プロセスを詳述したものであり、具体的には「3. 事業内容」にて、モデル事業や普及支援事業を行った団体や、その他障害者の芸術文化活動やその支援を行っている団体へのヒアリング調査結果や、アンケート調査の分析結果について説明している。また、成果物となる評価ガイドラインの活用が見込まれる自治体へのヒアリング調査結果や、本評価ガイドライン作成事業開始時より、全 4 回にわたり開催した検討委員会の要約等を明記している。この検討委員会には、評価、福祉（障害者福祉）、芸術文化の専門家や普及支援事業評価委員会の構成員に検討委員として参加いただいた。

なお、本報告書はガイドの作成プロセスや評価設計等の解説やデータ分析の結果について説明しており、実際ガイドを用いて活動の振り返りや評価を行いたい方は、別冊のガイドからお読みいただくことを推奨する。また、本事業名が「評価**ガイドライン**」の作成事業であり、それによってできたものを意図的に「障害者芸術文化活動普及支援**ガイド**ーよりよい協働と事業成果を高めるためのヒント集ー」としているが、混乱を避けるために、本報告書ではガイドを固有名詞として指す場合を除き、「**評価ガイドライン**」で統一する。

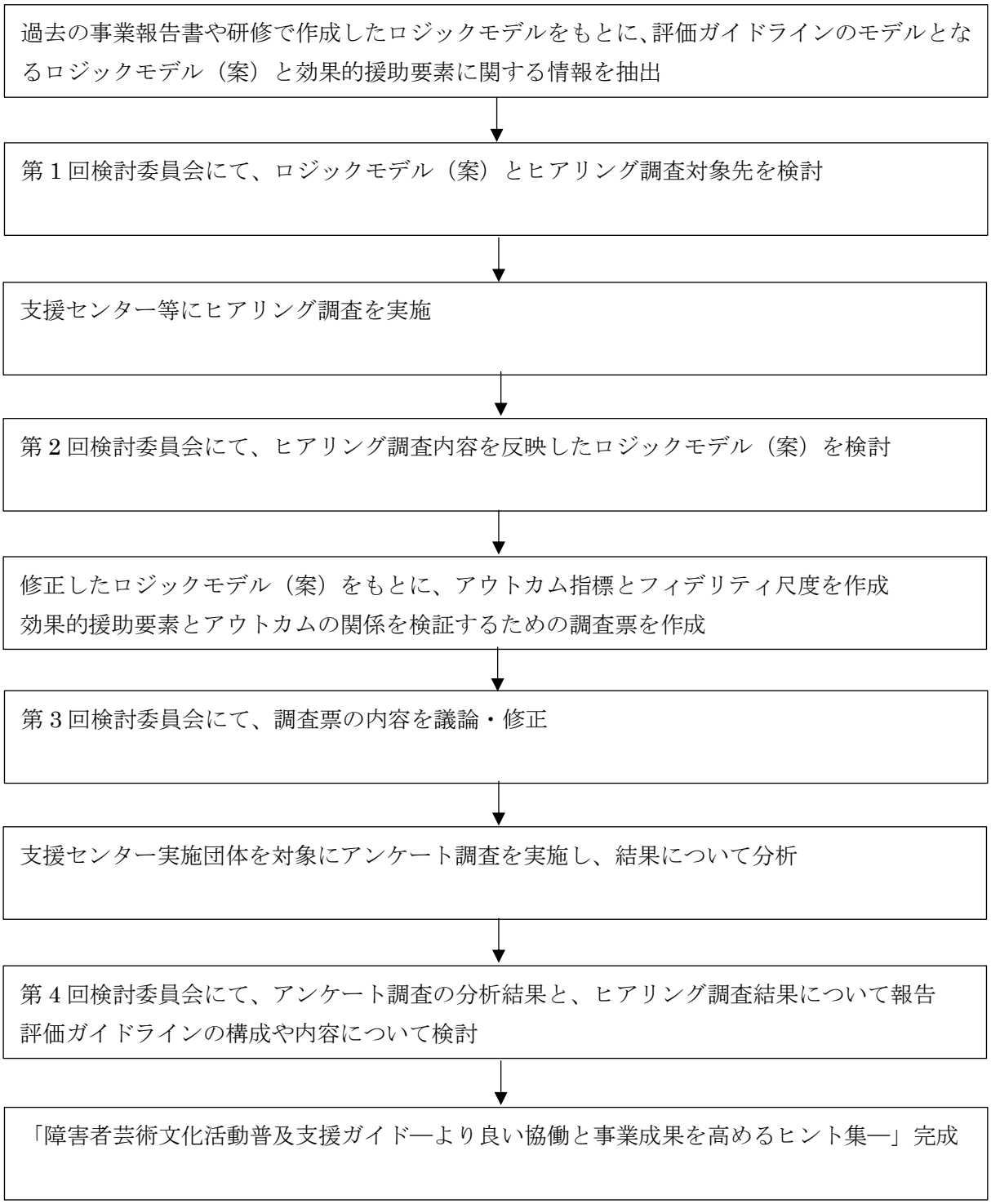
2. 本評価ガイドラインについての概要

本評価ガイドライン作成事業は、普及支援事業の事後評価や成果評価を行うための評価手法をまとめ、普及支援事業を実施する主体である自治体が使用できる評価のモデルをつくることが当初の目的であった。しかし、普及支援事業や支援センターの実情を考え、普及支援事業の今後を考えた時に、ただ成果だけを評価するのではなく、活動からの学びを事業改善に活かし、支援センターの活動を通して、普及支援事業全体により良い成果（インパクト）をもたらすことに役立つよう、プロセス評価にも着目した評価モデルを提示することとした。なぜならば、よりよい事業を実施するための評価ガイドラインを検討する中で、下記のような考えに至ったからである。

まず、結果（事実）を確実に把握することは、非常に重要である一方、「何人来場した・参加した」という結果が果たして多かったのか、少なかったのか、ということは、例えば初めて事業を行う支援センターと、すでに複数年度行ってきた支援センターとでは当然、判断が異なるものである。また、普及支援事業が行われる以前に、地域において障害者の芸術文化活動を支えていた蓄積があるかどうか等によっても判断は異なるであろう。それぞれの文脈や環境の中で、事業が生み出したものに価値を付与することが、「評価」の本質であり、特に、事業の成果を評価するにあたり大切なことは、成果につながる活動を行っていたか、活動を通して成果を志向できていたかということである。それは事業を「計画」するところから始まり、計画の段階で成果や目指したい変化を考え、適切な活動計画を検討することなしに、望ましい成果は生まれない。本評価ガイドラインを活用して、「立てた計画は実行できたか」「計画をどのように実行したのか」「実行した計画はどのような変化を生んだのか」「うまくいかなかった場合は、何が原因だったと考えられるのか」といった問いを立てながら、そこからの学びを次の計画立案や事業改善に役立ててもらえるものを、作成しようと試みた。作成のプロセスは図 2-1 のとおりである。

「3. 事業内容」で詳述するが、まず普及支援事業が目指す成果について洗い出し、成果達成までの道筋の仮説について、支援センター等にヒアリング調査を行った。その後、ヒアリング調査の結果をもとに、ロジックモデル（案）の修正を行い、実際期待されている成果を支援センターがもたらしているのか、また支援センターで行われている活動が成果を生み出しているのかについて分析すべく、支援センター実施団体を対象にしたアンケート調査を行った。また、今後評価ガイドラインを使用する主体となる自治体職員にも、これまでに自治体で行ってきた障害者の芸術文化活動支援に関する事業の評価の実情や、普及支援事業や評価ガイドラインへの期待や課題感をヒアリングし、これらのアンケート調査結果やヒアリング調査での意見を反映させ、最終的にガイドを完成した。

図 2-1[5]　評価ガイドラインの作成プロセス



[5] 図表番号の最初の数字は、各章の番号に合わせている。

3. 事業内容

3-1. ロジックモデルの作成

１）ロジックモデル作成の目的

ロジックモデルとは、あるプログラムについて「利用可能な資源（インプット）」や「計画している活動」、「活動の直接的な結果（アウトプット）」、「活動を行うことで達成が目指される成果（アウトカム）」の関わりを体系的に図式化したものである（図 3-1）[6]。

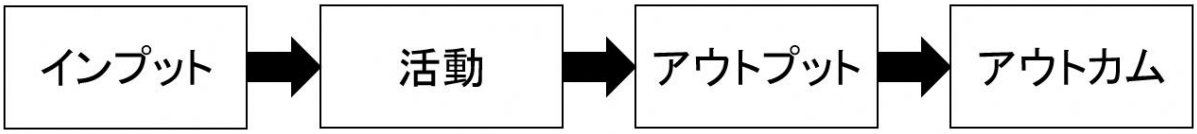


図 3-1 基本的なロジックモデル

本事業においては、普及支援事業のなかでも支援センターの取り組みに注目し、「最終的に目指される目的やそのために達成すべき成果は何か」や「目的の達成に必要と考えられる活動は何か」を分かりやすく整理するために、ロジックモデルの作成を行った。

２）ロジックモデル作成の方法

モデル事業の成果物[7]及び平成 29 年度普及支援事業の報告書[8]や各支援センターの報告書の分析や、これらの事業の実施団体等へのヒアリング調査を踏まえ作成したロジックモデル（案）を、段階的に検討委員会等において検討し、修正しながら、最終的なロジックモデルを作成した。具体的な内容は次のとおりである。

（１）検討委員会による議論

① 第 1 回検討委員会：平成 30 年 8 月 7 日（火）10 時～12 時
② 第 2 回検討委員会：平成 30 年 10 月 15 日（月）10 時～12 時
③ 第 3 回検討委員会：平成 30 年 12 月 26 日（水）13 時～15 時

（２）団体へのヒアリング調査

①対象団体

・普及支援事業実施団体　6 箇所

---

[6] W. K. Kellogg Foundation. (1998) *Logic Model Development Guide*, Michigan, W. K. Kellogg Foundation.（＝2003，財団法人農林水産奨励会農林水産政策情報瀬インター訳『ロジックモデル策定ガイド』，農林水産省）

[7]社会福祉法人グロー（2017）『障害者芸術文化活動支援センター設立・運営マニュアル』

[8]平成 29 年度障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局（2018）『平成 29 年度障害者芸術文化活動普及支援事業報告書』

・普及支援事業を行っていない障害者の芸術文化活動支援に取り組む団体　5 箇所

② 調査期間

・平成 30 年 9 月 3 日～平成 30 年 9 月 28 日

3）結果

上記の調査・検討を通して作成したロジックモデルを表 3-1 に示す。2 桁数字の行は中間アウトカムの達成に関連すると考えられるアウトカムの内容、4 桁数字の行は 2 桁数字のアウトカムの達成に関連すると考えられるアウトカムの内容、6 桁数字の行は 4 桁数字のアウトカムの達成に必要と考えられる活動の内容を示している。

表 3-1 作成したロジックモデルの内容

最終アウトカム（上位目的）			芸術文化活動を通して、障害者が社会参加できるようになる
中間アウトカム（作戦目的）			芸術文化活動を通して、障害者が個性と能力を発揮できる
01	より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる		
	0101	地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される	
		010101	地域の障害者の芸術文化活動について網羅的なアンケート調査を実施する
		010102	地域の障害者の芸術文化活動について訪問による詳細な調査を実施する
		010103	障害者の芸術文化活動に関する既存の調査結果を参照する
	0102	障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される	
		010201	支援センターに障害者が相談しやすい環境を整備する
		010202	多様な通信手段で相談を受け付ける
		010203	相談の内容に応じて、関係機関の紹介を行う
	0103	障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く	
		010301	様々な機関・団体から芸術文化活動に関する情報を得る
		010302	障害者にも分かりやすい伝え方で､芸術文化活動についての情報提供を行う
02	障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える		
	0201	障害者が作品を創造し、発表する機会が増える	
		020101	障害者の作品や障害のある芸術家を調査・発掘する

		020102	地域の障害者による作品や芸術文化活動のアーカイブ（記録及び保存）のための活動を行う
		020103	障害種別を問わず、参加可能な芸術文化活動の環境整備を支援する
		020104	展覧会や舞台公演等の機会を創出する
	0202	障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える	
		020201	障害者のニーズに合わせ、芸術文化活動を学べる場等、適切な情報提供を行う
		020202	障害者福祉施設や学校、地域の文化施設等において、障害者が芸術文化活動に参加・体験できるよう支援する
	0203	障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる	
		020301	展覧会や舞台公演等を積極的に開催している
		020302	障害者の作品をレンタル、あるいは販売する
		020303	多様なメディアを活用し、障害者の芸術文化活動を紹介する
03	障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる		
	0301	関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる	
		030101	関係者に障害者の芸術文化活動支援に必要な研修会･勉強会を行う
		030102	障害者の芸術文化活動支援に関する成功事例･失敗事例やノウハウ等をテーマ別に蓄積し、発信する
		030103	障害者と関係者がともに芸術文化活動の企画を行う
	0302	（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される	
		030201	様々な機関･専門家が参加した協力委員会等の協力体制を整え、このネットワークを活かした支援を行う
		030202	様々なネットワークを活かし、障害者の芸術文化活動支援を行う
		030203	障害者の芸術文化活動に関わる行政の担当部署や担当者と定期的に情報交換を行う
		030204	必要に応じて、法律専門家や芸術活動専門家の協力を得る
04	地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える		
	0401	地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある	
		040101	地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられるような多様な機会（イベント・ワークショップ）をつくる
		040102	地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を創出する

		040103	地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を、地域の団体が創出できるよう支援する
	0402	地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる	
		040201	支援センターについて知ってもらうためのリーフレットやウェブサイトを準備し、広報を行う
		040202	必要に応じて、障害者の芸術文化活動についてのチラシ等を作成し、地域住民向けに配布する
		040203	障害者の芸術文化活動について紹介するウェブサイトを準備し、地域住民向けに公開する
		040204	チラシやウェブサイト等の広報媒体は、デザイナーや制作会社に協力を依頼する等して作成する
		040205	地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられる多様な機会（イベント・ワークショップ・アーカイブ）についての情報を発信する

（1）最終アウトカム及び中間アウトカム

普及支援事業における支援センターが目指す最終アウトカム（上位目標）として「芸術文化活動を通して、障害者が社会参加できるようになる」と設定した。そして、中間アウトカム（作戦目的）として「芸術文化活動を通して、障害者が個性と能力を発揮できる」と設定した。

（2）近位アウトカムについて

最終アウトカム（上位目標）及び中間アウトカム（作戦目的）の達成に関連する近位アウトカムとして「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01）」「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」の 4 つを設定した。

まず、「より多くの障害者が芸術文化活動の取り組むことができる（01）」に関連するアウトカムとして「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103）」の 3 つを設定した。

次に、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」に関連するアウトカムとして「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201）」「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202）」「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203）」の 3 つを設定した。

次に、「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」に関連するアウトカムとして「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」「（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302）」の 2 つを設定した。

最後に、「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」に関連するアウトカムとして「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401）」「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402）」の 2 つを設定した。

（3）活動について

①「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01）」の達成に必要と考えられる活動

まず、「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」を達成するために必要と考えられる活動として「地域の障害者の芸術文化活動について網羅的なアンケート調査を実施する（010101）」「地域の障害者の芸術文化活動について訪問による詳細な調査を実施する（010102）」「障害者の芸術文化活動に関する既存の調査結果を参照する（010103）」の 3 つを設定した。

次に、「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」を達成するために必要と考えられる活動として「支援センターに障害者が相談しやすい環境を整備する（010201）」「多様な通信手段で相談を受け付ける（010202）」「相談の内容に応じて、関係機関の紹介を行う（010203）」の 3 つを設定した。

そして、「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103）」を達成するために必要な活動として「様々な機関・団体から芸術文化活動に関する情報を得る（010301）」「障害者にも分かりやすい伝え方で、芸術文化活動についての情報提供を行う（010302）」の 2 つを設定した。

②「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」の達成に必要と考えられる活動

まず、「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201）」を達成するために必要と考えられる活動として「障害者の作品や障害のある芸術家を調査・発掘する（020101）」「地域の障害者による作品や芸術文化活動のアーカイブ（記録及び保存）のための活動を行う（020102）」「障害種別を問わず、参加可能な芸術文化環境整備を支援する（020103）」「展覧会や舞台公演等の機会を創出する（020104）」の 4 つを設定した。

次に、「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202）」を達成するために必要な活動として「障害者のニーズに合わせ、芸術文化活動を学べる場等、適切な情報提供を行う（020201）」「障害者福祉施設や学校、地域の文化施設等において、障害者が芸術文化活動に参加・体験できるよう支援する（020202）」の 2 つを設定した。

そして、「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203）」を達成するために必要な活動として「展覧会や舞台公演等を積極的に開催している（020301）」「障害者の作品をレンタル、あるいは販売する（020302）」「多様なメディアを活用し、障害者の芸術文化活動を紹介する（020303）」の 3 つを設定した。

③ 障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）の達成に必要と考えられる活動

まず、「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」を達成するために必要な活動として「関係者に障害者の芸術文化活動支援に必要な研修会・勉強会を行う（030101）」「障害者の芸術文化活動支援に関する成功事例・失敗事例やノウハウ等をテーマ別に蓄積し、発信する（030102）」「障害者と関係者がともに芸術文化活動の企画を行う（030103）」の 3 つを設定した。

次に、「（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302）」を達成するために必要な活動として「様々な機関・専門家が参加した協力委員会等の協力体制を整え、このネットワークを活かした支援を行う（030201）」「様々なネットワークを活かし、障害者の芸術文化活動支援を行う（030202）」「障害者の芸術文化活動に関わる行政の担当部署や担当者と定期的に情報交換を行う（030203）」「必要に応じて、法律専門家や芸術活動専門家の協力を得る（030204）」の 4 つを設定した。

④ 地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）の達成に必要と考えられる活動

まず、「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401）」を達成するために必要な活動として「地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられるような多様な機会（イベント・ワークショップ）をつくる（040101）」「地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を創出する（040102）」「地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を、地域の団体が創出できるように支援する（040103）」の 3 つを設定した。

次に、「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402）」を達成するために必要な活動として「支援センターについて知ってもらうためのリーフレットやウェブサイトを準備し、広報を行う（040201）」「必要に応じて、障害者の芸術文化活動についてのチラシ等を作成し、地域住民向けに配布する（040202）」「障害者の芸術文化活動について紹介するウェブサイトを準備し、地域住民向けに公開する（040203）」「チラシやウェブサイト等の広報媒体は、デザイナーや制作会社に協力を依頼する等して作成する（040204）」「地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられる多様な機会（イベント・ワークショップ・アーカイブ）についての情報を発信する（040205）」の 5 つを設定した。

４）まとめ

上記で述べたように、普及支援事業実施団体等へのヒアリング調査や検討委員会による議論を重ね、普及支援事業における支援センターのロジックモデルを作成した。

その結果、「芸術文化活動を通して、障害者が社会参加できるようになる」という最終アウトカム及び「芸術文化活動を通して、障害者が個性と能力を発揮できる」という中間アウトカムのもとに「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01）」「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」の 4 つのアウトカム、それらを達成するための様々な活動からなるロジ

ックモデルを作成した。

このロジックモデルは、普及支援事業を実施している団体、あるいは障害者の芸術文化活動について全国的にも先進的な実践に取り組み、成果をあげている団体の意見を反映し、作成したものである。今回、ヒアリング調査を経て、普及支援事業における支援センターのロジックモデルを作成する中で、全国の先進的かつ実際に成果をあげている取り組みの全体像を可視化できたことは有意義であったと考えられる。

3-2. 効果的援助要素の作成

１）効果的援助要素作成の目的

次に、成果の達成に関連する具体的な活動内容を示すため、「3-1. ロジックモデルの作成」で示したロジックモデルの「効果的援助要素」を整理し、詳細に記述した。効果的援助要素とは、あるプログラムが成果の達成を目指す上で、重要となる実施要素（成果の達成につながる活動の詳細）である[9][10]。

２）効果的援助要素作成の方法

効果的援助要素についても、ロジックモデルの作成と同様、モデル事業の成果物や平成 29 年度普及支援事業の報告書の分析や、これらの事業の実施団体等へのヒアリング調査を踏まえ作成した効果的援助要素（案）を、段階的に検討委員会において検討し、修正しながら作成した。

なお、モデル事業の成果物や平成 29 年度普及支援事業の報告書の分析は、「ロジックモデルに設定したアウトカムを達成するための効果的な取り組みは何か」「ロジックモデルに設定した活動のより詳細な取り組み内容は何か」という視点にもとづいて行った。

３）結果

上記の調査・検討を通して作成した効果的援助要素の概要を表 3-2 に示す。また、これら効果的援助要素の詳細については、本報告書の「６．資料（調査票②）」の部分に掲載してある調査項目を参照していただきたい[13]。

（１）A 領域　より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援

A 領域は、支援センターが地域の障害者の芸術文化活動に関する実情を理解し、これらの情報を活用しながら障害者の相談事に対応したり、必要な情報を提供したりすることを想定し、そのための活動内容を規定している。具体的には、A1 から A3 までの 3 項目、24 要素で構成されている。

9　新藤健太・大島巌・浦野由佳・ほか（2017）「障害者就労移行支援プログラムにおける効果モデルの実践への適用可能性と効果的援助要素の検討―全国 22 事業所における 1 年間の試行的介入研究の結果から」『社会福祉学』58(1), 57-70

10 「援助」という言葉が含まれているが、本事業における効果的援助要素は、いわゆるサービス利用者や当事者への「個別・直接援助」を指しているのではなく、あくまでもプログラム（事業や施策等）が成果を生み出すことに貢献する重要な「要素」を意味している。

13 この「調査票②」に規定されている一つ一つの設問（例えば、『□ 様々な団体・施設を対象とした障害者の芸術文化活動の現状把握のためのアンケート調査を実施している』）が効果的援助要素である。

表 3-2　作成した効果的援助要素の概要

A 領域　より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援
- A1　地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動（10 要素）
- A2　障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決するための活動（10 要素）
- A3　障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動（4 要素）

B 領域　障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会を増やすための支援
- B1　障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動（8 要素）
- B2　障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動（3 要素）
- B3　障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動（9 要素）

C 領域　障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うための取り組み
- C1　関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動（9 要素）
- C2　障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動（7 要素）

D 領域　地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み
- D1　地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動（6 要素）
- D2　地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素）

この領域の主な特徴は、地域の障害者の芸術文化活動の実情を理解するための「網羅的なアンケート調査」や「現状把握のための現場訪問調査」、障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決するための「相談を受け付ける環境の整備」、障害者に必要な情報を提供するための「障害者の芸術文化活動に関する情報収集とその提供の仕組み」等を規定している点にある。

（2）B 領域　障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会を増やすための支援

B 領域は、障害者が作品を創造し、発表する機会の増加や、障害者の技術向上のための機会の増加、障害者の芸術文化活動に対する社会的な認知を向上させるための活動内容を規定しており、具体的には、B1 から B3 までの 3 項目、20 要素で構成されている。

この領域の主な特徴は、障害者が作品を創造し、発表する機会を増加させるための「作品及び作家の調査・発掘」や「展覧会や舞台公演等の機会創出」、障害者の作品制作や表現の技術向上機会を増やすための「適切な情報提供」や「福祉施設等への専門家の派遣・紹介」、障害者の芸術文化活動に対する社会的な認知を向上させるための「作品売買・グッズ化の仕組み」や「メディアを活用した障害者の芸術文化活動の紹介」等を規定している点にある。

（3）C 領域　障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い活動を行うための取り組み

C 領域は、福祉施設や文化施設等で関係者が質の高い活動を行うために、必要な知識やスキル等を身に着けるための取り組みを想定しており、具体的には C1 から C2 までの 2 項目、16 要素で構成されている。

この領域の主な特徴は、福祉施設や文化施設等で関係者が必要な知識やスキルを身に着けるための「研修会・勉強会の企画」や「成功事例や失敗事例のノウハウ等の蓄積とその発信」、障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化するための「協力委員会等の体制整備」や「団体間の定期的な情報交換」等を規定している点にある。

（4）D 領域　地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み

D 領域は、地域住民やボランティア等、地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすために必要な取り組みを想定しており、具体的には D1 から D2 までの 2 項目、10 要素で構成されている。

この領域の主な特徴は、地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための「展覧会・舞台公演等の機会創出」や「祭り等の地域行事に障害者の芸術文化活動が参加すること」、「保育園・幼稚園や学校等を訪問し、児童や学生が障害者の芸術文化活動に触れる機会をつくること」、地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための「障害者の芸術文化活動に関するリーフレットやウェブサイトを通した情報発信」等を規定している点にある。

4）まとめ

「3-1. ロジックモデルの作成」で示したロジックモデルを手掛かりに、その活動部分についての効果的援助要素を作成することで、より詳細な活動の記述を試みた。

具体的には「A 領域：より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援」、「B 領域：障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会を増やすための支援」、「C 領域：障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い活動を行うための取り組み」、「D 領域：地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み」の 4 領域からなる効果的援助要素を作成した。

これら効果的援助要素は、普及支援事業の実施団体に加え、普及支援事業を行っていない全国の先進的な事例も参考にして、作成したものであり、全国的に成果を上げている実践事例の取り組みを詳細に記述している点で、今後、評価ガイドラインが活用されるそれぞれの実践現場で、ある程度模倣可能な状態となっており、事業改善の点から有効なものであると考えられる。

3-3. 普及支援事業実施団体等へのヒアリング調査

「3-1. ロジックモデルの作成」と「3-2. 効果的援助要素の作成」で述べたとおり、報告書等からでは読み取れない現場の声や実践をロジックモデルおよび効果的援助要素の作成に反映させるために、普及支援事業実施団体等へのヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査の進め方は、下記のとおりである。

①ヒアリング調査先の抽出・決定

②ヒアリング調査実施

③ヒアリング調査内容のまとめ

以下、調査の進め方に沿ってその結果を記す。

1）ヒアリング調査先の抽出・決定（10 団体程度）

（1）過去の実績より抽出

まず、モデル事業及び普及支援事業の両方の実績がある 10 団体を抽出した。抽出するにあたって、普及支援事業の実績は必須とし、より中間支援的な視点を持っている広域センターや連携事務局[15]からも意見を聞くこと、また広域センター・連携事務局と支援センターをバランスよく含むこと、障害者の芸術文化活動に関する実績が長いこと、美術分野を得意とする団体と舞台芸術分野を得意とする団体をバランスよく抽出すること、を基準とした。その結果、表 3-3-1 に示す 10 団体を抽出した。

表 3-3-1　ヒアリング調査先候補の抽出（厚生労働省事業の過去の実績より）

No.	団体名	都道府県	エリア	活動	モデル事業実績（年度）			普及支援事業実績（年度）	
					26	27	28	29	30
1	社会福祉法人ゆうゆう	北海道	北海道 北東北	美術・ 舞台芸術	—	○	○	広域センター	
2	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパ	宮城	南東北	美術・ 舞台芸術	○	○	○	支援センター	
3	社会福祉法人みぬま福祉会	埼玉	南関東 甲信越	美術・ 舞台芸術	—	—	○	支援センター	

[15]普及支援事業の広域センター（障害者芸術文化活動広域支援センター）とは、全国を 7 つのブロックに分け、各ブロックに設置されている支援拠点である。主な業務は、各ブロック内の支援センターや支援センター未実施の地域における支援や、ブロック内のネットワークづくりなどである。連携事務局とは、支援センターや広域センターの支援やネットワークづくりを行う全国的な支援拠点である。

4	社会福祉法人 愛成会	東京	南関東 甲信越	美術・ 舞台芸術	○	○	○	広域センター	
5	特定非営利活動法人 スローレーベル	神奈川	南関東 甲信越	美術・ 舞台芸術	―	○	―	支援センター	―
6	社会福祉法人 みんなでいきる	新潟	東海北陸	美術・ 舞台芸術	―	―	○	広域センター	
7	社会福祉法人グロー	滋賀	近畿・ 全国	美術・ 舞台芸術	○	○	○	支援センター・連携事務局	
8	一般財団法人 たんぽぽの家	奈良	近畿	美術・ 舞台芸術	○	○	○	支援センター	広域センター
9	社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会	大阪府	近畿・ 全国	美術・ 舞台芸術	―	―	―	支援センター・連携事務局	
10	社会福祉法人はる	佐賀	九州	美術・ 舞台芸術	―	○	○	支援センター	

（2）第 1 回検討委員会での意見

（1）で抽出したヒアリング調査先候補について、第 1 回検討委員会（平成 30 年 8 月 7 日）で、検討委員の意見を仰いだ。検討委員からは、「新しい観点を引き出すために、普及支援事業は実施していないが、障害者の芸術文化活動支援を行っている実績ある団体にもヒアリング調査すべきではないか」という意見が出された。また、公立文化施設等での障害者の芸術文化活動の事例も複数あり、参考になる観点が引き出せるのではないかという指摘もあった。加えて、検討委員から具体的なヒアリング調査先の候補も提案され、アーツカウンシル等の中間支援を担う組織や公立文化施設なども含め、14 の普及支援事業を行っていないが障害者の芸術文化活動支援の実績がある団体・施設も調査先として、候補に上がった。

（3）ヒアリング調査先の決定

（2）の検討委員会での意見を踏まえ、（1）で予定していたヒアリング調査先候補 10 団体の内、候補先を 6 つに絞り、普及支援事業を行っていないが障害者の芸術文化活動支援の実績がある団体・施設 14 団体のうち、5 団体を加え、最終的に下記の 11 団体をヒアリング調査先として決定した。（表 3-3-2）その際、障害者の芸術文化活動の実績が長いこと、美術と舞台芸術の両分野の活動について、バランスよく話を聞けることを基準とした。

表 3-3-2　決定したヒアリング調査先

No.	団体名	都道府県	活動
1	社会福祉法人みぬま福祉会	埼玉	美術・舞台芸術
2	特定非営利活動法人スローレーベル	神奈川	美術・舞台芸術
3	社会福祉法人グロー	滋賀	美術・舞台芸術
4	一般財団法人たんぽぽの家	奈良	美術・舞台芸術
5	社会福祉法人大阪障害者自立支援協会	大阪府	美術・舞台芸術
6	社会福祉法人はる	佐賀	美術・舞台芸術
7	特定非営利活動法人ダンスボックス	兵庫	舞台芸術
8	可児市文化創造センター（公益財団法人 可児市文化芸術振興財団）	岐阜	舞台芸術中心
9	社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館	福島	美術
10	アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	神奈川	美術・舞台芸術
11	認定特定非営利活動法人 ST スポット横浜	神奈川	美術・舞台芸術

２）ヒアリング調査の内容と質問項目

（１）ヒアリング調査の内容

第 1 回検討委員会を経て整理した普及支援事業のロジックモデル（案）を共有し、実践現場からの知見を聴取し、案に記載されていないアウトカムの発掘や事業がもたらしている波及効果等について意見を聞いた。また、事業が目指す成果や、既に生まれている成果を出すために行っている効果的な活動やアプローチ、支援や連携の中での工夫等について確認した。

（２）ヒアリング調査の質問項目

ヒアリング調査を実施する際の質問項目として、普及支援事業実施団体用、普及支援事業未実施の団体用の 2 種類の訪問面接票を用意した[16]。また、各ヒアリング調査実施時には、ヒアリング調査先にロジックモデル（案）を共有し、説明をしながら各項目に関する取り組みや工夫、本評価ガイドライン作成事業に求めることを聞いた。

３）ヒアリング調査内容のまとめ

ヒアリング調査においては、評価ガイドラインの全体像や目的から、ロジックモデル（案）の項目や表現等について、幅広く多様な意見をいただいた。評価ガイドラインの在り方や構成に大きく関わる意見について要点をまとめ、以下、表 3-3-3 のとおり整理した。

16 それぞれの訪問面接票に関しては、巻末を参照

表 3-3-3　支援センターへのヒアリング調査結果（要約）

No.	質問項目		ヒアリング調査結果
1	普及支援事業に期待すること、目指している支援センター機能について		➢ 普及支援事業は、今後、福祉施設をベースにした活動を拡散していくイメージなのか、地域共生や第 3 の居場所、地域参加に向かっていくものになるのかによっても、支援センターに期待される機能や役割、評価の軸が変わるのではないか。 ➢ 支援センターの法人格や活動内容に関わらず、重要なのは連携やネットワーク作りである。 ➢ 各支援センターで得意分野や専門にしていることがあると思うが、どんな支援センターにおいても、コーディネーターやつなぎ手としての支援センターの役割が非常に重要であり、支援センターとしての意義がある。 ➢ 経験の長い団体から、新設の支援センターが学べることや、舞台芸術支援に長けている団体から、その部分を強化したい団体が学べることも、全国的に行っている普及支援事業の強みであり、支援センターを行っている団体が、互いに期待していることではないか。
2	ロジックモデル（案）について	全体について	➢ 全体として「支援する・される」というトーンが強いため、書き方や表現に工夫が必要ではないか。 ➢ アウトカムを厳密に決めすぎると、多様な組織の個々の取り組みが評価されにくくなるため、もう少し粒度の大きいアウトカムにしたほうがいいのではないか。 ➢ 美術と舞台芸術の共通の成果もあるが、特徴的なものもある。美術活動でもたらしやすい成果や、舞台芸術活動にしかできない成果等もあり、この部分を理解していないと、中途半端な評価になってしまうのではないか。

		個別のアウトカムについて	➢ 「自立」の定義が難しいため、アウトカムとして採用するには疑問が残る。 ➢ 福祉施設にとって芸術活動は手段であってゴールではないと考えているため、特に上位のアウトカムに関しては、支援センターを行う団体のミッションやビジョンとの関係性の整理と、その中でどう支援センターとして活動していくのかを明確にする必要性を感じた。 ➢ 地域のアート系 NPO や芸術文化団体は、障害者だけ、または障害者の自立を支援するために活動しているわけではないため、普及支援事業との両立は難しい。 ➢ 芸術文化活動の支援を通じて、障害者福祉施設の中で活動の選択肢増えることだけでなく、それ以外の地域のリソース中で、居場所や活動の場所が増えていくことにもつながれば、最終的に障害者の社会参加につながるのではないか(「障害」というラベリングの外に出すことが芸術文化活動の役割ではないか)と思うため、そのような視点でアウトカムが整理できると良いのではないか。 ➢ 「就労や働き方の幅が広がる」という項目に関しては、障害の有無に関わらず芸術文化活動において、大きな問題である。「働く」ということに結びつかなくても、娯楽や趣味の延長線で芸術文化活動の恩恵を受けている障害者も多いため、アウトカムについて再考の余地があるのではないか。 ➢ 売れる(売るための)「障害者の芸術活動・作品」と美術史の中の「障害者の芸術活動・作品」は区別して考えるべきであり、普及支援事業が目指すものが何かを整理した方がいいのではないか。
3	本事業や評価運用に関する所感		➢ 行政・自治体だけが評価するのは難しいと思うため、各支援センターが自己評価に使えるものになるとよい。または、ピアレビュー[17]を行ったり、専門家等と一緒に活用できるものだと良い。 ➢ 評価の結果が良い・悪いで判断されるものではなく、事業改善に活かす、活用していくために使うものだということを明記してほしい。

[17] 立場や職種が同じ、または近い者同士の間で行う成果の評価・検証

		➢ 組織の実施体制に関する指標と、アウトカムとは別の事業の流れを整理したプロセス指標が別途あったほうが、評価自体は運用しやすくなるのではないか。 ➢ 事業に関わる多様な関係者が集まって評価を実施する等、この評価ガイドラインの使い方を明記することが重要であり、自治体を含め使い手に対して周知してほしい。 ➢ 客観的に自分たちの事業を評価し、それが自身の活動につながるものになるので、活用したい。 ➢ 数値だけでなく、定性的なデータやエピソード抽出等も盛り込める余地があるのか関心がある。

４）考察

モデル事業や平成 29 年度の普及支援事業の報告書等から抽出した要素から構築したロジックモデル（案）に対し、支援センターで障害者の芸術文化活動の支援を行っている方々や、普及支援事業を実施していなくても、多様な形で障害者の芸術文化活動に関わっている方々から直接意見を聞くことができたことは、本評価ガイドライン作成事業にとって貴重であった。また、ロジックモデル（案）を改訂し、評価ガイドライン作りを進めていく中で、検討すべき視点を複数与えていただいた。

まず１つ目は、支援センター等の多くが、障害者の芸術文化活動の場を提供していたり、直接的な支援を行っている、あるいは行ってきた経緯があることから、「障害者の芸術文化活動の成果」と、「障害者の芸術文化活動の普及とそれに伴う支援の成果」及びこれらに伴う評価の視点を混同してしまうのではないか、ということだった。この点については、過去の報告書からは「どこまでが支援センターの事業なのか」ということが把握しきれなかったこともあり、ヒアリング調査による新たな気づきであった。勿論、支援センターが直接的に参加型展覧会を開催することも支援センターに望まれる業務として、普及支援事業に組み込まれており、上記 2 種の成果が重なる部分がある反面、コーディネーターやつなぎ手といった中間支援的役割を果たす支援センターの機能や果たすべきアウトカムを、改めて整理する必要性を認識した。

２つ目は、障害の有無に限らず、すべての人が芸術文化を享受できるような共生社会が実現することや、差別のない社会が実現するというゴールや目的意識は、ヒアリング調査を行った団体には共通して存在しているのではないかと察することができた。しかし、障害者の芸術文化活動において、美術と舞台芸術の活動支援におけるアウトカムの違いや、福祉団体と地域の文化・芸術団体の「障害者の芸術文化活動」への取り組みや視点、考え方の違いが顕著であることが分かった。この点に関しては、支援センターや広域センターを行っている団体のミッションやスタンスにもとづく「障害者の文化芸術活動」への取り組みに違いがあることが当然だとしたとき、その違いをどうすり合わせながら、普及支援事業において、支援センターが中間支援的役割を担い、様々な地域資源を有機的な連携によって、生み出すことができるのか、またそのような役割を担う支援センターの評価軸をどう構成していくかを再考する機会となった。

最後に、本評価ガイドラインを利用する主体（支援センターや自治体）同士が一緒にプロセスやアウトカムを評価したり、その活用方法を明示することで、より普及支援事業自体の成果を高めていくことにつながるのではないかと感じた。「評価」というものに対する認識の違いもあり、普及支援事業自体がまだ完全に全国に普及していないことを考えたときに、ただ評価の軸や指標を提示するのではなく、使い方についての丁寧な言及や、評価結果の捉え方や活用方法についての説明が必要だということを理解した。

ヒアリング調査に基づくこれらの考察を、第 2 回及び第 3 回検討委員会で、検討委員と共有し、ロジックモデル（案）の改訂にあたり検討委員会での意見を参考にした。評価ガイドライン作成事業全体に関することや評価ガイドラインの運用について得られた意見に関しても、評価ガイドラインの作成のプロセスに反映した。

3-4. 支援センターへの質問紙調査

１）調査の目的

3-3．までに説明をしてきたプロセスを経て、ロジックモデル（案）や効果的援助要素（案）を見直した。そして、見直しや改善を加えたロジックモデル（案）や効果的援助要素（案）の 2 つが本当に意図したアウトカムの達成に関連するのかといったことを体系的には検証するため、全国の支援センターを対象に質問紙調査を実施し、その結果を分析することで、ロジックモデル（案）や効果的援助要素（案）に設定した活動内容と意図したアウトカムの関連を検証した。

２）方法

（１）調査の時期

・平成 31 年 1 月 22 日から平成 31 年 2 月 17 日

（２）調査対象

・平成 29・30 年度に普及支援事業を実施し、支援センターを務めたことのある団体

・平成 29・30 年度に普及支援事業を実施し、広域センターを務めたことがあり、モデル事業を実施した団体

計 32 か所

以下、これらの団体を「支援センター実施団体」という。

（３）調査の方法

・2 種類の調査票による郵送自記式調査

（４）調査の内容（調査項目）

・支援センターの基本情報（実施団体の運営形態、普及支援事業・モデル事業の開始時期、どのような種類の障害者芸術文化活動支援に従事しているか等）

・ロジックモデルに設定したアウトカムに関する情報（芸術文化活動に参加する障害者の人数、発表・創造機会の増加、地域住民の関心、地域住民の来場者数等）

・ロジックモデルに設定した活動に関する情報（効果的援助要素の実施状況）

なお、効果的援助要素の実施状況については、効果的援助要素に規定した活動内容がどの程度実施されているのかを確認するための尺度として、フィデリティ尺度（レーティング基準）を作成して調査に用いた。

フィデリティ尺度とは、「あるプログラムが規定したプログラムモデルの基準に準拠している程度を測定するための尺度[18]」であり、「モデル適合度」や「実践度」と訳されるものである。ロジックモデルに設定した活動内容の基準にどの程度行っている活動が準拠しているかを測定するための尺度であり、通常、それぞれの項目を 1 点から 5 点で評点することができるとされている（表

[18] Bond, G. R., Evans, L., Salyers, M. P. et al. (2000) Measurement of Fidelity in Psychiatric Rehabilitation, *Mental Health Services Research*, 2, 75-87

3-4-1）。

表 3-4-1　一般的なフィデリティ尺度の評点基準[19]

1 点；効果的な支援内容が殆ど行われていない
2 点；効果的な支援内容が一部に行われている
3 点；効果的な支援内容が中程度に行われている
4 点；効果的な支援内容が一定レベルで適切に行われている
5 点；日本の現状からみて、現時点で望まれる効果的な支援内容

このように、通常、フィデリティ尺度においては各項目 4 点「効果的な支援内容が一定レベルで適切に行われている」を目指してプログラムに取り組むことを基本とする。そのため、本評価ガイドライン作成事業においても表 3-4-1 示した基準を参照しながら、「効果的と思われる実践であればフィデリティ尺度得点が 4 点以上になる」ことを念頭に置き、評点の設定を行った。

また、これらの調査票については本報告書の「６．資料」の部分に掲載してある「調査票①」及び「調査票②」を参照していただきたい。

３）結果及びその分析

全国の支援センター実施団体 32 箇所のうち 21 箇所（回収率 66%）から回答があり、これらの回答を対象として分析を行った。

（１）支援センター実施団体の基本情報

まず、回答のあった支援センター実施団体の基本情報を集計した結果は表 3-4-2 の通りである。

表 3-4-2　運営形態（調査票①；問 1）（N 21）

運営形態	団体数	%
障害者福祉施設（入所・通所含む）	11	52.4
芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	4	19.0
文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	0	0.0
保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級含む）	0	0.0
コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）	0	0.0
その他	6	28.6
合計	21	100.0

調査票に回答した支援センター実施団体の運営形態について、半数以上が「障害者福祉施設」、それ以外では「芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等」であった。なお、「文化施設」、「保育園、幼稚園、学校」、「コミュニティスペース」は 0 件であった。

[19] 大島巌 (2012)「CD-TEP 円環的対話型評価アプローチ法実践ガイド」, 平成 22 年度文部科学省・科学研究費補助金基盤研究（A）（主任研究者：大島巌）

このことから、支援センター実施団体の約半数は、すでに障害者支援についてのノウハウを有していることが分かる。

次に、平成 29 年度以前に、普及支援事業やモデル事業を行ったかについて確認し、普及支援事業やモデル事業を行った場合は、いつどの事業を行ったかについて聞いた。結果を以下、表 3-4-3 と表 3-4-4 にまとめる。

表 3-4-3　平成 29 年度以前に普及支援事業あるいはモデル事業を行った経験
（調査票①；問 2）（N 21）

経験の有無	団体数	%
あり	13	61.9
なし	7	33.3
無回答	1	4.8
合計	21	100.0

表 3-4-4　平成 29 年度以前にいつどの事業を行ったか（調査票①；問 3）（N 13）

事業の内容	団体数	%
平成 26 年度　モデル事業	1	7.7
平成 27 年度　モデル事業	3	23.1
平成 28 年度　モデル事業	5	38.5
平成 29 年度　普及支援事業支援センター	11	84.6
平成 29 年度　普及支援事業広域センター	2	15.4
平成 29 年度　普及支援事業連携事務局	1	7.7

分析対象となる支援センター実施団体の 61.9%が、平成 29 年度以前に普及支援事業あるいはモデル事業の経験がある団体であった。また、普及支援事業あるいはモデル事業を行っていた経験のある 13 団体の内訳は表 3-4-4 示したとおりであり、その殆どが「平成 29 年度普及支援事業都道府県センター」を行っていたことが分かった。

次に、分析対象となった支援センター実施団体が、普及支援事業とは別に障害者の芸術文化活動支援に取り組み始めた時期を以下、表 3-4-5 に示す。最も長い団体では 1994（平成 6）年から、新しい団体では 2018（平成 30）年から取り組みを始めていた。

表 3-4-5　障害者の芸術文化活動支援に従事し始めた年（調査票①；問 4）（N 21）

年	団体数	%
1994（平成 6）年	1	4.8
1995（平成 7）年	1	4.8
2000（平成 12）年	1	4.8
2005（平成 17）年	1	4.8
2011（平成 23）年	1	4.8
2014（平成 26）年	3	14.3
2015（平成 27）年	5	23.8
2016（平成 28）年	2	9.5
2017（平成 29）年	3	14.3
2018（平成 30）年	3	14.3
合計	21	100.0

また分析対象となった支援センター実施団体がどのような種類の障害者の芸術文化活動に関する情報提供や相談支援を行っているかについて尋ねた結果を以下、表 3-4-6 にまとめた。

表 3-4-6　どのような種類の障害者の芸術文化活動に関する情報提供や相談支援を行っているか（調査票①；問 5-1）（N 21）

主な活動内容	団体数	%
美術分野のみ	8	38.1
舞台芸術分野のみ	0	0.0
美術分野を中心に、舞台芸術分野についても行っている	10	47.6
舞台芸術分野を中心に、美術分野についても行っている	2	9.5
両方バランスよく行っている	1	4.8
その他	0	0.0
合計	21	100.0

分析対象となった支援センター実施団体のうち、38.1%が「美術分野のみ」、47.6%が「美術分野を中心に、舞台芸術分野についても行う」活動であることが分かった。つまり、「美術分野のみ、あるいは美術分野を中心とした活動」に取り組んでいる団体が 85.7%であり、支援センター実施団体の多くが「美術分野」の活動に軸足を置いた団体であることが分かった。

次に、分析対象となった支援センター実施団体が、どのような障害のある人と支援センター事業を通して関わっているかについて尋ねた結果を表 3-4-7 にまとめた。全体的な傾向として「知的障害」、「発達障害」、「精神障害」の割合が高い傾向にあることが分かった。

表 3-4-7　どのような障害のある人と関わっているか（調査票①；問 6）（N 21）

障害種別	団体数	%
肢体不自由	18	85.7
視覚障害	14	66.7
聴覚障害	14	66.7
内部障害	11	52.4
知的障害	21	100.0
発達障害	20	95.2
精神障害	19	90.5
音声、言語、そしゃく機能障害	7	33.3
その他	2	9.5

（2）事業の実情及び成果

次に、分析対象となった支援センター実施団体の事業の実情や成果の状況について、集計した。

まず「担当する都道府県における障害者の芸術文化活動への参加程度」について尋ねた結果を、以下表 3-4-8 にまとめた。

表 3-4-8　担当都道府県における障害者の芸術文化活動への参加程度（調査票①；問 7）（N 21）

設問	かなりいる	少しいる	あまりいない	全くいない	無回答
	団体数（%）				
7-1. 芸術文化の直接鑑賞（※）を行っている障害者の数	5 (23.8)	10 (47.6)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
7-2. 芸術文化のイベントやワークショップ等へ参加する障害者の数	4 (19.0)	11 (52.4)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
7-3. 芸術文化の創造活動に参加する障害者の数	8 (38.1)	10 (47.6)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
7-4. 芸術文化に関する作品制作や表現の技術向上の機会（レッスン等）に参加する障害者の数	4 (19.0)	9 (42.9)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
7-5. 芸術文化活動に対して自ら主体的に取り組む障害者の数	5 (23.8)	10 (47.6)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
7-6. 芸術文化活動を通して自分の特技を生かせている障害者の数	1 (4.8)	10 (47.6)	9 (42.9)	0 (0.0)	1 (4.8)
7-7. 芸術文化活動に触れる・関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数	5 (23.8)	14 (66.7)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)

7-8. 複数の芸術文化活動のプログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数	3 (14.3)	6 (28.6)	10 (47.6)	1 (4.8)	1 (4.8)
7-9. 友人や地域の人たちとつながりながら、芸術文化活動に参加する障害者の数	3 (14.3)	8 (38.1)	9 (42.9)	0 (0.0)	1

※「直接鑑賞」とは、ホール・劇場・映画館・博物館等で芸術文化を直接鑑賞した経験を指す。

分析対象の支援センター実施団体の中では、「7-3. 芸術文化の創造活動に参加する障害者の数」や「7-7. 芸術文化活動に触れる・関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数」等について「かなりいる」もしくは「少しいる」と回答した団体が多かった。

一方で、「7-8. 複数の芸術文化活動のプログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数」や「7-9. 友人や地域の人たちとつながりながら、芸術文化活動に参加する障害者の数」については約 4 割の地域において「あまりいない」と回答される状況があった。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりいる（4 点）」、「少しいる（3 点）」、「あまりいない（2 点）」、「全くいない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当する都道府県における障害者の芸術文化活動への参加程度に関する変化（普及支援事業・モデル事業開始時点からの変化）」について尋ねた結果を、以下表 3-4-9 にまとめた。

表 3-4-9　担当都道府県における障害者の芸術文化活動への参加程度
（普及支援事業・モデル事業開始時点と現在の比較）（調査票①；問 8）（N 21）

設問	とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	とても減っている	無回答
	団体数（%）					
8-1. 芸術文化の直接鑑賞（※）を行っている障害者の数	2 (9.5)	10 (47.6)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-2. 芸術文化のイベントやワークショップ等へ参加する障害者の数	1 (4.8)	11 (52.4)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-3. 芸術文化の創造活動に参加する障害者の数	4 (19.0)	9 (42.9)	7 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-4. 芸術文化に関する作品制作や表現の技術向上の機会（レッスン等）に参加する障害者の数	1 (4.8)	11 (52.4)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-5. 芸術文化活動に対して自ら主体的に取り組む障害者の数	1 (4.8)	10 (47.6)	9 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)

8-6. 芸術文化活動を通して自分の特技を生かせている障害者の数	1 (4.8)	7 (33.3)	12 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-7. 芸術文化活動に触れる･関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数	3 (14.3)	12 (57.1)	5 (23.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-8. 複数の芸術文化活動のプログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数	1 (4.8)	8 (38.1)	11 (52.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
8-9. 友人や地域の人たちとつながりながら､芸術文化活動に参加する障害者の数	0 (0.0)	7 (33.3)	13 (61.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)

※「直接鑑賞」とは、ホール・劇場・映画館・博物館等で芸術文化を直接鑑賞した経験を指す。

分析対象の支援センター実施団体では、「8-7. 芸術文化活動に触れる・関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数」や「8-3. 芸術文化の創造活動に参加する障害者の数」については「増えている（とても増えている・少し増えている）」と回答した団体が多かった。

一方で、「8-9. 友人や地域の人たちとつながりながら、芸術文化活動に参加する障害者の数」や「8-6. 芸術文化活動を通して自分の特技を生かせている障害者の数」、「8-8. 複数の芸術文化活動のプログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数」について「変わらない」と回答する団体が半数以上存在した。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても増えている（5 点）」、「少し増えている（4 点）」、「変わらない（3 点）」、「少し減っている（2 点）」、「とても減っている（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者の芸術文化活動の把握状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-10 にまとめた。

表 3-4-10　担当都道府県における障害者の芸術文化活動の把握状況（調査票①；問 10）（N 21）

設問	十分把握している	まあまあ把握している	どちらともいえない	あまり把握していない	全く把握していない	無回答
①美術の活動・プログラムについて	団体数（%）					
10-1-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）での活動	2 (9.5)	12 (57.1)	7 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
10-1-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等での活動	2 (9.5)	7 (33.3)	6 (28.6)	5 (23.8)	1 (4.8)	0 (0.0)
10-1-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）で行われている活動	2 (9.5)	5 (23.8)	8 (38.1)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)

10-1-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）で行われている活動	0 (0.0)	4 (19.0)	9 (42.9)	7 (33.3)	1 (4.8)	0 (0.0)
10-1-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	0 (0.0)	3 (14.3)	9 (42.9)	8 (38.1)	1 (4.8)	0 (0.0)
10-1-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室、習い事等）	0 (0.0)	2 (9.5)	6 (28.6)	11 (52.4)	1 (4.8)	1 (4.8)
②舞台芸術の活動・プログラムについて	団体数（%）					
10-2-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）での活動	1 (4.8)	9 (42.9)	7 (33.3)	1 (4.8)	2 (9.5)	1 (4.8)
10-2-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等での活動	1 (4.8)	7 (33.3)	5 (23.8)	4 (19.0)	3 (14.3)	1 (4.8)
10-2-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）で行われている活動	1 (4.8)	5 (23.8)	6 (28.6)	4 (19.0)	4 (19.0)	1 (4.8)
10-2-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）で行われている活動	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (57.1)	5 (23.8)	3 (14.3)	1 (4.8)
10-2-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (42.9)	8 (38.1)	3 (14.3)	1 (4.8)
10-2-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室、習い事等）	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (38.1)	9 (42.9)	3 (14.3)	1 (4.8)

分析対象の支援センター実施団体では、美術の活動（プログラム）・舞台芸術の活動（プログラム）ともに「障害者福祉施設での活動」について「把握している（十分把握している・まあまあ把握している)」と回答する団体が多かった。これは、支援センター実施団体の半数以上が「障害者福祉施設」を母体としていることからも当然の結果と考えられる。

また、全体的な傾向として、美術の活動（プログラム）に比べて、舞台芸術の活動（プログラム）において「把握していない（あまり把握していない・全く把握していない)」と回答される状況が多くみられた。これも、支援センター実施団体の主な活動内容が「美術分野」を中心としたものが多いことから当然の結果と考えられる。

なお、本質問項目については、後述の「（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「十分把握している（5 点)」、「まあまあ把握している（4 点)」、「どちらともいえない（3 点)」、「あまり把握していない（2 点)」、「全く把握していない（1 点)」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当する都道府県における障害者の芸術文化活動に関する課題の状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-11 にまとめた。

表 3-4-11　担当都道府県における障害者の芸術文化活動に関する課題

（調査票①；問 11）（N 21）

設問	とてもある	少しある	あまりない	全くない	無回答
①美術分野について	団体数（%）				
11-1-1. 障害者の芸術文化活動を支える人材育成に関する課題	17 (81.0)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-1-2. 創作環境に関する課題	10 (47.6)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-1-3. 展示・発表機会に関する課題	6 (28.6)	13 (61.9)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-1-4. その他	5 (23.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (76.2)
②舞台芸術分野について	団体数（%）				
11-2-1. 障害者の芸術文化活動を支える人材育成に関する課題	16 (76.2)	2 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (14.3)
11-2-2. 創作環境に関する課題	15 (71.4)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (14.3)
11-2-3. 展示・発表機会に関する課題	15 (71.4)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (14.3)
11-2-4. その他	3 (14.3)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (81.0)
③美術・舞台芸術両分野について	団体数（%）				
11-3-1. 予算・資金面での課題	17 (81.0)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-3-2. 発信力・広報力に関する課題	13 (61.9)	7 (33.3)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-3-3. アーティストの権利擁護に関する課題	8 (38.1)	10 (47.6)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-3-4. 障害者福祉や芸術文化の専門家等との連携、ネットワーキングに関する課題	9 (42.9)	11 (52.4)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
11-3-5. その他	1 (4.8)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (90.5)

分析対象の支援センター実施団体においては、全般的に「課題がある（とてもある・少しある）」と回答されたものが殆どで、どの地域においても多くの課題を抱えながら障害者の芸術文化活動

に取り組んでいる状況がうかがえた。なかでも「人材育成に関する課題」や「予算・資金面での課題」について美術分野・舞台芸術分野の両方で「(課題が) とてもある」という回答が多かった。

なお、本質問項目については、後述の「(4) 効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とてもある (1 点)」、「少しある (2 点)」、「あまりない (3 点)」、「全くない (4 点)」と配点し、変数として用いた。

次に、「支援センターにおける障害者の芸術文化活動に関する相談支援の状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-12 にまとめた。

表 3-4-12　障害者の芸術文化活動に関する相談対応の状況（調査票①；問 12）(N 21)

設問	困難もなく十分に対応できている	困難はあるが対応できている	どちらともいえない	困難がありあまり対応できていない	困難がある全く対応できていない	該当する相談を受けたことがない	無回答
①美術分野の活動・プログラム	団体数（%）						
12-1-1. 美術の鑑賞に関する相談	1 (4.8)	4 (19.0)	6 (28.6)	1 (4.8)	2 (9.5)	6 (28.6)	1 (4.8)
12-1-2. 創作環境に関する相談（はじめたい、させたい、学びたい等）	4 (19.0)	15 (71.4)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
12-1-3. 展示発表機会に関する相談	5 (23.8)	12 (57.1)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	1 (4.8)
12-1-4. 作者の権利擁護に関する相談	1 (4.8)	14 (66.7)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	1 (4.8)
12-1-5. 作品の売買、商品化に関する相談	1 (4.8)	10 (47.6)	7 (33.3)	0 (0.0)	1 (4.8)	1 (4.8)	1 (4.8)
12-1-6. 作品のグッズ化、媒体化に関する相談	1 (4.8)	9 (42.9)	7 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (14.3)	1 (4.8)
②舞台芸術の活動・プログラム	団体数（%）						
12-2-1. 舞台芸術の鑑賞に関する相談	2 (9.5)	2 (9.5)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (42.9)	4 (19.0)
12-2-2. 創作環境に関する相談（はじめたい、させたい、学びたい等）	2 (9.5)	6 (28.6)	2 (9.5)	2 (9.5)	1 (4.8)	4 (19.0)	4 (19.0)
12-2-3. 公演・発表機会に関する相談	1 (4.8)	7 (33.3)	3 (14.3)	1 (4.8)	0 (0.0)	5 (23.8)	4 (19.0)

※ 相談に関しては、法的助言を要する相談を含めずに回答を依頼した。

分析対象の支援センター実施団体において、多くの項目について「対応できている（困難もなく十分に対応できている・困難はあるが対応できている）」と回答されており、支援センター実施団体は様々な相談に対して対応できている状況がうかがえた。ただ、他の項目に比べると「12-1-5. 作品の売買、商品化に関する相談」や「12-1-6. 作品のグッズ化、媒体化に関する相談」については「どちらともいえない」という回答も一定数みられた。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「困難もなく十分に対応できている（5 点）」、「困難はあるが、対応できている（4 点）」、「どちらともいえない（3 点）」、「困難があり、あまり対応できていない（2 点）」、「困難があり、全く対応できていない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県で行われている障害者が芸術文化活動にアクセスしやすくなるための取り組みの状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-13 にまとめた。

表 3-4-13　担当都道府県で行われている障害者が芸術文化活動にアクセスしやすくなるための取り組みの状況（調査票①；問 13）（N 21）

設問	十分行われている	まあまあ行われている	どちらともいえない	あまり行われていない	全く行われてない	無回答
	団体数（%）					
13-1. 文化施設（劇場、映画館、美術館等）の物理的バリアフリー化	0 (0.0)	13 (61.9)	4 (19.0)	3 (14.3)	1 (4.8)	0 (0.0)
13-2. 文化施設での点字や拡大文字、副音声、音声補聴等情報保障の充実	2 (9.5)	4 (19.0)	9 (42.9)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
13-3. 芸術文化活動関連イベント情報の発信方法の多様化（ルビをふる等）	0 (0.0)	3 (14.3)	9 (42.9)	8 (38.1)	1 (4.8)	0 (0.0)
13-4. 親子室等別室での鑑賞	1 (4.8)	1 (4.8)	8 (38.1)	6 (28.6)	4 (19.0)	1 (4.8)
13-5. 舞台事前説明会	0 (0.0)	1 (4.8)	5 (23.8)	9 (42.9)	5 (23.8)	1 (4.8)
13-6. 台本の事前貸出	0 (0.0)	1 (4.8)	6 (28.6)	10 (47.6)	4 (19.0)	0 (0.0)
13-7. 障害と芸術文化双方に知見がある人材（コーディネーター、通訳等）の育成	0 (0.0)	2 (9.5)	3 (14.3)	10 (47.6)	6 (28.6)	0 (0.0)
13-8. その他	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	1 (4.8)	0 (0.0)	19 (90.5)

分析対象の支援センター実施団体からは「13-1. 文化施設（劇場、映画館、美術館等）の物理的バリアフリー化」については 6 割弱の地域で「まあまあ行われている」という回答があった。

一方で、その他の項目については「あまり行われていない」、「全く行われていない」という回答が多く、全体的にみて障害者が芸術文化活動にアクセスしやすくなるための配慮（バリアフリー化等）はあまり行われていない状況があることが分かった。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「十分行われている（5 点）」、「まあまあ行われている（4 点）」、「どちらともいえない（3 点）」、「あまり行われていない（2 点）」、「全く行われていない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者の創造・発表危機の拡大状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-14 にまとめた。

表 3-4-14　担当都道府県における障害者の創造・発表機会の拡大状況

（調査票①；問 14-1）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
①発表の機会を新たに提供している	団体数（%）				
14-1-1-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1 (4.8)	13 (61.9)	5 (23.8)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-1-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1 (4.8)	10 (47.6)	8 (38.1)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-1-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	1 (4.8)	9 (42.9)	9 (42.9)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-1-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	8 (38.1)	10 (47.6)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-1-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1 (4.8)	10 (47.6)	7 (33.3)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-1-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	8 (38.1)	10 (47.6)	2 (9.5)	1 (4.8)
②発表の機会を拡大している	団体数（%）				
14-1-2-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1 (4.8)	14 (66.7)	3 (14.3)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-2-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1 (4.8)	12 (57.1)	6 (28.6)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-2-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	0 (0.0)	9 (42.9)	10 (47.6)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-2-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	5 (23.8)	13 (61.9)	2 (9.5)	1 (4.8)

14-1-2-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1 (4.8)	6 (28.6)	11 (52.4)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-2-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	6 (28.6)	12 (57.1)	2 (9.5)	1 (4.8)
③創造の機会を新たに提供している	団体数（%）				
14-1-3-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1 (4.8)	13 (61.9)	6 (28.6)	0 (0.0)	1 (4.8)
14-1-3-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1 (4.8)	11 (52.4)	7 (33.3)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-3-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	0 (0.0)	7 (33.3)	12 (57.1)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-3-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	8 (38.1)	10 (47.6)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-3-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	0 (0.0)	6 (28.6)	12 (57.1)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-3-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	5 (23.8)	13 (61.9)	2 (9.5)	1 (4.8)
④創造の機会を拡大している	団体数（%）				
14-1-4-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1 (4.8)	12 (57.1)	6 (28.6)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-4-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1 (4.8)	12 (57.1)	6 (28.6)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-4-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	0 (0.0)	6 (28.6)	13 (61.9)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-4-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	8 (38.1)	10 (47.6)	2 (9.5)	1 (4.8)
14-1-4-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	0 (0.0)	6 (28.6)	13 (61.9)	1 (4.8)	1 (4.8)
14-1-4-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	6 (28.6)	12 (57.1)	2 (9.5)	1 (4.8)

分析対象の支援センター実施団体においては、発表機会の新たな提供及び拡大、創造機会の新たな提供及び拡大のいずれにおいても「障害者福祉施設」において「ある（かなりある・少しある）」という回答が多い状況がうかがえた。また、これに続いて「芸術文化活動を主眼として活躍する NPO 等」や「文化施設」においても「ある（かなりある・少しある）」という回答が一定数確認された。以上のことから、近年、障害者の芸術文化活動が様々な場面で拡大している状況がうかがえる。

なお、本質問項目については、後述の「（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分

析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者本人の作品制作や表現の技術向上につながる機会の提供状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-15 にまとめた。

表 3-4-15　担当都道府県における障害者本人の作品制作や表現の技術向上につながる機会の提供状況（調査票①；問 15）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
	団体数（%）				
15-1. 専門家やプロのアーティストからアドバイスを個人もしくはグループで受ける機会	1 (4.8)	12 (57.1)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
15-2. 障害者の芸術文化活動に知見のあるスタッフが伴走し、表現を追求する機会	2 (9.5)	12 (57.1)	7 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
15-3. 芸術文化活動全般の勉強会や研修会に参加する機会	2 (9.5)	11 (52.4)	7 (33.3)	1 (4.8)	0 (0.0)
15-4. 創作場所や練習場所等が確保できる機会	1 (4.8)	10 (47.6)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
15-5. 創作・練習等に必要な道具や機器の提供	1 (4.8)	7 (33.3)	12 (57.1)	1 (4.8)	0 (0.0)
15-6. その他	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (95.2)

分析対象の支援センター実施団体においては、「15-1. 専門家やプロのアーティストからアドバイスを個人もしくはグループで受ける機会」や「15-2. 障害者の芸術文化活動に知見のあるスタッフが伴走し、表現を追求する機会」、「15-3. 芸術文化活動全般の勉強会や研修会に参加する機会」については「ある（かなりある・少しある）」という回答が 6 割以上であった。一方で、他の項目に比べると、「15-4. 創作場所や練習場所等が確保できる機会」や「15-5. 創作・練習等に必要な道具や機器の提供」については「ない（あまりない・全くない）」と回答される割合が高かった。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者の芸術文化活動に関する社会的認知の機会状況」について尋ねた結果を、以下表 3-4-16 にまとめた。

表 3-4-16　担当都道府県における障害者の芸術文化活動に関する社会的認知の機会の状況

（調査票①；問 17）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
	団体数（%）				
17-1. 障害者の芸術文化活動が来場者や訪問者から評価を受ける機会	4 (19.0)	11 (52.4)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
17-2. 障害者の芸術文化活動が芸術文化の専門家から評価を受ける機会	1 (4.8)	10 (47.6)	9 (42.9)	1 (4.8)	0 (0.0)
17-3. 障害者が関わる作品や舞台公演がメディアで取り上げられる機会	4 (19.0)	12 (57.1)	5 (23.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
17-4. 障害者の美術作品が売買される機会	0 (0.0)	8 (38.1)	13 (61.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
17-5. 障害者の美術作品がグッズ化される、地方自治体や企業の広報物等で採用される機会	0 (0.0)	13 (61.9)	6 (28.6)	0 (0.0)	2 (9.5)
17-6. 障害者の舞台芸術作品が媒体化（CD・DVD・Blu-ray・You Tube 等）される機会	1 (4.8)	6 (28.6)	13 (61.9)	1 (4.8)	0 (0.0)
17-7. その他	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (95.2)

分析対象の支援センターにおいては、「17-1. 障害者の芸術文化活動が来場者や訪問者から評価を受ける機会」や「17-3. 障害者が関わる作品や舞台公演がメディアで取り上げられる機会」、「17-5. 障害者の美術作品がグッズ化される、地方自治体や企業の広報物等で採用される機会」については「ある（かなりある・少しある）」と回答された割合が 6 割以上であった。

一方で、「17-4. 障害者の美術作品が売買される機会」や「17-6. 障害者の舞台芸術作品が媒体化（CD・DVD・Blu-ray・You Tube 等）される機会」については「あまりない」という回答が多い状況がうかがえた。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者の多様なニーズ（障害特性、芸術の種類等）に対応した質の高い芸術文化活動支援が、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較して、どの程度充実したか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-17 にまとめた。

表 3-4-17　担当都道府県における障害者の芸術文化活動支援の充実状況
（普及支援事業・モデル事業開始時点との比較）（調査票①；問 18）（N 21）

設問	とても充実した	少し充実した	変わらない	あまり充実していない	全く充実していない	無回答
	団体数（%）					
18-1-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	1 (4.8)	12 (57.1)	7 (33.3)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
18-1-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1 (4.8)	9 (42.9)	10 (47.6)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)
18-1-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	0 (0.0)	10 (47.6)	9 (42.9)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)
18-1-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	7 (33.3)	13 (61.9)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)
18-1-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）	0 (0.0)	5 (23.8)	15 (71.4)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)
18-1-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	2 (9.5)	18 (85.7)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)

表 3-4-17 にあるような団体・場所においての充実度の変化を尋ね、分析対象の支援センター実施団体からは「18-1-1. 障害者福祉施設」で 6 割弱、「18-1-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等」、「18-1-3. 文化施設」で約 5 割程度の団体から「充実した（とても充実した・少し充実した)」という回答があった。

一方で、「18-1-6. その他」や「18-1-5. コミュニティスペース」、「18-1-4. 保育園、幼稚園、学校」については「変わらない」と回答した団体も多くあった。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても充実した（5 点)」、「少し充実した（4 点)」、「変わらない（3 点)」、「あまり充実していない（2 点)」、「全く充実していない（1 点)」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県における障害者の芸術文化活動に従事する人・団体の知識・スキルの向上度合」について普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、どの程度変化したかについて尋ねた結果を、以下表 3-4-18 にまとめた。

表 3-4-18　担当都道府県における障害者の芸術文化活動従事者・団体の知識・スキルの向上度合（調査票①；問 19）（N 21）

設問	とても向上した	少し向上した	変わらない	やや低下した	かなり低下した	該当する活動をしていない	無回答
19-1-1. アーティストの権利擁護に関する知識	1 (4.8)	16 (76.2)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
19-1-2. 商品化に関する知識やスキル	0 (0.0)	11 (52.4)	9 (42.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)
19-1-3. キュレーションに関する知識やスキル	0 (0.0)	11 (52.4)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
19-1-4. 広報に関する知識やスキル	0 (0.0)	9 (42.9)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)	1 (4.8)
19-1-5. イベント企画･運営に関する知識やスキル	1 (4.8)	10 (47.6)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
19-1-6. 障害特性の理解に関する知識	1 (4.8)	10 (47.6)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)
19-1-7. 障害特性を理解した上で支援する技術	2 (9.5)	11 (52.4)	6 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)
19-1-8. その他	0 (0.0)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (95.2)

分析対象の支援センター実施団体においては、最も多く「向上した（とても向上した・少し向上した)」という回答を得たのは「19-1-1. アーティストの権利擁護に関する知識」であり、次いで「向上した（とても向上した・少し向上した)」という回答を得たのが「19-1-7. 障害特性を理解した上で支援する技術」であった。

なお、本質問項目については、後述の「（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても向上した（5 点)」、「少し向上した（4 点)」、「変わらない（3 点)」、「やや低下した（2 点)」、「かなり低下した（1 点)」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県において、支援センターとつながったことで、組織・団体として障害者への芸術文化活動を新たに取り組み始めた団体の状況」ついて尋ねた結果を、以下表 3-4-19 にまとめた。

表 3-4-19　担当都道府県において、支援センターとつながったことで、組織・団体として障害者への芸術文化活動を新たに取り組み始めた団体の状況

（調査票①；問 20）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
	団体数（%）				
20-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	1 (4.8)	13 (61.9)	6 (28.6)	1 (4.8)	0 (0.0)
20-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	0 (0.0)	6 (28.6)	12 (57.1)	3 (14.3)	0 (0.0)
20-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	0 (0.0)	3 (14.3)	14 (66.7)	4 (19.0)	0 (0.0)
20-4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	5 (23.8)	12 (57.1)	4 (19.0)	0 (0.0)
20-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）	0 (0.0)	5 (23.8)	12 (57.1)	4 (19.0)	0 (0.0)
20-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習い事等）	0 (0.0)	3 (14.3)	14 (66.7)	4 (19.0)	0 (0.0)

分析対象の支援センター実施団体において、「ある（かなりある・少しある）」という回答が多かったのは「障害者福祉施設」であった。また、それ程多くはないが「芸術文化活動を主眼とする NPO 等」や「文化施設」、「保育園、幼稚園、学校」、「コミュニティスペース」においても「少しある」という回答がみられた。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「地域の団体が障害者への芸術文化活動の支援力を上げたいと思った時、地域に情報・ノウハウ共有を行える場や環境がどの程度存在しているか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-20 にまとめた。分析対象の支援センター実施団体からの回答では、「ある（かなりある・少しある）」と「ない（あまりない・全くない）」は約半数ずつであった。つまり、情報・ノウハウの共有ができる地域とそうではない地域が半数ずつということが読み取れる。

表 3-4-20　地域の団体が障害者への芸術文化活動の支援力を上げたいと思った時、地域に情報・ノウハウ共有を行える場や環境が存在している状況（調査票①；問 21-1）（N 21）

場の多さ	団体数	%
かなりある	1	4.8
少しある	10	47.6
あまりない	9	42.9
全くない	1	4.8
合計	21	100.0

なお、本質問項目については、後述の「（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県において、（設問にあるような関わり方で）障害者の芸術文化活動を応援する人はどの程度いるか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-21 にまとめた。

表 3-4-21　担当都道府県における障害者の芸術文化活動を応援する人の状況（調査票①；問 22-1）（N 21）

設問	かなりいる	少しいる	あまりいない	全くいない	無回答
	団体数（%）				
22-1-1. 鑑賞者として無料の展覧会・舞台公演に来場する人	11 (52.4)	9 (42.9)	1 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
22-1-2. 鑑賞者として有料の展覧会・舞台公演に来場する人	3 (14.3)	10 (47.6)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)
22-1-3. 職業として障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	0 (0.0)	17 (81.0)	4 (19.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
22-1-4. 職業と関係なく障害者と一緒に作品づくりを楽しむ人	1 (4.8)	13 (61.9)	7 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
22-1-5. 有償・無償ボランティアとして障害者の芸術文化活動に関わる人	1 (4.8)	13 (61.9)	6 (28.6)	1 (4.8)	0 (0.0)

分析対象の支援センター実施団体の回答で、「いる（かなりいる・少しいる）」という回答が多かったものとして「22-1-1. 鑑賞者として無料の展覧会・舞台公演に来場する人」や「22-1-3. 職業として障害者と一緒に作品作りを楽しむ人」があった。またその他の項目についても 6 割以上の団体が「いる（かなりいる・少しいる）」と回答していた。

なお、本質問項目については、後述の「（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分

析で、「かなりいる（4 点）」、「少しいる（3 点）」、「あまりいない（2 点）」、「全くいない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県において（設問にあるような関わり方で）障害者の芸術文化活動を応援する人が、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時にどのように変化したか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-22 にまとめた。

表 3-4-22　担当都道府県における障害者の芸術文化活動を応援する人の状況
（普及支援事業・モデル事業開始時点との比較）（調査票①；問 22-2）（N 21）

設問	とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	とても減っている	無回答
	団体数（%）					
22-2-1. 鑑賞者として無料の展覧会・舞台公演に来場する人	2 (9.5)	13 (61.9)	5 (23.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
22-2-2. 鑑賞者として有料の展覧会・舞台公演に来場する人	0 (0.0)	10 (47.6)	10 (47.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
22-2-3. 職業として障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	0 (0.0)	9 (42.9)	11 (52.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
22-2-4. 職業と関係なく障害者と一緒に作品づくりを楽しむ人	0 (0.0)	8 (38.1)	12 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
22-2-5. 有償・無償ボランティアとして障害者の芸術文化活動に関わる人	0 (0.0)	7 (33.3)	13 (61.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)

分析対象の支援センター実施団体の多くのの団体が「22-2-1. 鑑賞者として無料の展覧会・舞台公演に来場する人」については「増えている（とても増えている・少し増えている）」と回答した。また、その他の項目についても一定程度「少し増えている」という回答が確認された。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても増えている（5 点）」、「少し増えている（4 点）」、「変わらない（3 点）」、「少し減っている（2 点）」、「とても減っている（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「支援センターの事業として、どの程度障害当事者と地域住民が関わる機会を創出しているか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-23 にまとめた。

表 3-4-23　障害者と地域住民が関わる機会の創出状況（調査票①；問 23-1）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
	団体数（%）				
23-1-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	2 (9.5)	16 (76.2)	3 (14.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
23-1-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	2 (9.5)	8 (38.1)	8 (38.1)	3 (14.3)	0 (0.0)
23-1-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1 (4.8)	9 (42.9)	8 (38.1)	3 (14.3)	0 (0.0)
23-1-4. 保育園・幼稚園・学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	5 (23.8)	13 (61.9)	3 (14.3)	0 (0.0)
23-1-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1 (4.8)	11 (52.4)	6 (28.6)	3 (14.3)	0 (0.0)
23-1-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習いごと等）	0 (0.0)	5 (23.8)	12 (57.1)	4 (19.0)	0 (0.0)

分析対象の支援センターの多くが「23-1-1. 障害者福祉施設」については「ある（かなりある・少しある）」と回答した。また、その他の項目についても一定程度「ある（かなりある・少しある）」という回答が確認された。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「支援センターの事業として、どの程度障害当事者と地域住民が関わる機会を創出状況が、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較して変化したか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-24 にまとめた。

表 3-4-24　障害者と地域住民が関わる機会の創出状況

（普及支援事業・モデル事業開始時点との比較）（調査票①；問 23-2）（N 21）

設問	とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	とても減っている	無回答
	団体数（%）					
23-2-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	0 (0.0)	12 (57.1)	8 (38.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
23-2-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	1 (4.8)	6 (28.6)	12 (57.1)	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (4.8)
23-2-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1 (4.8)	8 (38.1)	11 (52.4)	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (4.8)
23-2-4. 保育園・幼稚園・学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	6 (28.6)	13 (61.9)	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (4.8)
23-2-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1 (4.8)	7 (33.3)	12 (57.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.8)
23-2-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習いごと等）	0 (0.0)	5 (23.8)	14 (66.7)	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (4.8)

分析対象の支援センター実施団体の 5 割強の団体が「23-2-1. 障害者福祉施設」について「少し増えている」と回答した。また、その他の項目についても一定程度「増えている（とても増えている・少し増えている）」という回答が確認された。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても増えている（5 点）」、「少し増えている（4 点）」、「変わらない（3 点）」、「少し減っている（2 点）」、「とても減っている（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当する都道府県において、支援センターが提供した機会以外に、地域住民と障害当事者が直接関わりあることのできる芸術文化活動の機会を提供している団体の現状」について尋ねた結果を、以下表 3-4-25 にまとめた。

分析対象の支援センター実施団体の多くの団体が「24-1. 障害者福祉施設」については「ある（かなりある・少しある）」と回答した。また、その他の項目についても一定程度「ある（かなりある・少しある）」という回答が確認された。なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

表 3-4-25　支援センターが提供する以外で障害者と地域住民が関わる芸術文化活動の機会を提供している団体の状況

（調査票①；問 24）（N 21）

設問	かなりある	少しある	あまりない	全くない	無回答
	団体数（%）				
24-1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	1 (4.8)	13 (61.9)	6 (28.6)	1 (4.8)	0 (0.0)
24-2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	1 (4.8)	10 (47.6)	9 (42.9)	1 (4.8)	0 (0.0)
24-3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	0 (0.0)	8 (38.1)	12 (57.1)	1 (4.8)	0 (0.0)
24-4. 保育園・幼稚園・学校（特別支援学校・学級を含む）	0 (0.0)	8 (38.1)	12 (57.1)	1 (4.8)	0 (0.0)
24-5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	0 (0.0)	7 (33.3)	13 (61.9)	1 (4.8)	0 (0.0)
24-6. その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、習いごと等）	0 (0.0)	5 (23.8)	15 (71.4)	1 (4.8)	0 (0.0)

次に、「担当都道府県において地域住民の障害者の芸術文化活動への関心はどの程度あるか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-26 にまとめた。

表 3-4-26　担当都道府県における地域住民の障害者の芸術文化活動への関心

（調査票①；問 25-1）（N 21）

関心の高さ	団体数	%
かなりある	1	4.8
少しある	11	52.4
あまりない	9	42.9
全くない	0	0.0
合計	21	100.0

分析対象の支援センター実施団体の内、5 割強の団体が「ある（かなりある・少しある）」と回答した。一方で 4 割弱の団体は「あまりない」と回答した。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「かなりある（4 点）」、「少しある（3 点）」、「あまりない（2 点）」、「全くない（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、「担当都道府県において地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較して、どのように変化したか」について尋ねた結果を、以下表 3-4-27 にまとめた。

表 3-4-27　担当都道府県における地域住民の障害者の芸術文化活動への関心の変化
（普及支援事業・モデル事業開始時点との比較）（調査票①；問 25-2）（N 21）

関心の高さ	団体数	%
とても高まっている	0	0.0
少し高まっている	14	66.7
どちらでもない	6	28.6
少し下がっている	0	0.0
とても下がっている	0	0.0
合計	21	100.0

分析対象の支援センター実施団体の多くの団体は「少し高まっている」という回答があった。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とても高まっている（5 点）」、「少し高まっている（4 点）」、「どちらでもない（3 点）」、「少し下がっている（2 点）」、「とても下がっている（1 点）」と配点し、変数として用いた。

次に、表 3-4-27 にまとめた担当都道府県における地域住民の障害者の芸術文化活動への関心の変化が、どの点についておきたかについて尋ねた結果を、以下表 3-4-28 にまとめた。

表 3-4-28　担当都道府県に地域住民の障害者の芸術文化活動への関心の変化の状況
（調査票①；問 25-3）（N 21）

設問	とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	無回答
	団体数（%）				
25-3-1. 無料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた	2 (9.5)	14 (66.7)	2 (9.5)	0 (0.0)	3 (14.3)
25-3-2. 有料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた	0 (0.0)	6 (28.6)	11 (52.4)	1 (4.8)	3 (14.3)
25-3-3. 障害者と一緒に作品をつくる取り組みにより多くの人が参加するようになった	0 (0.0)	11 (52.4)	5 (23.8)	1 (4.8)	4 (19.0)
25-3-4. 障害者が地域で芸術文化活動を行える機会が増えた	0 (0.0)	15 (71.4)	2 (9.5)	1 (4.8)	3 (14.3)

25-3-5. 作品をグッズ化したものの売り上げが増えた	0 (0.0)	7 (33.3)	9 (42.9)	1 (4.8)	4 (19.0)
25-3-6. 作品の購入・レンタルの件数が増えた	0 (0.0)	5 (23.8)	12 (57.1)	1 (4.8)	3 (14.3)
25-3-7. 今までつながっていなかったアーティストや地域の団体から、障害者の芸術文化活動に係る協力のオファーが増えた（例：一緒に何かイベントを企画したいという申し出や、障害者芸術文化に係る企画を行いたいという地域の団体が増えた等）	3 (14.3)	10 (47.6)	4 (19.0)	1 (4.8)	3 (14.3)

分析対象の支援センター実施団体の多くの団体が「あてはまる（とてもあてはまる・少しあてはまる)」と回答したものは「25-3-1. 無料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた」や「25-3-4. 障害者が地域で芸術文化活動を行える機会が増えた」であった。

一方、「あてはまらない（あまりあてはまらない・全くあてはまらない)」という回答が多かったのは「25-3-2. 有料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた」や「25-3-6. 作品の購入・レンタルの件数が増えた」が挙げられた。

なお、本質問項目については、後述の「（４）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証」の分析で、「とてもあてはまる（4 点)」、「少しあてはまる（3 点)」、「あまりあてはまらない（2 点)」、「全くあてはまらない（1 点)」と配点し、変数として用いた。

（３）効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）（調査票②）

次に、分析対象の支援センター実施団体における効果的援助要素の実施状況について、フィデリティ尺度得点の集計を行った。フィデリティ尺度得点は、「示されたいずれの要素も満たさない（1 点)」、「示された要素のうち 1 要素を満たす（2 点)」のように効果的援助要素の実施状況に応じて評点する仕組みになっており、各項目 1 点から 5 点で評点される。

なお、表 3-4-1 に示したとおり、フィデリティ尺度においては各項目 4 点「効果的な支援内容が一定レベルで適切に行われている」が目指すべき 1 つの基準として設定されている。

以上を踏まえ、分析対象の支援センター実施団体に、効果的援助要素の実施状況について尋ねたところ、下記の図 3-4 及び表 3-4-29 に示した回答が得られた。「B2 障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動」の項目については調査対象となった支援センター実施団体全体の平均点がフィデリティ尺度得点の基準点である 4 点を超え、比較的高い実施度が確認された。

一方で、「A1 地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動」や「B3 障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動」、「C1 関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動」の平均点は低く、調査対象となった支援センター全体におけるこれらの項目に関する効果的援助要素の実施度は低い状況であることが確認された。

図 3-4　調査対象である 21 の支援センターにおけるフィデリティ平均点（調査票②）（N 21）

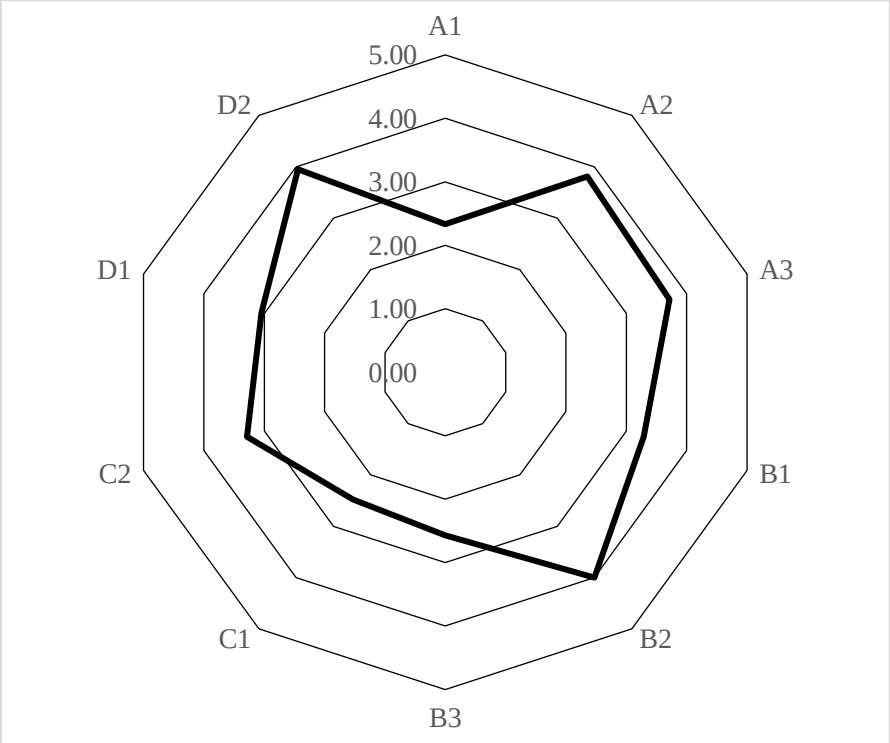


表 3-4-29　調査対象である 21 の支援センターにおけるフィデリティ平均点（調査票②）（N 21）

効果的援助要素の項目	平均値	標準偏差
A1 地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動	2.33	1.461
A2 障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決するための活動	3.81	0.873
A3 障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動	3.71	1.521
B1 障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動	3.29	1.271
B2 障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動	4.00	1.225
B3 障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動	2.57	0.870
C1 関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動	2.48	1.209
C2 障害者の芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動	3.29	1.189
D1 地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動	3.05	1.161
D2 地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動	3.95	0.805

（4）効果的援助要素とアウトカムの関連の検証

本調査の目的は、ロジックモデルに設定した活動の詳細（効果的援助要素）と意図したアウトカムの関連を検証することであった。そのため、表 3-4-30 に示すとおり、ロジックモデルに設置された様々な項目（活動・アウトカム）に指標を当てはめ、分析を行った。

なお、基本的には、アウトカムに関する指標は調査票①から、活動に関する指標は調査票②（フィデリティ尺度）から用いた。

表 3-4-30　ロジックモデルに設定した様々な項目とその指標

最終アウトカム（上位目的）			芸術文化活動を通して、障害者が社会参加できるようになる	調査票①（問 7）
中間アウトカム（作戦目的）			芸術文化活動を通して、障害者が個性と能力を発揮できる	調査票①（問 7）
01	より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる			調査票①（問 7）
	0101	地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される		調査票①（問 10）
		010101	地域の障害者の芸術文化活動について網羅的なアンケート調査を実施する	調査票②（フィデリティ尺度 A1 項目）
		010102	地域の障害者の芸術文化活動について訪問による調査を実施する	
		010103	障害者の芸術文化活動に関する既存の調査結果を参照する	
	0102	障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される		調査票①（問 12）
		010201	支援センターに障害者が相談しやすい環境を整備する	調査票②（フィデリティ尺度 A2 項目）
		010202	多様な通信手段で相談を受け付ける	
		010203	相談の内容に応じて、関係機関の紹介を行う	
	0103	障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く		調査票①（問 13）
		010301	様々な機関・団体から芸術文化活動に関する情報を得る	調査票②（フィデリティ尺度 A3 項目）
		010302	障害者にも分かりやすい伝え方で、芸術文化活動についての情報提供を行う	
02	障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える			調査票①（問 7）
	0201	障害者が作品を創造し、発表する機会が増える		調査票①（問 14）
		020101	障害者の作品や障害のある芸術家を調査・発掘する	調査票②（フィデリティ尺度 B1 項目）
		020102	地域の障害者による作品や芸術文化活動のアーカイブ（記録及び保存）のための活動を行う	
		020103	障害種別を問わず、参加可能な芸術文化活動の環境整備を支援する	

	0202	障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える		調査票①（問 15）
		020201	障害者のニーズに合わせ、芸術文化活動を学べる場等、適切な情報提供を行う	調査票②（フィデリティ尺度 B2 項目）
		020202	福祉施設や学校、地域の文化施設等において、障害者が芸術文化活動に参加・体験できるよう支援する	
	0203	障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる		調査票①（問 17）
		020301	展覧会や舞台公演等を積極的に開催し、作品の価値を高める	調査票②（フィデリティ尺度 B3 項目）
		020302	障害者の作品をレンタル、あるいは販売する	
		020303	多様なメディアを活用し、障害者の芸術文化活動を紹介する	
03	障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる			調査票①（問 20）
	0301	関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる		調査票①（問 18・19）
		030101	関係者に障害者の芸術文化活動支援に必要な研修会・勉強会を行う	調査票②（フィデリティ尺度 C1 項目）
		030102	障害者の芸術文化活動支援に関する成功事例・失敗事例やノウハウ等をテーマ別に蓄積し、発信する	
		030103	障害者と関係者ともに芸術文化活動の企画を行う	
	0302	（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される		調査票①（問 21）
		030201	様々な機関・専門家が参加した協力委員会等の協力体制を整え、このネットワークを活かした支援を行う	調査票②（フィデリティ尺度 C2 項目）
		030202	様々なネットワークを活かし、障害者の芸術文化活動支援を行う	
		030203	障害者の芸術文化活動に関わる行政の担当部署や担当者と定期的に情報交換を行う	
		030204	必要に応じて、法律専門家や芸術活動専門家の協力を得る	
04	地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える			調査票①（問 22）
	0401	地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある		調査票①（問 23・24）
		040101	地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられるような多様な機会（イベント・ワークショップ）をつくる	調査票②（フィデリティ尺度 D1 項目）
		040102	地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を創出する	

		040103	地域住民が障害者の芸術文化を参加型で一緒に楽しむ機会を地域の団体が創出できるよう支援する	
	0402	地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる		調査票①（問 25）
		040201	支援センターについて知ってもらうためのリーフレットやウェブサイトを準備し、広報を行う	調査票②（フィデリティ尺度 D2 項目）
		040202	必要に応じて、障害者の芸術文化活動についてのチラシ等を作成し、地域住民向けに配布する	
		040203	障害者の芸術文化活動について紹介するウェブサイトを準備し、地域住民向けに公開する	
		040204	チラシやウェブサイト等の広報媒体は、デザイナーや制作会社に協力を依頼する等して、作成する	
		040205	地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられる多様な機会（イベント・ワークショップ・アーカイブ）についての情報を発信する	

① 最終アウトカム及び中間アウトカムと 2 桁アウトカムとの関連

まず、ロジックモデルに設定した最終アウトカム及び中間アウトカムと 2 桁アウトカムとの関連を検証するために相関分析[20]を行った。その結果を、以下のとおり表 3-4-31 から表 3-4-34 にかけて示す。なお、検定の結果、有意な関連が認められたものについては網掛け・太字で示すこととする[21]。

[20] 相関分析とは、2 つの変数間の関係を数値（相関係数）で記述する分析方法でその値はプラス 1～マイナス 1 の間に収まり、プラスであれば正の相関関係（一方の変数が大きくなればもう一方も大きくなる）、マイナスであれば負の相関関係（一方の変数が大きくなればもう一方の変数は小さくなる）があるという。

なお、相関係数は、0～0.2（殆ど相関がない）、0.2～0.4（弱い相関がある）、0.4～0.7（相関がある）、0.7～1.0（強い相関がある）が基準とされているが、本事業のように社会プログラムを対象にした分析であれば 0.2～0.4 の値（相関係数）であっても「2 つの変数間に相関関係があった」としてその結果が採用される場合が多い。

[21] 検定とは、とある仮説に対して、それが正しいのか否かを統計学的に検証する作業のことをいい、具体的には「帰無仮説」を設定し、これを棄却できるかどうかで判断する。

本分析における帰無仮説は「（相関分析に用いた）2 つの変数間には関連がない」というものであり、この仮説が支持される確率を P 値によって示すことで検証する。一般的にこの P 値が 0.05 以下であれば帰無仮説は棄却され、相関分析に用いた 2 変数間には統計的な関連があったと解釈することができる。

本分析ではこれを相関分析の表中（相関係数の横）に*や**というマークをつけることで示している（マークが 1 つの場合は P 値が 0.05 以下、マークが 2 つの場合は P 値が 0.01 以下となっている）。

表 3-4-31　最終アウトカム及び中間アウトカムと「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」の関連（相関分析の結果）（N 21）

	最終アウトカム・中間アウトカム				
01のアウトカム		問 7-6	問 7-7	問 7-8	問 7-9
	問 7-1	.345	**.844****	**.622****	.419
	問 7-2	.151	**.777****	**.540***	.437
	問 7-3	**.579***	**.774****	**.816****	**.699****
	問 7-4	.437	**.751****	**.697****	**.490***

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、最終アウトカム及び中間アウトカムと「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、多くの項目において正の相関関係が確認された。これは、「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」という成果の達成が、最終アウトカム及び中間アウトカムの達成に貢献するということを示している。

表 3-4-32　最終アウトカム及び中間アウトカムと「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」の関連（相関分析の結果）（N 21）

	最終アウトカム・中間アウトカム				
02のアウトカム		問 7-6	問 7-7	問 7-8	問 7-9
	問 7-5	**.626****	**.724****	**.516***	**.598****

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、最終アウトカム及び中間アウトカムと「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、すべての項目において正の相関関係が確認された。これはつまり、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」という成果の達成が、最終アウトカム及び中間アウトカムの達成に貢献するということを示している。

表 3-4-33　最終アウトカム及び中間アウトカムと「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」の関連（相関分析の結果）（N 21）

	最終アウトカム・中間アウトカム				
03のアウトカム		問 7-6	問 7-7	問 7-8	問 7-9
	問 20-1	.000	-.018	.048	.108
	問 20-2	.256	.323	.293	.443
	問 20-3	**.656****	**.451***	**.484***	**.455***
	問 20-4	.131	.226	.416	.351
	問 20-5	.409	.338	.416	.351
	問 20-6	.052	**.451***	**.484***	.323

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、最終アウトカム及び中間アウトカムと「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、一部の項目において正の相関関係が確認された（特に、「文化施設（問 20-3）」と「その他（問 20-6）」との間での関連については統計的に有意な関連が確認された）。これは、文化施設やその他の関係者が、障害者に対して質の高い芸術文化活動を提供するようになることが最終アウトカム及び中間アウトカムの達成に貢献するということを示している。

表 3-4-34　最終アウトカム及び中間アウトカムと「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」の関連（相関分析の結果）（N 21）

	最終アウトカム・中間アウトカム				
04のアウトカム		問 7-6	問 7-7	問 7-8	問 7-9
	問 25-3-1	.000	-.039	-.098	.186
	問 25-3-2	-.183	-.285	-.139	-.118
	問 25-3-3	.090	.214	.077	.193
	問 25-3-4	.475	.351	**.498***	.423
	問 25-3-5	.233	.364	.412	**.500***
	問 25-3-6	.246	-.119	.322	.463
	問 25-3-7	.363	.191	.265	.446

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、最終アウトカム及び中間アウトカムと「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、一部の項目において正の相関関係が確認された（特に、「障害者が地域で芸術文化活動を行える機会が増えた（問 25-3-4）」と「作品をグッズ化したものの売り上げが増えた（問 25-3-5）」との間での関連については統計的に有意な関連が確認された）。これは、地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増え、障害者

の芸術文化活動を行いやすくなり、さらにグッズ化されたもの等が広く販売されることが最終アウトカム及び中間アウトカムの達成に貢献するということを示している。

以上の結果から、項目によっては部分的な関連になるものの、ロジックモデルに設定した最終アウトカム及び中間アウトカムと 2 桁アウトカムが互いに関連しており、2 桁アウトカムの達成が最終アウトカム及び中間アウトカムの達成に貢献し得ることが確認されたといえる。

②「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と 4 桁アウトカムとの関連

次に、ロジックモデルに設定した「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0101～0103）との関連を検証するために相関分析を行った。その結果を、以下のとおり表 3-4-35 から表 3-4-37 にかけて示す。

表 3-4-35 「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101)」との関連（相関分析の結果）（N 21）

		０１のアウトカム			
		問 7-1	問 7-2	問 7-3	問 7-4
０１０１のアウトカム	問 10-1-1	.012	.015	.001	.264
	問 10-1-2	.257	.345	.209	.343
	問 10-1-3	.394	.342	.251	.390
	問 10-1-4	-.012	.145	-.034	.312
	問 10-1-5	.334	.207	-.003	.208
	問 10-1-6	**.453***	.417	.031	.272
	問 10-2-1	.262	.257	.196	.427
	問 10-2-2	.368	**.533***	.404	**.629****
	問 10-2-3	**.505***	**.574****	.438	**.549***
	問 10-2-4	.169	.181	-.095	.199
	問 10-2-5	.471*	.383	.202	.366
	問 10-2-6	**.567****	**.478***	.368	**.464***

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、部分的にではあるが項目間に正の相関関係が確認された（特に、「舞台芸術の関する活動の現状を理解する（問 10-2)」という項目の多くに統計的に有意な関連が確認された)。これはつまり、支援センターが担当する地域の舞台芸術に関する活動状況を正しく理解することが、より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことに貢献することを示している。

表 3-4-36 「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102)」との関連（相関分析の結果）(N 21)

	０１のアウトカム				
０１０２のアウトカム		問 7-1	問 7-2	問 7-3	問 7-4
	問 12-1-1	**.556***	**.615***	**.732****	**.615***
	問 12-1-2	.302	.348	.116	.040
	問 12-1-3	.408	.456	.127	.187
	問 12-1-4	.284	.276	.183	.072
	問 12-1-5	**.569***	.286	.303	.083
	問 12-1-6	**.513***	**.573***	**.502***	.479
	問 12-2-1	.401	.310	.401	.606
	問 12-2-2	.282	.312	.404	**.706****
	問 12-2-3	.299	.154	.232	.323

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、部分的にではあるが項目間に正の相関関係が確認された（特に、「美術の鑑賞に関する相談（問 12-1-1)」、や「作品の売買、商品化に関する相談（問 12-1-5)」、「作品のグッズ化、媒体化に関する相談（問 12-1-6)」、「(舞台芸術における）創作環境に関する相談（問 12-2-2)」との間での関連については統計的に有意な関連が確認された)。これは、支援センターが美術の鑑賞に関する相談や作品の売買・商品化・グッズ化に関する相談、舞台芸術における創作環境に関する相談に対して適切に対応し、これらの問題を解決することが、より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことに貢献するということを示している。

表 3-4-37 「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」との関連（相関分析の結果）(N 21)

	０１のアウトカム				
０１０３のアウトカム		問 7-1	問 7-2	問 7-3	問 7-4
	問 13-1	.430	**.456***	.297	.250
	問 13-2	**.468***	.206	.187	.218
	問 13-3	**.457***	.377	.353	**.446***
	問 13-4	**.694****	**.519***	.359	.066
	問 13-5	**.478***	**.519***	.299	.210
	問 13-6	.323	.351	.231	.260
	問 13-7	.316	.223	.082	.104
	問 13-8				

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」と「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、多くの項目間に正の相関関係が確認された（「文化施設の物理的なバリアフリー（問 13-1)」や「文化施設での点字や拡大文字、副音声、音声補聴等情報保障の充実（問 13-2)」、「芸術文化活動関連イベント情報の発信方法の多様化（問 13-3)」、「親子室等別室での鑑賞（問 13-4)」、「舞台事前説明会（問 13-5)」との間での関連については統計的に有意な関連が確認された)。このことから、「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」というアウトカムの達成が、より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことに貢献するということが示された。

以上の結果から、項目によっては部分的な関連になるものの、ロジックモデルに設定した「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0101～0103）は互いに関連しており、4 桁アウトカム（0101～0103）の達成が「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」というアウトカムの達成に貢献し得ることが確認されたといえる。

③「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と 4 桁アウトカムとの関連

次に、ロジックモデルに設定した「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0201～0203）との関連を検証するために相関分析を行った。その結果を、以下のとおり表 3-4-38 から表 3-4-40 にかけて示す。

表 3-4-38 「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201)」との関連（相関分析の結果）（N 21）

		０２のアウトカム
		問 7-5
０２０１のアウトカム	問 14-1-1	**.563****
	問 14-1-2	.368
	問 14-1-3	.102
	問 14-1-4	.150
	問 14-1-5	.335
	問 14-1-6	.263
	問 14-2-1	.201
	問 14-2-2	.287
	問 14-2-3	.168
	問 14-2-4	.020
	問 14-2-5	.287
	問 14-2-6	.137

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、一部の項目において正の相関関係が確認された（「障害者福祉施設が新たに発表機会を提供している（問 14-1-1)」との間では統計的に有意な関連が確認された)。これは、障害者福祉施設が発表の機会を新たに提供することが、障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増えるということに貢献することを示している。

表 3-4-39 「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202)」との関連（相関分析の結果）（N 21）

		０２のアウトカム
		問 7-5
０２０２のアウトカム	問 15-1	.277
	問 15-2	.367
	問 15-3	.109
	問 15-4	.133
	問 15-5	-.030
	問 15-6	

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、いずれの項目間においても統計的に有意な関連は認められなかった。しかし、「専門家やプロのアーティストからアドバイスを個人もしくはグループで受ける機会（問 15-1)」や「障害者の芸術文化活動に知見のあるスタッフが伴走し、表現を追求する機会（問 15-2)」との間では 0.3 前後の相関係数が確認されている。

このように、今回の分析においてはサンプル数が 21 団体と少ないがために、統計的に有意な関連を確認できなかった可能性が高く、おそらくこのアウトカム同士は何らかの正の相関関係はあるものと想定される[22]。そのため、この部分のアウトカムについては今後の継続的な関連の検証が求められる（このことは、本節のまとめにてまた述べることとする)。

[22] 相関分析の結果､統計的に有意な関連を証明するためには相関係数の大きさに対応した標本(サンプル）数が必要となる（おおよそ、相関係数の値が 0.7 以上であれば 15 サンプル程度、0.6 であれば 20 サンプル程度、0.5 であれば 30 サンプル程度、そして 0.2 であれば 200 サンプル程度と言われている)。

したがって、本調査の分析対象数（サンプル数）が 200 程度あれば、問 17-3（0.193）や問 17-4（0.184）との関連についても統計的に有意な関連が示された可能性が高いと考えられる。

表 3-4-40 「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203)」との関連（相関分析の結果）（N 21）

		０２のアウトカム
		問 7-5
０２０３のアウトカム	問 17-1	.158
	問 17-2	.234
	問 17-3	.193
	問 17-4	.184
	問 17-5	.160
	問 17-6	.195
	問 17-7	

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」と「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、いずれの項目間においても統計的に有意な関連は認められなかった。しかし、「障害者の芸術文化活動が芸術文化の専門家から評価を受ける機会（問 17-2)」は 0.234 の相関係数が確認されている。

このように、今回の分析においてはサンプル数が 21 団体と少ないがために、統計的に有意な関連を確認できなかった可能性が高く、おそらくこのアウトカム同士は何らかの正の相関関係はあるものと想定される。そのため、この部分のアウトカムについては今後の継続的な関連の検証が求められる（このことは、本節のまとめにてまた述べることとする)。

以上の結果から、一部の項目ではロジックモデルに設定した「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0201）は互いに関連しており、4 桁アウトカム（0201）の達成が「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」というアウトカムの達成に貢献し得ることが確認されたといえる。なお、残りの 4 桁アウトカム（0202・0203）との関連については今後の更なる検証が期待される。

④「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03)」と 4 桁アウトカムとの関連

次に、ロジックモデルに設定した「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0301・0302）との関連を検証するために相関分析を行った。その結果を、以下のとおり表 3-4-41 から表 3-4-42 にかけて示す。

表 3-4-41 「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」と「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」との関連

（相関分析の結果）（N 21）

	０３のアウトカム						
		問 20-1	問 20-2	問 20-3	問 20-4	問 20-5	問 20-6
０３０１のアウトカム	問 18-1-1	**.618****	.424	.398	.330	**.456***	.158
	問 18-1-2	.403	**.603****	**.437***	.271	**.592****	.011
	問 18-1-3	.350	.198	.428	.279	.402	-.079
	問 18-1-4	.283	.391	**.474***	.204	**.486***	-.001
	問 18-1-5	.392	.189	.164	-.207	.255	-.004
	問 18-1-6	.384	-.047	-.228	-.214	-.214	.219
	問 19-1-1	**.701****	.391	.307	.173	.329	.156
	問 19-1-2	**.521***	**.460***	.183	**.478***	.308	.000
	問 19-1-3	.018	.372	.085	-.071	.221	-.085
	問 19-1-4	.454	**.462***	.375	.174	**.499***	.100
	問 19-1-5	.326	.209	-.074	-.125	.146	.008
	問 19-1-6	.263	.020	.280	.012	.227	.174
	問 19-1-7	**.595****	.258	.126	.276	.300	**.456***
	問 19-1-8						

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」と「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、多くの項目間に正の相関関係が確認された（例えば「障害者福祉施設（問 18-1-1）」、「芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（問 18-1-2）」、「保育園、幼稚園、学校（問 18-1-4）」等における活動が充実することや、関係者の「アーティストの権利擁護に関する知識（問 19-1-1）」、「商品化に関する知識（問 19-1-2）」、「広報に関する知識（問 19-1-4）」等の向上との関連については統計的に有意な関連が確認された）。

これは、「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」というアウトカムの達成が、「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」というアウトカムの達成に貢献するということを示している。

表 3-4-42 「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」と「（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302）」との関連（相関分析の結果）（N 21）

	０３のアウトカム						
		問 20-1	問 20-2	問 20-3	問 20-4	問 20-5	問 20-6
アウトカム０３０２の	問 21-1-1	.095	-.033	.380	.201	**.454***	**.439***

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」と「（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302）」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、一部の項目において正の相関関係が確認された（特に、「地域に情報共有を行えるようなネットワークがある（問 21-1-1）」と「コミュニティスペース（問 20-5）」や「その他（問 20-6）」における新たな活動の開始との間で統計的に有意な関連が確認された）。これはつまり、地域に情報共有を行えるようなネットワークがあれば、それが強ければ強いほど、コミュニティスペース等において新たな活動が始められる可能性が高まることを示している。

以上の結果から、項目によっては部分的な関連になるものの、ロジックモデルに設定した「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0301・0302）は互いに関連しており、4 桁アウトカム（0301・0302）の達成が「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」というアウトカムの達成に貢献し得ることが確認されたといえる。

⑤「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」と 4 桁アウトカムとの関連

次に、ロジックモデルに設定した「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04）」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0401・0402）との関連を検証するために相関分析を行った。その結果を、以下のとおり表 3-4-43 から表 3-4-34 にかけて示す。

表 3-4-43 「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」と「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401)」との関連

（相関分析の結果）（N 21）

		０４のアウトカム				
		問 22-1-1	問 22-1-2	問 22-1-3	問 22-1-4	問 22-1-5
０４０１のアウトカム	問 23-1-1	**.553****	.004	**.457***	.130	.302
	問 23-1-2	.371	.054	.244	.277	.283
	問 23-1-3	.399	.286	.118	**-.458***	.013
	問 23-1-4	**.451***	-.036	.278	.204	.203
	問 23-1-5	.258	.261	.307	-.162	.055
	問 23-1-6	.408	-.082	.404	.138	.088
	問 23-2-1	.060	.154	.357	-.021	.061
	問 23-2-2	.372	.197	**.460***	.214	.268
	問 23-2-3	.172	**.532***	.210	-.414	.083
	問 23-2-4	.276	.152	.440	.166	.214
	問 23-2-5	.254	**.489***	.163	**-.465***	.024
	問 23-2-6	.192	.107	.419	.128	.281
	問 24-1	.414	.306	.163	.046	**.518***
	問 24-2	**.473***	.287	.233	.003	.336
	問 24-3	.392	.296	.092	.158	.338
	問 24-4	.224	.296	.092	-.017	.174
	問 24-5	.319	.403	.047	.105	.290
	問 24-6	.354	.167	.203	.185	.193

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」と「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401)」に設定したアウトカムとの関連を検証した結果、部分的ではあるが項目間に正の相関関係が確認された（特に、「障害福者福祉施設（問 23-1-1)」や「保育園、幼稚園、学校（問 23-1-4)」、「文化施設（問 23-2-3)」等との関連については統計的に有意な関連が確認された)。これはつまり、障害者福祉施設や文化施設、保育園等が障害者と地域住民が交流できる機会を多く持つことが、地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすことに貢献するということを示している。

一方、「職業と関係なく障害者と一緒に作品づくりを楽しむ人（問 22-1-4)」との間ではいくつか負の相関関係が確認された項目もあった（具体的には、「文化施設（問 23-1-3)」と「コミュニティスペース（問 23-2-5)」における地域住民と障害者の交流について)。これについては、文化施設やコミュニティスペースにおける交流の機会づくりには、仕事として障害者福祉や、あるいは芸術文化活動に関係する人が来やすいということがあるのかもしれない。この点については、今後の更なる検証も求められる。

表 3-4-44 「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」と「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」との関連（相関分析の結果）（N 21）

	０４のアウトカム					
		問 22-1-1	問 22-1-2	問 22-1-3	問 22-1-4	問 22-1-5
０４０２のアウトカム	問 25-1	**.550****	0.137	0.318	0.152	**.441***
	問 25-2	0.075	-0.082	0.218	0.305	0.196
	問 25-3-1	0.323	0.320	0.375	0.000	0.218
	問 25-3-2	0.097	**.717****	0.198	0.002	0.223
	問 25-3-3	-0.066	-0.200	0.089	0.188	0.062
	問 25-3-4	**.563***	0.064	0.289	0.070	0.313
	問 25-3-5	0.363	0.251	0.252	0.224	0.294
	問 25-3-6	0.155	0.178	0.165	0.166	0.177
	問 25-3-7	**.560***	0.009	0.189	0.241	0.410

**P<0.05, **P<0.01*

相関分析を行い、「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」と「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」の設定したアウトカムとの関連を検証した結果、部分的にではあるが項目間に正の相関関係が確認された（特に、「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心（問 25-1)」や「有料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場（問 25-3-2)」、「障害者と一緒に作品をつくる取り組みへの参加（問 25-3-4)」、「アーティストや地域の団体からの協働のオファー（問 25-3-7)」との間での関連については統計的に有意な関連が確認された)。

これはつまり、地域住民の障害者芸術文化活動に関する関心の高まりや、イベントへの参加、アーティスト等からのオファーが、地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすことに貢献するということを示している。

以上の結果から、項目によっては部分的な関連になるものの、ロジックモデルに設定した「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」というアウトカムと、この下位に設定した 4 桁のアウトカム（0401・0402）は互いに関連しており、4 桁アウトカム（0401・0402）の達成が「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」というアウトカムの達成に貢献し得ることが確認されたといえる。

⑥ 「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0101～0103）と A 領域に規定した活動（効果的援助要素）との関連

次に、ロジックモデルに設定したアウトカムと活動（効果的援助要素）との関連を検証するために調査対象となった支援センター実施団体 21 か所の状況を分析した。具体的には、21 か所の支援センター実施団体を、効果的援助要素の項目ごとに（効果的援助要素の実施状況ごとに）「4

点達成群」及び「4 点未達成群」に分け、アウトカムの達成状況を比較した[23]。

なお、前述のとおり、効果的援助要素の実施状況はフィデリティ尺度（調査票②）を作成し、これを用いることによって行った。

まず、「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」と「A1：地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動（10 要素）」との関連を検証し、その結果を表 3-4-45 に示す。なお、表中の M は平均値、SD は標準偏差を示し、検定の結果、有意差が認められたものについては網掛け・太字で示すこととする。

表 3-4-45 「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」と「A1：地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動（10 要素）」との関連

（平均値の比較）（N 21）

0101 のアウトカム（検定結果）		問 10-1-1 M (SD)	問 10-1-2 M (SD)	問 10-1-3 M (SD)	問 10-1-4 M (SD)	**問 10-1-5 M (SD)***	問 10-1-6 M (SD)
A1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**4.00 (0.816)**	**3.75 (0.957)**	**3.75 (0.957)**	2.75 (0.500)	**3.50 (0.577)**	**2.75 (0.957)**
	団体数	**4**	**4**	**4**	4	**4**	**4**
	4 点未満	3.71 (0.588)	3.06 (1.088)	3.00 (0.935)	2.76 (0.903)	2.47 (0.717)	2.38 (0.719)
	団体数	17	17	17	17	17	16

0101 のアウトカム（検定結果）		問 10-2-1 M (SD)	問 10-2-2 M (SD)	問 10-2-3 M (SD)	問 10-2-4 M (SD)	**問 10-2-5 M (SD)***	問 10-2-6 M (SD)
A1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**3.50 (0.577)**	**3.25 (0.957)**	**3.75 (0.957)**	**3.00 (0.000)**	**3.00 (0.000)**	**2.75 (0.500)**
	団体数	**4**	**4**	**4**	**4**	**4**	**4**
	4 点未満	3.25 (1.125)	2.88 (1.258)	2.50 (1.155)	2.31 (0.793)	2.13 (0.719)	2.13 (0.719)
	団体数	16	16	16	16	16	16

**P<0.05, **P<0.01*

「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」と「A1：地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動（10 要素）」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、殆どの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

[23] 前述のとおり、フィデリティ尺度は4点を達成することが1つの目指すべき目標となっている。

また、これらについてマン・ホイットニーのU検定[24]を行い、検討を行ったところ一部のアウトカム項目（コミュニティスペースの現状把握（問10-1-5・問10-2-5））については統計的に有意な差が確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「A1：地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動（10要素）」項目の実施は「地域の障害者に関する芸術文化活動の現状が正しく理解される（0101）」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

次に、「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」と「A2：障害者の芸術文化活動の現状を理解するための活動（10要素）」との関連を検証し、その結果を表3-4-46に示す。

表3-4-46 「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」と「A2：障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決するための活動（10要素）」との関連（平均値の比較）（N 21）

0102のアウトカム（検定結果）		問12-1-1 M (SD)	問12-1-2 M (SD)	問12-1-3 M (SD)	問12-1-4 M (SD)	問12-1-5 M (SD)	問12-1-6 M (SD)
A2項目のフィデリティ得点	4点以上	**3.30 (1.160)**	**4.13 (0.743**	**4.36 (0.497**	**3.93 (0.475)**	3.50 (0.941	**3.77 (0.599)**
	団体数	**10**	**15**	**14**	**14**	14	**13**
	4点未満	2.50 (1.000)	4.00 (0.000)	3.75 (0.500)	3.60 (0.548)	3.60 (0.548)	3.25 (0.500)
	団体数	4	5	4	5	5	4

0102のアウトカム（検定結果）		問12-2-1 M (SD)	問12-2-2 M (SD)	問12-2-3 M (SD)
A2項目のフィデリティ得点	4点以上	**3.86 (0.900)**	3.45 (1.293)	3.67 (0.866)
	団体数	**7**	11	9
	4点未満	3.00	3.50 (0.707)	3.67 (0.577)
	団体数	1	2	3

**P<0.05, **P<0.01*

「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」と「A2：障害者の芸術文化活動の現状を理解するための活動（10要素）」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施

[24] マン・ホイットニーのU検定とは、ノンパラメトリック検定の1つで、対応のないデータにおいて2つのグループの間に差があるかないかについて行う検定のことをいう。

この分析における帰無仮説は「2つのグループ（4点以上群と4点未満群）間には差がない」というものであり、この仮説が支持される確率をP値によって示すことで検証する。一般的にこのP値が0.05以下であれば帰無仮説が棄却され、2つのグループ間には統計的な有意差があったと解釈することができる。

本分析ではこれをM(SD)の横に*や**というマークをつけることで示している（マークが1つの場合はP値は0.05以下、マークが2つの場合はP値が0.01以下となっている）。

状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、殆どの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「A2：障害者の芸術文化活動の現状を理解するための活動(10 要素)」項目の実施は「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される(0102)」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

次に、「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」と「A3：障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動（4 要素)」との関連を検証し、その結果を表 3-4-47 に示す。

表 3-4-47 「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」と「A3：障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動（4 要素)」との関連（平均値の比較）（N 21）

0103 のアウトカム（検定結果）		問 13-1 M (SD)	問 13-2 M (SD)	問 13-3 M (SD)	問 13-4 M (SD)	問 13-5 M (SD)	問 13-6 M (SD)
A3 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**3.54 (0.776)**	2.92 (0.954)	**2.77 (0.725)**	**2.58 (0.793)**	**2.25 (0.866)**	**2.23 (0.832)**
	団体数	**13**	13	**13**	**12**	**12**	**13**
	4 点未満	3.13 (1.126)	3.38 (0.916)	2.50 (0.926)	2.25 (1.389)	1.88 (0.835)	2.13 (0.835)
	団体数	8	8	8	8	8	8

0103 のアウトカム（検定結果）		問 13-7 M (SD)	問 13-8 M (SD)
A3 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.23 (1.013)**	2.50 (0.707)
	団体数	**13**	2
	4 点未満	1.75 (0.707)	
	団体数	8	0

**P<0.05, **P<0.01*

「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」と「A3：障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動（4 要素)」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、殆どの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「A3：障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動（4 要素)」項目の実施は「障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く（0103)」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示さ

れた。

以上の結果から、ロジックモデルに設定した「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0101～0103）と A 領域に規定した活動（効果的援助要素）は互いに関連しており、A 領域に規定した活動（効果的援助要素）を実施することが、「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる（01)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0101～0103）の達成に貢献し得ることが示された。

⑦ 「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0201～0203）と B 領域に規定した活動（効果的援助要素）との関連

まず、「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201)」と「B1：障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動（8 要素)」との関連を検証し、その結果を表 3-4-48 に示す。

表 3-4-48 「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201)」と「B1：障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動（8 要素)」との関連（平均値の比較）（N 21）

0201 のアウトカム（検定結果）		問 14-1-1-1 M (SD)	問 14-1-1-2 M (SD)	問 14-1-1-3 M (SD)	問 14-1-1-4 M (SD)	問 14-1-1-5 M (SD)	問 14-1-1-6 M (SD)
B1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	2.67 (0.707)	2.44 (0.527)	2.44 (0.527)	2.11 (0.601)	2.22 (0.667)	2.22 (0.667)
	団体数	11	11	11	11	11	11
	4 点未満	2.73 (0.647)	2.64 (0.809)	2.55 (0.820)	2.45 (0.688)	2.73 (0.786)	2.36 (0.674)
	団体数	9	9	9	9	9	9

0201 のアウトカム（検定結果）		問 14-1-2-1 M (SD)	問 14-1-2-2 M (SD)	問 14-1-2-3 M (SD)	問 14-1-2-4 M (SD)	問 14-1-2-5 M (SD)	問 14-1-2-6 M (SD)
B1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.78 (0.667)**	**2.67 (0.500)**	2.33 (0.500)	2.00 (0.500)	2.00 (0.500)	2.11 (0.601)
	団体数	**11**	**11**	11	11	11	11
	4 点未満	2.64 (0.809)	2.64 (0.809)	2.45 (0.688)	2.27 (0.647)	2.55 (0.820)	2.27 (0.647)
	団体数	9	9	9	9	9	9

0201 のアウトカム（検定結果）		問 14-1-3-1 M (SD)	問 14-1-3-2 M (SD)	問 14-1-3-3 M (SD)	問 14-1-3-4 M (SD)	問 14-1-3-5 M (SD)	問 14-1-3-6 M (SD)
B1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	2.67 (0.500)	2.56 (0.527)	2.22 (0.441)	2.22 (0.667)	2.11 (0.601)	**2.22 (0.667)**
	団体数	11	11	11	11	11	**11**
	4 点未満	2.82 (0.603)	2.64 (0.809)	2.36 (0.674)	2.36 (0.674)	2.27 (0.647)	2.09 (0.539)
	団体数	9	9	9	9	9	9

0201 のアウトカム（検定結果）		問 14-1-4-1 M (SD)	問 14-1-4-2 M (SD)	問 14-1-4-3 M (SD)	問 14-1-4-4 M (SD)	問 14-1-4-5 M (SD)	問 14-1-4-6 M (SD)
B1項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.67 (0.500)**	**2.67 (0.500)**	**2.33 (0.500)**	2.22 (0.667)	2.22 (0.441)	**2.22 (0.667)**
	団体数	**11**	**11**	**11**	11	11	**11**
	4 点未満	2.64 (0.809)	2.64 (0.809)	2.18 (0.603)	2.36 (0.674)	2.27 (0.647)	2.18 (0.603)
	団体数	9	9	9	9	9	9

**P<0.05, **P<0.01*

「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201）」と「B1：障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動（8 要素）」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、一部の項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから部分的にではあるが、効果的援助要素として規定された「B1：障害者が作品を創造し、発表する機会を増やすための活動（8 要素）」項目の実施は「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える（0201）」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

なお、多くの項目において「4 点未達成群」が「4 点達成群」の平均値を上回っていることについては、効果的援助要素の実施度が高い群（4 点達成群）は、すでに担当地域における芸術文化活動が一定程度充実しており「新たに機会を創出すること」が大変である一方、効果的援助要素の実施度が低い群（4 点未達成群）は担当地域における芸術文化活動がそもそも少なく、「新たに創出することが」比較的容易であることも理由として考えられる。このことについては、今後の更なる検証が必要であると考えられる。

次に、「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202）」と「B2：障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動（3 要素）」との関連を検証し、その結果を表 3-4-49 に示す。

表 3-4-49 「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202）」と「B2：障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動（3 要素）」との関連（平均値の比較）（N 21）

0202 のアウトカム（検定結果）		**問 15-1 M (SD)****	問 15-2 M (SD)	**問 15-3 M (SD)****	**問 15-4 M (SD)***	**問 15-5 M (SD)***	問 15-6 M (SD)
B2項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.93 (0.475)**	**2.93 (0.616)**	**3.00 (0.555)**	**2.79 (0.579)**	**2.64 (0.633)**	4.00
	団体数	**14**	**14**	**14**	**14**	**14**	1
	4 点未満	2.14 (0.378)	2.43 (0.535)	2.00 (0.577)	2.14 (0.378)	1.86 (0.378)	
	団体数	7	7	7	7	7	

**P<0.05, **P<0.01*

「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202)」と「B2：障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動(3 要素)」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、すべての項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

また、これらについてマン・ホイットニーの U 検定を行い、検討を行ったところ多くのアウトカム項目（「専門家やプロのアーティストからアドバイスを受ける機会（問 15-1)」、「芸術文化活動全般の勉強会や研修会（問 15-3)」、「創作活動や練習場所等の確保（問 15-4)」、「創作・練習等に必要な道具や機器の提供（問 15-5)」）について、統計的にも有意な差が確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「B2：障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会を増やすための活動（3 要素)」項目の実施は「障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える（0202)」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

次に、「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203)」と「B3：障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動 (9 要素)」との関連を検証し、その結果を表 3-4-50 に示す。

表 3-4-50 「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203)」と「B3：障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動（9 要素)」との関連（平均値の比較）（N 21）

0203 のアウトカム（検定結果）		問 17-1 M (SD)	問 17-2 M (SD)	問 17-3 M (SD)	問 17-4 M (SD)	問 17-5 M (SD)	問 17-6 M (SD)
B3 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**3.33 (0.577)**	**3.00 (0.000)**	**3.00 (0.000)**	2.33 (0.577)	**3.00 (0.000)**	**3.00 (1.000)**
	団体数	**3**	**3**	**3**	3	**2**	**1**
	4 点未満	2.83 (0.707)	2.44 (0.705)	2.94] (0.725)	2.39 (0.502)	2.65 (0.493)	2.22 (0.548)
	団体数	18	18	18	18	17	18

0203 のアウトカム（検定結果）		問 17-7 M (SD)
B3 項目のフィデリティ得点	4 点以上	
	団体数	0
	4 点未満	4.00
	団体数	1

**P<0.05, **P<0.01*

「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203)」と「B3：障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動（9 要素)」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、ア

ウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、殆どの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「B3：障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動（9 要素）」項目の実施は「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が高まる（0203）」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

上の結果から、ロジックモデルに設定した「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0201～0203）と B 領域に規定した活動（効果的援助要素）は互いに関連しており、B 領域に規定した活動（効果的援助要素）を実施することが、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0201～0203）の達成に貢献し得ることが示された。

以上の結果から、ロジックモデルに設定した「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0201～0203）と B 領域に規定した活動（効果的援助要素）は互いに関連しており、B 領域に規定した活動（効果的援助要素）を実施することが、「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える（02）」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0201～0203）の達成に貢献し得ることが示された。

⑧ 「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03）」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0301・0302）と C 領域に規定した活動（効果的援助要素）との関連

まず、「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」と「C1：関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動（9 要素）」との関連を検証し、その結果を表 3-4-51 に示す。

表 3-4-51 「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」と「C1：関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動（9 要素）」との関連（平均値の比較）（N 21）

0301 のアウトカム（検定結果）		問 18-1-1 M (SD)	問 18-1-2 M (SD)	問 18-1-3 M (SD)	問 18-1-4 M (SD)	問 18-1-5 M (SD)	問 18-1-6 M (SD)
C1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**4.00 (0.632)**	**3.83 (0.753)**	3.17 (1.169)	**3.33 (0.516)**	**3.33 (0.516)**	3.00 (0.000)
	団体数	**6**	**6**	6	**6**	**6**	6
	4 点未満	3.47 (0.640)	3.27 (0.799)	3.33 (0.816)	3.20 (0.775)	3.07 (0.704)	3.00 (0.655)
	団体数	15	15	15	15	15	15

0301 のアウトカム（検定結果）		問 19-1-1 M (SD)	問 19-1-2 M (SD)	問 19-1-3 M (SD)	問 19-1-4 M (SD)	問 19-1-5 M (SD)	問 19-1-6 M (SD)
C1項目のフィデリティ得点	4 点以上	**4.17 (0.408)**	**3.83 (0.408)**	**3.67 (0.516)**	**3.80 (0.447)**	**3.67 (0.516)**	3.60 (0.894)
	団体数	**6**	**6**	**6**	**5**	**6**	5
	4 点未満	3.73 (0.458)	3.43 (0.514)	3.47 (0.516)	3.36 (0.497)	3.53 (0.640)	3.64 (0.497)
	団体数	15	14	15	14	15	14

0301 のアウトカム（検定結果）		問 19-1-7 M (SD)	問 19-1-8 M (SD)
C1項目のフィデリティ得点	4 点以上	**4.00 (0.707)**	
	団体数	**5**	0
	4 点未満	3.71 (0.611)	4.00
	団体数	14	1

**P<0.05, **P<0.01*

「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」と「C1：関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動（9 要素）」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、多くの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「C1：関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動（9 要素）」項目の実施は「関係者の必要な知識・スキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる（0301）」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

次に、「（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302）」と「C2：障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動（7 要素）」との関連を検証し、その結果を表 3-4-52 に示す。

表 3-4-52「(障害者の芸術文化活動を支援する) 多様な主体のネットワークが強化される (0302)」と「C2：障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動（7 要素)」との関連（平均値の比較）（N 21）

0302 のアウトカム（検定結果）		問 17-7 M (SD)
C2 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.78 (0.667)**
	団体数	**9**
	4 点未満	2.33 (0.651)
	団体数	12

**P<0.05, **P<0.01*

「(障害者の芸術文化活動を支援する) 多様な主体のネットワークが強化される (0302)」と「C2：障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動（7 要素)」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、殆どの項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「C2：障害者の芸術文化活動を支援する多様な主体のネットワークを強化する活動（7 要素)」項目の実施は「(障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークが強化される（0302)」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

以上の結果から、ロジックモデルに設定した「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0301・0302）と C 領域に規定した活動（効果的援助要素）は互いに関連しており、C 領域に規定した活動（効果的援助要素）を実施することが、「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（関係者）がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる（03)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0301・0302）の達成に貢献し得ることが示された。

⑨ 「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0401・0402）と D 領域に規定した活動（効果的援助要素）との関連

まず、「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401)」と「D1：地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動（6 要素)」との関連を検証し、その結果を表 3-4-53 に示す。

表 3-4-53「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401）」と「D1：地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動（6 要素）」との関連（平均値の比較）（N 21）

0401 のアウトカム（検定結果）		問 23-1-1 M (SD)	**問 23-1-2 M (SD)***	問 23-1-3 M (SD)	問 23-1-4 M (SD)	問 23-1-5 M (SD)	問 23-1-6 M (SD)
D1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**3.14 (0.378)**	**3.00 (0.577)**	**2.71 (0.951)**	**2.43 (0.535)**	**3.00 (0.577)**	**2.43 (0.535)**
	団体数	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**
	4 点未満	2.86 (0.535)	2.14 (0.864)	2.21 (0.699)	1.93 (0.616)	2.21 (0.802)	1.86 (0.663)
	団体数	14	14	14	14	14	14

0401 のアウトカム（検定結果）		問 23-2-1 M (SD)	**問 23-2-2 M (SD)****	問 23-2-3 M (SD)	**問 23-2-4 M (SD)***	問 23-2-5 M (SD)	問 23-2-6 M (SD)
D1 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**3.86 (0.378)**	**4.00 (0.577)**	**3.86 (0.690)**	**3.71 (0.488)**	**3.86 (0.690)**	**3.43 (0.535)**
	団体数	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**	**7**
	4 点未満	3.46 (0.519)	3.00 (0.408)	3.31 (0.480)	3.00 (0.408)	3.23 (0.439)	3.08 (0.494)
	団体数	13	13	13	13	13	13

**P<0.05, **P<0.01*

「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401）」と「D1：地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動（6 要素）」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、すべての項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。また、これらについてマン・ホイットニーの U 検定を行い、検討を行ったところ一部のアウトカム項目（「芸術文化活動を主眼として活躍する NPO 等（問 23-1-2・問 23-2-2）」、「保育園、幼稚園、学校（問 23-2-4）」）については統計的にも有意な差が確認された。

このことから、効果的援助要素として規定された「D1：地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくるための活動（6 要素）」項目の実施は「地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある（0401）」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

次に、「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402）」と「D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素）」との関連を検証し、その結果を表 3-4-54 に示す。

表 3-4-54 「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」と「D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素)」との関連

（平均値の比較）（N 21）

0402 のアウトカム（検定結果）		問 25-1 M (SD)	問 25-2 M (SD)*	問 25-3-1 M (SD)	問 25-3-2 M (SD)	問 25-3-3 M (SD)	問 25-3-4 M (SD)
D2 項目のフィデリティ得点	4 点以上	**2.64 (0.497)**	3.57 (0.514)	3.00 (0.577)	2.23 (0.599)	2.50 (0.674)	2.69 (0.630)
	団体数	**14**	14	13	13	12	13
	4 点未満	2.57 (0.787)	4.00 (0.000)	3.00 (0.000)	2.40 (0.548)	2.80 (0.447)	3.00 (0.000)
	団体数	7	6	5	5	5	5

0402 のアウトカム（検定結果）		問 25-3-5 M (SD)	問 25-3-6 M (SD)*	問 25-3-7 M (SD)
D2 項目のフィデリティ得点	4 点以上	2.33 (0.651)	2.08 (0.494)	**2.92 (0.862)**
	団体数	12	13	**13**
	4 点未満	2.40 (0.548)	2.60 (0.548)	2.60 (0.548)
	団体数	5	5	5

**P<0.05, **P<0.01*

「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」と「D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素)」との関連を検証するために、効果的援助要素の実施状況（フィデリティ尺度得点）4 点を基準に「4 点達成群」と「4 点未達成群」に分け、アウトカムに設定した設問の平均値を比較したところ、一部の項目において「4 点達成群」が「4 点未達成群」を上回る平均値であったことが確認された。

このことから、部分的にではあるが、効果的援助要素として規定された「D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素)」項目の実施は「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」に設定したアウトカムの達成に貢献し得るものであることが示された。

なお、多くの項目において「4 点未達成群」が「4 点達成群」の平均値を上回っている（あるいは両者に差がない）という状況については、効果的援助要素として設定した活動内容が現段階では十分ではなく、「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402)」という成果の達成に向けて、より効果的な活動（効果的援助要素）になるように改善することが必要であると考えられる。このことについては、今後さらなる検討が必要であると考えられる。

以上の結果から、ロジックモデルに設定した「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0401・0402）と D 領域に規定した活動（効果的援助要素）は、互いに関連しており、D 領域に規定した活動（効果的援助要素）を実施することが、「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える（04)」の下位に位置する 4 桁アウトカム（0401・0402）の達成に貢献し得ることは示された。

ただ、前述のとおり、「D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心を高めるための活動（4 要素）」と「地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる（0402）」に設定したアウトカムとの関連は、現段階では確かな（強い）ものではないと考えられるため、今後の継続的な改善が必要であると考えられる。

４）考察

ここでは、ロジックモデル上に示したアウトカムと活動の詳細（効果的援助要素）の関連を検証した。具体的には、①最終アウトカム及び中間アウトカムと 2 桁アウトカムの関連の検証、②2 桁アウトカムと 4 桁アウトカムの関連の検証、③4 桁アウトカムと活動の詳細（効果的援助要素）の関連の検証を行った。

その結果、おおよそロジックモデルに示した仮説のとおり、意図したアウトカムとそれを達成するための活動の詳細（効果的援助要素）は、互いに関連し合っており、効果的援助要素の実施度（フィデリティ得点）が目標とする 4 点を達成している団体（地域）は、4 点未達成の団体（地域）に比べてより良い成果（アウトカム）を達成している傾向にあることが確認された。

このことから、ロジックモデルに設定したアウトカムと活動の詳細（効果的援助要素）との関連は正しく、支援センターにおける障害者の芸術文化活動支援を効果的に実施するためには、効果的援助要素に規定した様々な活動に取り組み、支援センターごと（地域ごと）に成果を高めていくことが有効であると考えられる。この点については、本調査報告書に記載しているプロセスを経て作成した「障害者芸術文化活動普及支援ガイド―より良い協働と事業成果を高めるためのヒント集―（別冊）」を参照し、それぞれの支援センター（地域）で活用していただくことを期待したい。

なお、本調査は 21 か所の支援センター実施団体を対象にしたものであり、分析対象と標本数がとても小さかったという限界があった。いくつかの相関分析において、標本数が小さいがために、総計的な有意差を示すことが困難な場合が多かった。今後は、標本数をさらに増やして分析を行う等、更なる調査・分析を行い、より精度の高い検証が行われることが期待される。

また、本調査は調査票を用いた横断的な調査研究から得られたデータを分析し、様々な結果を得ている。そのため、「規定した活動（効果的援助要素）を実施することで、意図した成果（アウトカム）を得ることができる」という因果関係の検証には至っておらず、あくまで活動の詳細（効果的援助要素）と成果（アウトカム）の関連が検証されたということにとどまっている。そのため、今後は、「規定した活動（効果的援助要素）を実施することで、意図した成果（アウトカム）が得られる」という因果関係を検証するために、介入による縦断的な調査研究の実施も必要であると考えられる[25]。

---

[25] 因果関係を推定するためには次の 3 つの条件のすべてを満たしている必要がある。すなわち、①結果（アウトカム）に対して原因（活動）が時間的に先行している、②2 変数間（アウトカムと活動）が相関関係にある、③2 変数間の相関関係が疑似相関ではない、である。

今回の横断的な調査・分析においては②の条件は満たせるものの、①と③の条件については十分に満たすことができない。これらの条件を十分に満たせる調査・研究の方法は、一般的には縦断的な介入件数（ランダム化比較試験（RCT））ということになる。

3-5. 自治体へのヒアリング調査

１）調査の目的

報告書の冒頭でも述べたように、普及支援事業では、平成 29 年度までは都道府県での実施についても法人格のある団体を公募し、事業計画や実施報告に対する評価委員会を設け、事業の成果や課題について評価を行ってきた。しかし、平成 30 年度から各都道府県が実施主体となり、評価委員会での審査が行われなくなるため、各自治体が自らの評価等に活用する新たな指標や評価の枠組みが必要であるということが、本評価ガイドライン作成事業を実施した背景である。また今後、普及支援事業を全国に広め、各自治体が普及支援事業を実施するにあたり、普及支援事業には、どのような意義があるのか、成果が期待されるのかについて、自治体の中には説明することが困難であるというところもあり、またそのことが、自治体における事業の予算化を難しくしているという現状があるという声も聞かれた。そのため、今後、評価ガイドラインの使用主体となる自治体の普及支援事業担当部局にヒアリング調査を行い、自治体がこれまで行ってきた障害者の芸術文化活動に関する事業についてどのように評価してきたのか、といった実態について確認し、評価ガイドラインの活用に向けて自治体の課題や期待を明らかにするため、ヒアリング調査を行った。

２）方法

（１）調査の時期

平成 31 年 1 月 31 日から 2 月 18 日

（２）調査対象

厚生労働省と協議の上、普及支援事業を実施している自治体の他、今後普及支援事業実施を検討している自治体や未実施の自治体も含め、多様な自治体や支援センターの状況を加味し、全国の 7 自治体を選定、対象とした。

（３）調査の方法

本評価ガイドライン作成事業担当者が、事前に自治体に共有した「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業　自治体　訪問面接票」[26]に基づき、インタビューを行った。時間としては 1 時間半程度。普及支援事業未実施もしくは平成 30 年度以降に実施及び実施予定の自治体へは、普及支援事業や本評価ガイドライン作成事業に関する説明の必要から、厚生労働省の専門官が同席した。

（４）調査の内容（調査項目）

上記のヒアリング調査の目的に基づき、以下の調査項目を設定した。

・自治体の担当部局と普及支援事業、もしくは地域の障害者の芸術文化活動関わりについて
・普及支援事業を実施する理由、普及支援事業に期待すること、求める成果について

[26] 巻末 p.99 参照

・普及支援事業の評価計画（第三者評価を含む）と課題について
・普及支援事業以外に自治体が独自に実施している障害者の芸術文化活動に関する事業の評価方法について
・本評価ガイドラインの活用・運用について

３）結果

（１）ヒアリング調査の実施状況

ヒアリング調査を行った 7 自治体すべてにおいて、障害福祉や障害者支援を行う部局の担当者に参加いただいた（対象自治体の中には、障害福祉担当部局の方に加え、生涯学習課・特別支援教育課に同席いただいたた自治体や、文化振興関連の部署と兼務されている方に参加いただいた自治体もあった)。

（２）自治体の担当部局と普及支援事業、もしくは地域の障害者の芸術文化活動関わりについて

ヒアリング調査を行ったほぼすべての自治体おいて、普及支援事業の実施の有無に関わらず、障害者支援を行う団体や芸術文化関係の団体等と連携して、障害者による絵画等の作品公募展やイベントを企画・運営している（た）という背景があった。現在普及支援事業を行っている自治体の中には、普及支援事業以外に障害者の芸術文化活動を支援するプログラムを他部局で行っているケースもあった。普及支援事業を行っていない自治体では、障害者の芸術文化活動を広める活動の一環として、地域の民間の法人等が行うイベント等を共催しているが、普及支援事業を実施するにあたり、地域のニーズを的確な機会へマッチングするコーディネーター機能を担う団体との連携や、その役割を担う団体がない、あるいは知らないこと等が、実施につながらない課題として挙げられた。また、平成 30 年度から普及支援事業を行った自治体や、今後実施を検討している自治体は、普及支援事業で未実施自治体への働きかけを行っている広域センターからの支援が、普及支援事業実施に向けてとても効果的であったと回答していた。

（３）普及支援事業を実施する理由、普及支援事業に期待すること、求める成果

なぜ、普及支援事業を実施したのかという質問に対して、すでに地域で障害者の芸術文化活動の支援事業に力を入れてきた自治体は、「障害者の芸術文化活動支援の全体を考えて、よりよいものを目指していくときに、特に普及支援事業で目指すものは、機会の創出やコーディネート等の裾野を広げていく活動であり、障害者の方がつくるアートの価値を上げるための活動は別事業で行う等して、国の事業目的に合わせて目指すべき成果を分けて整理している」という意見が聞かれた。また、普及支援事業を行っている自治体には、厚生労働省がモデル事業や普及支援事業を開始する前から、地域で障害者の芸術文化活動を支援するサポート体制がある自治体や議会や首長が障害者の芸術文化活動を重要な施策と位置づけている自治体もあり、普及支援事業を実施しない理由がないという意見もあった。一方、普及支援事業未実施の自治体に関しては、障害者の芸術文化活動を支援したり、推進したりする施策や計画は、様々な法律のもとに多様に存在しており、自治体の中でもすでに多様な部局において行っている現状がある中で、現在実施している事業との差別化が難しく、「なぜこの事業をしなければいけないのか」という説明が難しいという

意見も挙げられた。

（４）普及支援事業の評価計画（第三者評価を含む）と課題について

普及支援事業をすでに行っている自治体に関しては、平成 30 年度以降、評価委員会での審査が行われなくなるため、各自治体が自らの評価等に活用する新たな指標や評価の枠組みが必要となるが、現在どのような評価計画を立てているのか、またそれに伴う課題感について伺った。いくつかの自治体においては、支援センターに関わっている有識者を含む協力委員等へ、支援センターから事業報告を行う場を設け、実績報告をもって自治体の委託事業の評価をするという回答であった。また、自治体が支援センター等によって行われたイベントや展覧会等に対して寄せられたアンケートで、参加者の反応を共有している自治体もあった。加えて、中には、域内の障害福祉施設等を対象に芸術文化活動を提供しているかについて、定期的にアンケート調査を行っている自治体もあり、経時的に障害者の芸術文化活動の機会の拡大具合を調査していた。しかし、全体として支援センターの取り組みや、普及支援事業がどんな変化をもたらしているかという観点での評価は、現状できていないという意見が殆どであった。「評価というと定量的なイメージがあるが、障害者による芸術文化の価値がはかれるのか、質的な変化を見ていくことも大事ではないか」「福祉と芸術という価値の評価が難しいものの評価を行っていくことは困難ではないか」という意見も聞かれた。

（５）普及支援事業以外に自治体が独自に実施している障害者の芸術文化活動に関する事業の評価方法について

普及支援事業に対する自治体の評価については（４）で触れたが、自治体が独自に行ってきた障害者の芸術文化活動に関する事業の評価方法についても、基本的には同様で、イベントを企画した実行委員会や関係者と、イベントの振り返りや報告を行っているとのことだった。しかし、実際はアウトプット（事業の結果）の報告が中心となっていた。自治体が実行委員会や事務局を担当する事業もあり、その事業の大切さは感じているが、それを言語化する難しさや、なぜ大切なのかを表現することが難しく、ゆえに予算獲得をする難しさがあると話していた自治体もあった。

（６）評価ガイドラインの活用・運用について

本事業で作成する評価ガイドラインの活用・運用については、様々な意見をいただいた。まず、支援センター向けに行った調査票①に記載した内容が、アウトカム評価の材料となる場合に、主観的な指標が並んでおり、評価をする担当者の裁量や価値観によって、評価の結果が左右されるのではないかという指摘があった。一方では、アウトカム評価を行う際の項目については、今まで自治体では考えもしなかった項目が含まれており、評価ガイドラインを自治体と支援センターが、事業評価を行う際に、コミュニケーションの材料になるのではないかという意見もあった。本評価ガイドラインが、事後評価だけに使われるものでなく、成果を目指すための計画づくり等や事前評価の段階から使えるものであれば、自治体が支援センターとなる団体を公募する際、または実施先を探す際の仕様の参考になったり、評価計画を立ててもらうときにも役立つという認

識もいただけた。

また、支援センター向けに行った調査票②のフィデリティ尺度に関しては、レーティングを行う意味がしっかり伝わらなければ、結果のデータが間違って解釈されるのではないかという不安も聞かれた。また、モデル事業や普及支援事業を長年行ってきた支援センターと、ゼロからはじめる支援センターが同じレーティングを使って測定されることの懸念もあり、この部分に関しては、どのようにレーティングのデータを読みとく必要があるのかについて言明してほしいという要望があった。また、地域のリソースが有限であることから、戦略的に一部の活動をしないという判断を支援センターが下すこともある場合には、全国平均と比較して「やれていない」と思われてしまうことにつながるのではないかという懸念も聞かれた。

また、評価ガイドラインが紙媒体の書式では、各支援センターが集計をする際に、再入力をしなければいけなかったり、データとしても蓄積しにくいため、電子的な方法によって行えるようにしてほしいとう意見もあった。また、調査票と同様の評価ガイドラインとなれば、ボリュームがあり、これを自治体と支援センターが双方で行うとなると負担があるという意見もあった。一方、自治体や支援センター、そして普及支援事業全体にとって、評価ガイドラインを使うことのどんなメリットがあるのかを理解することができれば、ボリュームに関係なく使用は検討できるという意見もいただいた。

４）考察

今回のヒアリング調査によって障害者の芸術文化活動に関する国や自治体の施策が複数存在し、担当部局も評価や連携の困難感を抱えていることが明らかになった。しかし同時に、「障害者の芸術文化活動」の評価と、その活動の一部として位置づけられる「普及支援事業の支援センターによる活動」の評価とを混同されているケースも多く、ヒアリング調査の中でもご指摘いただいたように、「何のための評価なのか」「それによってどんな学びやメリットがあるのか」を明確に打ち出し、それによってもたらされる「価値」について明記した評価ガイドラインにならなければ、おそらく自治体で活用いただくことは難しいことが分かった。同時に、この部分で評価ガイドラインがコミュニケーションツールの役割を果たし、支援センターと自治体が共通言語と目的意識を共有し、協働して事業成果を高める余地があることも分かった。

また、これまでアウトプット（事業の結果）を成果と捉えてきた現状と、定量化することへ懸念等を考えると、「何を普及支援事業の成果とするのか」の目線あわせを評価ガイドラインを通して行い、そのプロセスとして行うフィデリティ尺度の読み解き方や活用の仕方を丁寧に説明する必要があることが分かったことも貴重な学びとなった。

4. 検討委員会の実施

本事業を実施するにあたり、検討委員[27]による検討委員会を 4 回にわたって開催した。ここではその概略について述べる。また、検討委員会で行った事務局による調査の報告や説明に関しては、本報告書の 3. 事業内容で述べたものである。

１）委員会開催日時

第 1 回検討委員会：2018（平成 30）年 8 月 7 日（火）　10 時～12 時
第 2 回検討委員会：2018（平成 30）年 10 月 15 日（月）　10 時～12 時
第 3 回検討委員会：2018（平成 30）年 12 月 26 日（水）　13 時～15 時
第 4 回検討委員会：2019（平成 31）年 3 月 6 日（水）　10 時～12 時

２）第 1 回検討委員会概要

- 本評価ガイドライン作成事業の概要（目的・計画）の説明
- 評価ガイドライン作成方法と社会的インパクト評価についての説明
- 本評価ガイドライン作成事業のロジックモデル（案）の共有
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 評価の実施主体やガイドラインの運用については、普及支援事業の現状や支援センターや自治体の評価の能力や支援の状況を考慮する必要がある。
  - 多様なアウトカムやインパクトを内包できる構成を考えるべき。
  - 既存の芸術文化関連団体等とのネットワークを活用する等、協働して評価を実施することが重要。
- ヒアリング調査対象候補の検討と決定
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - ヒアリング調査先を普及支援事業の実施団体に限るメリットもあるが、既存の制度の枠組みやあり方を柔軟にとらえる目的で意見を抽出するためのヒアリング調査を実施することも意義があるため、実施団体以外にも行ってはどうか。

３）第 2 回検討委員会概要

- ヒアリング調査実施結果の報告と更新版ロジックモデル（案）の説明
- 更新版ロジックモデル（案）についての意見交換
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - アウトカムを量的にも質的も測定する必要があり、その際に、それぞれの測定の観点について言及する必要がある。

[27] 巻末 p.84 参照。

- ロジックモデルの中の文言や表現に関しては、工夫が必要である。
- 最終目標が事業の目標であるのか、もう少し大きなゴール（共生社会の実現、差別のない社会の実現等）になるのかによって、ロジックモデルの構成が変わるため、本事業で作成するロジックモデルの範囲について検討すべき。

● 更新版ロジックモデル（案）の 2 桁、4 桁以下のアウトカムについて議論

以下、検討委員からの意見のハイライト

- 評価対象が支援センターの事業だけでなく、行政・自治体の活動の改善にもつながるようなものになるとよい。
- ロジックモデルによってアウトカムが明文化されることで、行政も動きやすくなるのではないかと推測する。
- 支援センターの努力だけでは限界があるので、行政・自治体等が協働して評価を行えるものになることを期待したい。

● 評価の運用方法についての議論

以下、検討委員からの意見のハイライト

- 障害者の芸術文化活動の「中間支援」としての支援センターの評価につながるものにしてほしい。
- 「全部やらなければならない」「義務である」というような認識が起こらないように運用方法を説明、明文化すべき。
- 事業実施側の強みや弱みに関する気づきが事業改善にとって重要になると考えられる。
- 普及支援事業に関しては、各都道府県によって委託先があったり、補助先があったり、都道府県本体が行っている場合があるため、評価ガイドラインの運用方法は異なってくることが想定されるため、そのあたりを意識した運用モデルを期待している。
- 評価結果について、各都道府県を超えて互いに共有するということが、事業改善や学びに役立つと考えられる。

● 「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（以下、障害者文化芸術活動推進法）」とその基本計画との連動について

以下、検討委員からの意見のハイライト

- 障害者文化芸術活動推進法の中で想定されている芸術文化活動を提供する場や主体についても、評価ガイドラインの中で意識されていても良いのではないか。
- （更新版ロジックモデル（案）に対して）支援センターの取り組みを考慮すると、家族の変化だけを捉えるアウトカムの項目があることに違和感があり、「地域社会」「支援者」の定義や、ロジックモデルでの据え方と合わせて考慮の必要がある。

４）第 3 回検討委員会

- 最新版のロジックモデル（案）の概要と前回からの変化のポイントについての説明
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 障害者という文言をロジックモデルや評価ガイドライン等で使うときの位置づけを整理すべき。
  - 「芸術文化活動をしなければならない」「個性的な表現でなければならない」というように読み取れてしまう表現もあるため、アウトカムの書きぶりは再考すべき。
  - 障害者の「個性と能力」という表現については様々な意見があるため、適切かどうか再考すべき。
- 支援センターへのアンケート調査の目的や調査設計についての説明
- フィデリティ尺度・効果的援助要素の概要についての説明
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 調査票（案）については、説明を聞きながら紙で読んでいて初めて理解できたため、支援センターへも調査票に対する質問等の受付方法を明確にすることや丁寧に受け付ける等配慮が必要。支援センターがわかりやすく回答できる方法で検討すべき。
  - 調査の目的が支援センターを評価するものではなく、調査に活用してもらう位置づけであるということを明記した方がよい。
  - 内容のハードルは確かに高いかもしれないが、支援センターが事業を行う意義や目的が、本調査を通して改めて伝わると良い。
  - 今年度から評価の制度も無くなったため、現状把握と変化を聞く項目は両方取り入れて欲しい。

５）第 4 回検討委員会

- アンケート調査結果と分析内容についての説明
  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 「効果がある」と言われている活動をしているにも関わらず、成果が出ていない場合は、その原因を探ったり、共有したりすることで、改善につなげていくことが重要であり、そこにつながる評価ガイドラインであることが理解できた。
  - 評価ガイドラインの活用方法として、広域センターや連携事務局と共有することで、支援センターを応援する体制も整っていくことを期待したい。
  - 評価ガイドラインを使うことで、自分の地域・活動の現状を把握することができる。それをもとに、具体的にマネジメントの PDCA を回すわけだから、現状把握をして、どんな事業の計画づくりをしていくかを考えることにつながる。

- 評価というものへのイメージを考えると、いきなりフルパッケージのアウトカム評価というよりも、まず振り返りから活用してもらうという使いやすさ、馴染みやすさも重要ではないか。

- 自治体ヒアリング調査の結果について報告
- 評価ガイドラインの内容・項目について

  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 評価ガイドラインの対象については、誰に向かって書くかというのが重要であり、読み手や使い手を意識し、自治体職員と、支援センター、広域センター、連携事務局それぞれにこの評価ガイドラインをどう使ってほしいかという記載が必要である。
  - 協力関係を図式化して、それぞれに対しての活かし方等が表現できると良い。
  - 自己評価にも活用でき、この結果を踏まえて、地域で障害者の芸術文化活動を推進するための活動を行っている団体や、自治体と協働して一緒に事業を良くしていくことに役立つことを明記して欲しい。
  - 今後支援センターが集ったときに、このツールを使うと、みんなが事業の振り返りや課題を共通言語で話すことができるようになる。ディスカッションや事例発表等の照準合わせに使えるものができるのではないか。
- 評価ガイドラインの活用方法

  以下、検討委員からの意見のハイライト
  - 支援センターが評価ガイドラインを使用して評価や振り返りができるようになるための研修のパッケージをつくることが求められると思うため、支援センターの研修の仕組みが今後作られることを期待したい。
  - 全国連絡会議等で、この評価ガイドラインの使い方等について検討したり学んだりする機会を設けてみてはどうか。

5. まとめ

本評価ガイドライン作成事業では、過去の事業報告書等を手掛かりに普及支援事業における支援センターのロジックモデル（案）及びの効果的援助要素（案）を作成し、有識者・専門家による段階ごとの検討や参考となる団体へのヒアリング調査、支援センターへの質問紙調査、さらには、この効果的援助要素を元にして作成されたフィデリティ尺度を用いた「効果的援助要素と意図したアウトカムとの関連の検証」を行い、その成果を「障害者芸術文化活動普及支援ガイド―より良い協働と事業成果を高めるためのヒント集―（別冊）」にまとめた。

検証の結果、サンプルの少なさという課題もあるが、おおよそロジックモデルに示した仮説のとおり、意図したアウトカムとそれを達成するための活動の詳細（効果的援助要素）は、互いに関連し合っており、効果的援助要素の実施度（フィデリティ得点）が目標とする 4 点を達成している団体（地域）は、4 点未達成の団体（地域）に比べてより良い成果（アウトカム）を達成している傾向にあることが確認された。このことから、ロジックモデルに設定したアウトカムと活動の詳細（効果的援助要素）との関連は正しく、支援センターにおける障害者の芸術文化活動支援を効果的に実施するためには、効果的援助要素に規定した様々な活動に取り組み、支援センターごと（地域ごと）に成果を高めていくことが有効であると考えられる結果となった。

実際、事業の計画や振り返り、そして評価の際にこの活動のコツともいえる効果的援助要素を取りこむことで、普及支援事業において支援センターが成果を生み出していくことが期待できる。詳細については、「障害者芸術文化活動普及支援ガイド―より良い協働と事業成果を高めるためのヒント集―（別冊）」を参照し、活用いただきたい。

本評価ガイドライン作成事業を開始したときには、効果的援助要素とアウトカムとの関連の検証までは行う予定ではなかった。しかし、現場で活用していく中でより精緻なものを求めていくという観点から、検討委員や関係者の皆様のご理解のもと、評価ガイドライン作成に至ることができ、感謝申し上げたい。成果物であるガイドがもとにしているロジックモデルは、現場での活動や社会情勢等に応じて、変化しうるものであり、現場から成果を生み出す他の活動のコツが生まれれば、また修正・改良を加えることができるものである。また同時に、支援センターの現状については、横断的なアンケート調査から得られたデータを分析し、様々な結果を得ている。しかし、「規定した活動（効果的援助要素）を実施することで、意図した成果（アウトカム）を得ることができる」という因果関係の検証には至っておらず、あくまで、活動（効果的援助要素）と成果（アウトカム）の関連が検証されたということにとどまっている。そのため、今後は、「規定した活動（効果的援助要素）を実施することで、意図した成果（アウトカム）が得られる」という因果関係を検証するために、介入による縦断的な調査研究の実施も必要であり、今後も活用の主体や、支援センターを支援する広域センターや連携事務局等と協働する中で、本評価ガイドラインをさらに発展させていただくことを期待したい。

6. 資料

次の順序で資料を掲載する。

- 検討委員名簿
- 訪問面接票（支援センター実施団体用）
- 訪問面接票（支援センター実施団体以外用）
- 自治体訪問面接票
- 調査票①
- 調査票②

障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業
検討委員名簿

【検討委員】（五十音順）

大澤　寅雄　　ニッセイ基礎研究所
大塚　晃　　上智大学　総合人間科学部　社会福祉学科　教授
重光　豊　　特定非営利活動法人障碍者芸術推進研究機構　天才アート KYOTO 副理事長
新藤　健太　　群馬医療福祉大学　社会福祉学部　助教
長津　結一郎　九州大学　大学院芸術工学研究院　コミュニケーションデザイン科学部門　助教
西村　陽平　　日本女子大学　名誉教授
保坂　健二朗　独立行政法人国立美術館　東京国立近代美術館主任研究員
松下　功　　東京藝術大学　副学長　演奏藝術センター　教授
源　由理子　　明治大学　専門職大学院ガバナンス研究科　教授
吉野　さつき　愛知大学　文学部　メディア芸術専攻　教授

以上

「障害者芸術文化活動普及支援事業」訪問面接票（支援センター実施団体用）

団体・事業名	
面接日：　　2018 年　　月　　日	調査時間：
回答者：	調査員：

【貴団体の活動について】

■ **貴団体の活動について伺います。**

○貴団体は何を目指し、どのような活動を行っているのか聞かせて下さい。

【プログラム実施のゴール・ミッション】

■ **貴団体が「障害者芸術活動普及支援事業（主に、支援センター機能として）」において目指している活動について伺います。**

○（現状はどうあれ）貴団体が目指している「支援センター機能」はどのようなものかについて、あなたのお考えがあれば聞かせて下さい。

○ これまでに私たちが作成してきたロジックモデルについて、これが妥当かどうか、あなたのお考えを聞かせて下さい。

【障害者の自己肯定感が高まる（ロジックモデルの 01）】

■ **障害者が自己表現をできるようになる**

○ 障害者が自己表現をできるようになるために貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **障害者の作品が周囲に認められる**

○ 障害者の作品が周囲に認められるために貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **芸術活動を通して、障害者の心身の安定が図れる**

○ 芸術活動を通して、障害者の心身の安定が図れるために貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、障害者の自己肯定感を高めるために、貴団体が「支援のセンターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【障害者がより芸術活動に参加できる（ロジックモデルの 02)】

■ **芸術活動のメニューができる（増える）**

○（障害者が参加できる）芸術活動のメニューを増やす（つくる）ために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

①福祉施設に向けて、はいかがでしょうか。

②芸術団体に向けて、はいかがでしょうか。

③教育関連施設に向けて、はいかがでしょうか。

④その他

■ **障害者が芸術活動の情報をキャッチできる**

○ 障害者が芸術活動の情報をキャッチするために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ 障害者の芸術活動に対する活動意欲が向上する

○ 障害者の芸術活動に対する活動意欲を高めるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ その他

○ その他、障害者がより芸術活動に参加するために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【障害者が芸術活動を通して周囲の人とつながる（新しい関係ができる・関係性がより深まる）（ロジックモデルの 03)】

■ 一人ひとりに合った芸術活動を通したコミュニケーションのあり方が、周囲に受容される

○ 一人ひとりに合った芸術活動を通したコミュニケーションのあり方を周囲の人に受容してもらうために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ 多様な表現方法の機会が提供される（絵画・演奏・パフォーマンス等）

○ 多様な表現方法の機会提供されるようにするために、貴団体が「支援のセンターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ その他

○ その他、障害者が芸術活動を通して周囲の人とつながるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つとなる）（ロジックモデルの 04)】

■ 障害者の作品及び芸術活動の質が高まる

○ 障害者の作品及び芸術活動の質を高めるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **障害者の作品及び芸術活動に対する社会の認知が高まる**

○ 障害者の作品及び芸術活動に対する社会の認知を高めるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **障害者が作品及び芸術活動を通して収入を得られるようになる**

○ 障害者が作品及び芸術活動を通して収入を得られるようにするために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つになる）ために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【障害者が適切な芸術活動の支援を受けられるようになる（ロジックモデルの 05)】

■ **施設職員の障害者芸術に関する知識が向上する**

○ 施設職員の障害者芸術の関する知識を向上するために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **施設職員が展覧会や公演等をマネジメントするスキルを身に着ける**

○ 施設職員が展覧会や公演等をマネジメントするスキルを身に着けるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **芸術活動を通して施設職員と障害者のコミュニケーションに良い変化が起こる**

○ 芸術活動を通して施設職員と障害者のコミュニケーションに良い変化を起こすために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **施設職員の（障害者に対する）支援観が良い方向に変化する**

○ 施設職員の（障害者に対する）支援観を良い方向に変化させるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **障害者の芸術活動をサポートすることによって、施設職員が新たな支援方法を身に着ける**

○ 障害者の芸術活動をサポートすることによって、施設職員が新たな支援方法を身に着けるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **施設職員同士（色々な立場の職員間）のコミュニケーションがスムーズになる**

○ 施設職員同士（色々な立場の職員間）のコミュニケーションをスムーズにするために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つになる）ために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【家族と障害者の関係性がより良くなる（ロジックモデルの 06)】

■ **家族の障害者に対する価値観が変わる（前向きになる）**

○ 家族の障害者に対する価値観を変える（前向きにする）ために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **家族と障害者間のコミュニケーションがより良くなる**

○ 家族と障害者間のコミュニケーションをより良くするために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **家族同士知り合いができ、孤独感が緩和される（悩み事が共有される）**

○ 家族同士が知り合い、孤独感を緩和するために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **家族が社会の様々な人たちと接点を持つようになる**

○ 家族が社会の様々な人たちと接点を持つようになるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、家族と障害者の関係性がより良くなるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【行政がスムーズに連携できるようになる（ロジックモデルの 07)】

■ **（行政）職員の意識が他部局や民間と連携することに前向きになる**

○（行政）職員の意識が他課や民間と連携することに前向きになるために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **行政の中で様々な課同士、あるいは民間と連携する仕組みが構築される**

○ 行政の中で様々な課同士、あるいは民間と連携する仕組みを構築するために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、行政がスムーズに連携できるようになる（障害者の芸術活動に関して）ために、貴団体が「支援センターとして」取り組んでいること（あるいは、今後必要と考えていること）はありますか。

【地域社会（地域住民）で、障害者の芸術活動を支える人が増える（ロジックモデルの 08)】

○ 地域社会（地域住民）で、障碍者の芸術活動を支える人が増えるためにどのようなことが必要でしょうか。

【本事業（評価ガイドライン）について】

○ 評価ガイドラインが完成したら活用してみたいと思いますか。

○(活用してみたい場合) 日々の実践のなかでどのように活用することが想定できるでしょうか。

○（活用したくない場合）それは何故でしょうか。

「障害者芸術文化活動普及支援事業」訪問面接票（支援センター実施団体以外用）

団体・事業名	
面接日：　　2018 年　　月　　日	調査時間：
回答者：	調査員：

【貴団体の活動について】

■ **貴団体の活動について伺います。**

○ 貴団体は何を目指し、どのような活動を行っているのか聞かせて下さい。

【障害者芸術文化活動普及支援事業（支援センター）について】

■ **障害者芸術文化活動普及支援事業（支援センター）について説明します。**

【プログラム実施のゴール・ミッション】

■ **貴団体が「障害者芸術活動普及支援事業（主に、支援センター機能として)」に期待することについて伺います。**

○ 貴団体が活動を行っていく上で、支援センター（中間支援）に期待することはどのようなものでしょうか、あなたのお考えがあれば聞かせて下さい。

○ これまでに私たちが作成してきたロジックモデルについて、これが妥当か（支援センターの活動としてふさわしいか）どうか、あなたのお考えを聞かせて下さい。

【障害者の自己肯定感が高まる（ロジックモデルの 01)】

■ **障害者が自己表現をできるようになる**

○ 障害者が自己表現をできるようになるために貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **障害者の作品が周囲に認められる**

○ 障害者の作品が周囲に認められるために貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **芸術活動を通して、障害者の心身の安定が図れる**

○ 芸術活動を通して、障害者の心身の安定が図れるために貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、障害者の自己肯定感を高めるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【障害者がより芸術活動に参加できる（ロジックモデルの 02）

■ **芸術活動のメニューができる（増える）**

○（障害者が参加できる）芸術活動のメニューを増やす（つくる）ために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

①福祉施設に向けて、はいかがでしょうか。

②芸術団体に向けて、はいかがでしょうか。

③教育関連施設に向けて、はいかがでしょうか。

④その他

■ **障害者が芸術活動の情報をキャッチできる**

○ 障害者が芸術活動の情報をキャッチするために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **障害者の芸術活動に対する活動意欲が向上する**

○ 障害者の芸術活動に対する活動意欲を高めるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、障害者がより芸術活動に参加するために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【障害者が芸術活動を通して周囲の人と繋がれる（新しい関係ができる・関係性がより深まる）（ロジックモデルの 03)】

■ **一人ひとりに合った芸術活動を通したコミュニケーションのあり方が、周囲に受容される**

○ 一人ひとりに合った芸術活動を通したコミュニケーションのあり方を周囲の人に受容してもらうために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **多様な表現方法の機会が提供される（絵画・演奏・パフォーマンス等）**

○ 多様な表現方法の機会提供されるようにするために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、障害者が芸術活動を通して周囲の人とつながるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つとなる）（ロジックモデルの 04)】

■ 障害者の作品及び芸術活動の質が高まる

○ 障害者の作品及び芸術活動の質を高めるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 障害者の作品及び芸術活動に対する社会の認知が高まる

○ 障害者の作品及び芸術活動に対する社会の認知を高めるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 障害者が作品及び芸術活動を通して収入を得られるようになる

○ 障害者が作品及び芸術活動を通して収入を得られるようにするために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ その他

○ その他、芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つになる）ために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【障害者が適切な芸術活動の支援を受けられるようになる（ロジックモデルの 05)】

■ 施設職員の障害者芸術に関する知識が向上する

○ 施設職員の障害者芸術の関する知識を向上するために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 施設職員が展覧会や公演等をマネジメントするスキルを身に着ける

○ 施設職員が展覧会や公演等をマネジメントするスキルを身に着けるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **芸術活動を通して施設職員と障害者のコミュニケーションに良い変化が起こる**

○ 芸術活動を通して施設職員と障害者のコミュニケーションに良い変化を起こすために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **施設職員の（障害者に対する）支援観が良い方向に変化する**

○ 施設職員の（障害者に対する）支援観を良い方向に変化させるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **障害者の芸術活動をサポートすることによって、施設職員が新たな支援方法を身に着ける**

○ 障害者の芸術活動をサポートすることによって、施設職員が新たな支援方法を身に着けるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **施設職員同士（色々な立場の職員間）のコミュニケーションがスムーズになる**

○ 施設職員同士（色々な立場の職員間）のコミュニケーションをスムーズにするために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ **その他**

○ その他、芸術活動が障害者の働き方の幅を広げる（選択肢の 1 つになる）ために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【家族と障害者の関係性がより良くなる（ロジックモデルの 06)】

■ 家族の障害者に対する価値観が変わる（前向きになる）

○ 家族の障害者に対する価値観を変える（前向きにする）ために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 家族と障害者間のコミュニケーションがより良くなる

○ 家族と障害者間のコミュニケーションをより良くするために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 家族同士知り合いができ、孤独感が緩和される（悩み事が共有される）

○ 家族同士が知り合い、孤独感を緩和するために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 家族が社会の様々な人たちと接点を持つようになる

○ 家族が社会の様々な人たちと接点を持つようになるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ その他

○ その他、家族と障害者の関係性がより良くなるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【行政がスムーズに連携できるようになる（ロジックモデルの 07)】

■（行政）職員の意識が他課や民間と連携することに前向きになる

○（行政）職員の意識が他課や民間と連携することに前向きになるために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ 行政の中で様々な課同士、あるいは民間と連携する仕組みが構築される

○ 行政の中で様々な課同士、あるいは民間と連携する仕組みを構築するために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

■ その他

○ その他、行政がスムーズに連携できるようになる（障害者の芸術活動に関して）ために、貴団体が「支援センターに」求めること（現在助けになっていること、今後期待すること）はありますか。

【地域社会（地域住民）で、障害者の芸術活動を支える人が増える（ロジックモデルの 08)】

○ 地域社会（地域住民）で、障害者の芸術活動を支える人が増えるためにどのようなことが必要でしょうか。

【本事業（評価ガイドライン）について】

○ 評価ガイドラインが完成したら活用してみたいと思いますか。

○（活用してみたい場合）日々の実践のなかでどのように活用することが想定できるでしょうか。

○（活用したくない場合）それは何故ですか。

2018 年度　厚生労働省障害者福祉推進事業

「障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業」自治体　訪問面接票

このたびはヒアリングのお時間をいただき、誠にありがとうございます。ヒアリングの最初にインタビュアーより評価ガイドライン作成事業に関して、簡単にご説明させていただいた上で、以下の内容についてお伺いします。事業開始のタイミング等が皆様異なりますので、お答えいただける範囲で結構です。お時間は 1 時間～1 時間半程度を想定しております。ご多忙の中恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

1.　担当部局と普及支援事業、もしくは地域の障害者の芸術文化活動関わりについて、簡単に教えて下さい。

2.　貴自治体（もしくは部局）が本事業を行おうと決めた理由は、地域の障害者芸術文化活動に関するどのような「評価結果」に基づくものでしたか。

3.　自治体が普及支援事業に期待すること、求める成果にはどのようなものがありますか。

4.　自治体として、普及支援事業をどのように評価していきたいと考えていますか。

5.　(※今年度実施している団体のみ)事業計画書に記載いただいた「本事業に関わる第三者評価について」について教えて下さい。

6.　普及支援事業やモデル事業でなくても、自治体が障害者の芸術文化活動やその普及や成果を過去に考える機会があったとしたら）今まではどのような方法で、評価を行っていましたか（やり方、評価者、タイミング等）

7.　上記に関連する質問で、今までの評価の仕方について、とても有効だったもの、意義深いと感じられたもの、または課題はありましたか。あれば、それはどのようなものでしたか。具体的に教えて下さい。

8.　普及支援事業の評価をするにあたり、不安やチャレンジはありますか。

9.　年に 1 回、本ガイドラインを使って評価を行うと考えたときに、評価項目や分量は適切だと思いますか。他に入れた方が良いと思う項目等がありましたら、教えて下さい。

10.　普及支援事業の評価結果を自治体として活用する機会や目的として、どんなことが想定されますか。

11.　普及支援事業のさらなる質の向上を目指したときに、普及支援事業を行う支援センターや実際の活動団体、そして自治体が「一緒に」評価をしたり、評価ガイドラインをブラッシュアップしていく機会を設けることについて、どう思いますか。

12.　評価ガイドラインを適切に運用したり、成果や活動をブラッシュアップしていくために、評価の専門家や伴走支援を利用したいと思いますか。

以上

障害者芸術文化活動普及支援事業　評価ガイドライン作成事業　調査票①

日付	2019 年　　月　　日
団体名	

この度は、本アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございます。本アンケートは平成 29 年度および平成 30 年度に「障害者芸術文化活動普及支援事業（以下、普及支援事業とする）」の「都道府県における障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センターとする）」を担当した団体を対象としております。支援センターの実施年度により、**以下のいずれかに従って**回答いただくようお願い申し上げます。

① 平成 29 年度に**実施、**平成 30 年度に**未実施**の場合
平成 29 年度の状況について回答いただき、変化について問う設問に関しては、**普及支援事業の開始時、もしくは「障害者の芸術活動支援モデル事業（以下、モデル事業とする）を行っていた団体はモデル事業開始時**から平成 29 年度までの変化

② 平成 29 年度と平成 30 年度共に**実施**、または、平成 29 年度に**未実施**、平成 30 年度に**実施**の場合
平成 30 年度の現況について回答いただき、変化について問う設問に関しては、**普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時**から平成 30 年度現在までの変化についてお答え下さい。

＜調査票①の回答方法＞
- いずれの場合も、貴団体が把握できる範囲でご回答下さい。
- 複数選択肢のある質問は、該当する選択肢の数字に〇印をご記入下さい。
- 自由記述でスペースが足りない場合は、余白をご利用いただくか、別紙を添付の上、別紙に該当する設問番号とともにご記入下さい。

まず、貴団体の概要についてお伺いします。

問1.　貴団体の運営形態に一番近いものを以下の中から 1 つ選択して下さい。

1. 障害者福祉施設（入所・通所含む）	2. 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	3. 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）
4. 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	5. コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	6. その他 （具体的に記入して下さい： ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

問2.　平成 30 年度より前に、普及支援事業、またはモデル事業を行いましたか。

1. はい（⇒問 3 へお進み下さい）	2. いいえ（⇒問 4 へお進み下さい）

問3.　平成 30 年度より前に、普及支援事業、またはモデル事業を行ったと答えられた団体の皆様は、いつ、どの事業を行いましたか。当てはまるもの全てに〇印をつけて下さい。

1. 平成 26 年度　モデル事業	2. 平成 27 年度　モデル事業	3. 平成 28 年度　モデル事業
4. 平成 29 年度　普及支援事業 都道府県センター	5. 平成 29 年度　普及支援事業 広域ブロック	6. 平成 29 年度　普及支援事業 連携事務局

問4.　貴団体が障害者の芸術文化活動支援に従事し始めたのはいつですか。西暦でお答え下さい。

年

問 5-1.　どのような種類の障害者の芸術文化活動に関する情報提供や相談支援を行っていますか。以下の中から 1 つ選択して下さい。

1.　美術分野のみ	2.　舞台芸術分野のみ	3.　美術分野を中心に、舞台芸術分野についても行っている
4.　舞台芸術分野を中心に、美術分野についても行っている	5.　両方バランスよく行っている	6.　その他 ⇒問 5-2 をご回答下さい

問 5-2.　問 5-1 で 6.その他とお答えになられた団体は、どのような活動を行われているか具体的に教えて下さい。

問6.　どのような障害を持たれる方々と支援センター事業を通して関わっていますか。あてはまるもの全てに〇印をおつけ下さい。（※1）

1.　肢体不自由	2.　視覚障害	3.　聴覚障害	4.　内部障害	5.　知的障害
6.　発達障害	7.　精神障害	8.　音声、言語、そしゃく機能障害	9.　その他	

※1 障害の分類は文化庁 H29 年度「障害者の文化芸術の鑑賞活動及び創作活動実態調査」を参考に作成。

次に事業の実情や成果についてお伺いします。

問7.　担当の都道府県において、障害者の芸術文化活動への参加はどの程度ありますか。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに〇印をおつけ下さい。

		かなりいる	少しいる	あまりいない	全くいない
7-1	芸術文化の直接鑑賞を行っている障害者の数（注：直接鑑賞とは、「ホール・劇場・映画館・博物館等で芸術文化を直接鑑賞した経験」を指します）	1	2	3	4
7-2	芸術文化のイベントやワークショップ等へ参加する障害者の数	1	2	3	4
7-3	芸術文化の創造活動に参加する障害者の数	1	2	3	4
7-4	芸術文化に関する作品制作や表現の技術向上の機会（絵画教室、舞台芸術のレッスン等）に参加する障害者の数	1	2	3	4
7-5	芸術文化活動に対して自ら主体的に取り組む障害者の数	1	2	3	4
7-6	芸術文化活動を通して自分の特技を生かせている障害者の数	1	2	3	4
7-7	芸術文化活動に触れる・関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数	1	2	3	4
7-8	複数の芸術文化活動のプログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数	1	2	3	4
7-9	友人や地域の人たちとつながりながら、芸術文化活動に参加する障害者の数	1	2	3	4

問8.　問 7 の各項目について、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、それぞれどう変化していると思いますか。1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	とても減っている
8-1	芸術文化の直接鑑賞を行っている障害者の数（注：直接鑑賞とは、「ホール・劇場・映画館・博物館等で芸術文化を直接鑑賞した経験」を指します）	1	2	3	4	5
8-2	芸術文化関係のイベントやワークショップ等へ参加する障害者の数	1	2	3	4	5
8-3	芸術文化の創造活動に参加する障害者の数	1	2	3	4	5
8-4	芸術文化活動に関する作品制作や表現の技術向上の機会（絵画教室、舞台芸術のレッスン等）に参加する障害者の数	1	2	3	4	5
8-5	芸術文化活動に対して自ら主体的に取り組むようになった障害者の数	1	2	3	4	5
8-6	芸術文化活動を通して自分の特技を生かせている障害者の数	1	2	3	4	5
8-7	芸術文化活動に触れる・関わることでより生活がいきいきとしてきた障害者の数	1	2	3	4	5
8-8	複数の芸術文化プログラムから自分の興味や関心に合わせて選択できている障害者の数	1	2	3	4	5
8-9	友人や地域の人たちとつながりながら、芸術文化活動に参加する障害者の数	1	2	3	4	5

問9.　担当の都道府県において、芸術文化活動を通して障害者の社会参加が促進された事例について教えて下さい。（特に人数や規模に関わらず、特徴的な事例や、初めて試みた事例、障害特性や芸術文化活動の種類等から全国的にも例のなかった取り組み等について教えて下さい。）

問10.　貴センターでは担当の都道府県における障害者を主体とした芸術文化活動の現状を、どの程度把握していますか。各項目、1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

			十分把握している	まあまあ把握している	どちらともいえない	あまり把握していない	全く把握していない
10-1	美術の活動・プログラムについて						
	10-1-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）での活動	1	2	3	4	5
	10-1-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等での活動	1	2	3	4	5
	10-1-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-1-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-1-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-1-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4	5
10-2	舞台芸術の活動・プログラムについて						
	10-2-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）での活動	1	2	3	4	5
	10-2-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等での活動	1	2	3	4	5
	10-2-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-2-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-2-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4	5
	10-2-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4	5

問11.　担当の都道府県における障害者の芸術文化活動に関する課題についてお伺いします。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

			とてもある	少しある	あまりない	全くない
11-1	美術分野について					
	11-1-1	障害者の芸術文化活動を支える人材育成に関する課題	1	2	3	4
	11-1-2	創作環境に関する課題	1	2	3	4
	11-1-3	展示・発表機会に関する課題	1	2	3	4
	11-1-4	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4

			とてもある	少しある	あまりない	全くない
11-2	舞台芸術分野について					
	11-2-1	障害者の芸術文化活動を支える人材育成に関する課題	1	2	3	4
	11-2-2	創作環境に関する課題	1	2	3	4
	11-2-3	発表・公演機会に関する課題	1	2	3	4
	11-2-4	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4
11-3	美術・舞台芸術両分野について					
	11-3-1	予算・資金面での課題	1	2	3	4
	11-3-2	発信力・広報力に関する課題	1	2	3	4
	11-3-3	アーティストの権利擁護に関する課題	1	2	3	4
	11-3-4	障害者福祉や芸術文化の専門家等との連携、ネットワーキングに関する課題	1	2	3	4
	11-3-5	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4

問12.　貴センターによる障害者の芸術文化活動に関する相談支援についてお伺いします。各相談事例における貴センターでの対応の困難さの状況について、各項目、1～6 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

項目の中の（※）の相談に関しては、法的助言を要する相談を含めないでお答え下さい。

			困難もなく、十分に対応できている	困難はあるが、対応できている	どちらともいえない	困難があり、あまり対応できていない	困難があり、全く対応できていない	該当する相談を受けたことがない
12-1	美術分野について							
	12-1-1	美術の鑑賞関する相談(※)	1	2	3	4	5	6
	12-1-2	創作環境に関する相談（はじめたい、充実させたい、関わりたい、見学したい）(※)	1	2	3	4	5	6
	12-1-3	展示発表機会に関する相談（作品を発表したい、展覧会を開催したい、出展を依頼された）(※)	1	2	3	4	5	6
	12-1-4	作者の権利擁護に関する相談(作品の出展契約、寄託、二次利用)	1	2	3	4	5	6
	12-1-5	作品の売買、商品化に関する相談	1	2	3	4	5	6
	12-1-6	作品のグッズ化、媒体化に関する相談	1	2	3	4	5	6
12-2	舞台芸術分野について							
	12-2-1	舞台芸術の鑑賞に関する相談(※)	1	2	3	4	5	6
	12-2-2	創作環境に関する相談（はじめたい、充実させたい、関わりたい、見学したい）(※)	1	2	3	4	5	6
	12-2-3	公演・発表機会に関する相談（※） （公演を企画・開催したい、依頼された）	1	2	3	4	5	6

問13.　担当の都道府県において、以下のような障害者が芸術文化活動にアクセスしやすくなるための取り組みは、どの程度行われていますか。各項目、1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに〇印をおつけ下さい。

		十分行われている	まあまあ行われている	どちらともいえない	あまり行われていない	全く行われていない
13-1	文化施設(劇場、映画館、美術館等）の物理的なバリアフリー化	1	2	3	4	5
13-2	文化施設での点字や拡大文字、副音声、音声補聴等情報保障の充実	1	2	3	4	5
13-3	芸術文化活動関連イベント情報の発信方法の多様化（ルビをふる等）	1	2	3	4	5
13-4	親子室等別室での鑑賞	1	2	3	4	5
13-5	舞台事前説明会	1	2	3	4	5
13-6	台本の事前貸し出し	1	2	3	4	5
13-7	障害と芸術文化双方に知見がある人材（コーディネーター、通訳等）の育成	1	2	3	4	5
13-8	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4	5

問 14-1.　担当の都道府県における障害者の創造や発表の機会の新規提供、または拡大（※）の状況についてお伺いします。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

※「拡大」とは「過去において障害者を主体とした芸術文化活動のプログラムを行っていた団体や場所の内、対象者の障害種別や重症度、芸術活動の種類等において、より多様な創造・発表が可能なプログラムを提供できるようになった」ことを指します。

			かなりある	少しある	あまりない	全くない
14-1-1	発表の機会を新たに提供している					
	14-1-1-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1	2	3	4
	14-1-1-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4
	14-1-1-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	1	2	3	4
	14-1-1-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
	14-1-1-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4
	14-1-1-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4
14-1-2	発表の機会を拡大(※)し提供している					
	14-1-2-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1	2	3	4
	14-1-2-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4
	14-1-2-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	1	2	3	4
	14-1-2-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
	14-1-2-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4
	14-1-2-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4

			かなりある	少しある	あまりない	全くない
14-1-3	創造の機会を新たに提供している					
	14-1-3-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1	2	3	4
	14-1-3-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4
	14-1-3-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	1	2	3	4
	14-1-3-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
	14-1-3-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4
	14-1-3-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4
14-1-4	創造の機会を拡大(※)し提供している					
	14-1-4-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）の数	1	2	3	4
	14-1-4-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4
	14-1-4-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）	1	2	3	4
	14-1-4-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
	14-1-4-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）で行われている活動	1	2	3	4
	14-1-4-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4

問 14-2.　問 14-1 でお答えになられた場所の中で、特徴的な事例があれば教えて下さい。

障害者福祉施設：

芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等：

文化施設：

保育園、幼稚園、学校：

コミュニティスペース：

その他：

問15.　担当の都道府県において、以下のような障害者本人の作品制作や表現の技術向上につながる機会はどれくらいありますか。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに〇印をおつけ下さい。

		かなりある	少しある	あまりない	全くない
15-1	専門家やプロのアーティストからアドバイスを個人もしくはグループで受ける機会	1	2	3	4
15-2	障害者の芸術文化活動に知見のあるスタッフが伴走し、表現を追求する機会	1	2	3	4
15-3	芸術文化活動全般の勉強会や研修会に参加する機会	1	2	3	4
15-4	創作場所や練習場所等が確保できる機会	1	2	3	4
15-5	創作・練習等に必要な道具や機器の提供	1	2	3	4
15-6	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4

問16.　以下の各団体・場所において、問 15 で挙げたような芸術文化活動に関する障害者の作品制作や表現の技術向上に直結するような機会があった場合、支援センターとしてどのような関わりや工夫があったか教えて下さい。（ここでは施設職員等の支援の技術向上ではなく、**障害者の作品制作や表現の技術向上**についてお答え下さい。）

障害者福祉施設：

芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等：

文化施設：

保育園、幼稚園、学校：

コミュニティスペース：

その他：

問17.　担当の都道府県において、以下のような障害者の芸術文化活動に関する社会的認知の機会がどの程度ありますか。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに〇印をおつけ下さい。

		かなりある	少しある	あまりない	全くない
17-1	障害者の芸術文化活動が来場者や訪問者から評価を受ける機会	1	2	3	4
17-2	障害者の芸術文化活動が芸術文化の専門家から評価を受ける機会	1	2	3	4
17-3	障害者が関わる作品や舞台公演がメディアで取り上げられる機会	1	2	3	4
17-4	障害者の美術作品が売買される機会	1	2	3	4
17-5	障害者の美術作品がグッズ化される、地方自治体や企業の広報物等で採用される機会	1	2	3	4
17-6	障害者の舞台芸術作品が媒体化（CD・DVD・Blu-ray・YouTube 等）される機会	1	2	3	4
17-7	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4

問 18-1. 担当の都道府県における以下のような団体・場所において、障害者の多様なニーズ（障害特性、芸術の種類等）に対応した質の高い芸術文化活動支援は、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、どの程度充実したと思いますか。各項目、1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに〇印をおつけ下さい。

		とても充実した	少し充実した	変わらない	あまり充実していない	全く充実していない
18-1-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）	1	2	3	4	5
18-1-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4	5
18-1-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1	2	3	4	5
18-1-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4	5
18-1-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等）	1	2	3	4	5
18-1-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4	5

問 18-2. 問 18-1 で、「とても充実した」「少し充実した」と答えた方は、具体的な事例とその特徴を教えて下さい。（関連資料があれば共有していただけると幸いです。）

問 19-1. 貴センターが関わる（※）ことで、担当の都道府県における障害者の芸術文化活動に従事する人・団体等関係者の以下のような知識・スキルは、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、どの程度変化したと思いますか。各項目、1〜6 の選択肢から該当するものに一つ○をおつけ下さい。

※「支援センターの関わり」とは、「研修・勉強会・ワークショップの実施や成功・失敗事例の共有すること等」を指します。

		とても向上した	少し向上した	変わらない	やや低下した	かなり低下した	この項目に関する活動をしていない
19-1-1	アーティストの権利擁護に関する知識	1	2	3	4	5	6
19-1-2	商品化に関する知識やスキル	1	2	3	4	5	6
19-1-3	キュレーションに関する知識やスキル	1	2	3	4	5	6
19-1-4	広報に関する知識やスキル	1	2	3	4	5	6
19-1-5	イベント企画・運営に関する知識やスキル	1	2	3	4	5	6
19-1-6	障害特性の理解に関する知識	1	2	3	4	5	6
19-1-7	障害特性を理解した上で支援する技術	1	2	3	4	5	6
19-1-8	その他 （具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）	1	2	3	4	5	6

問 19-2. 以下の各領域において、障害者の芸術文化活動に従事する人・団体等関係者の知識やスキルの向上に直結する特徴的な事例がありましたら、教えて下さい。

権利擁護：

商品化：

キュレーション：

広報：

イベント企画・運営：

障害特性の理解：

障害特性を理解した上での支援：

問20.　担当の都道府県において、貴センターとつながったことで、組織・団体として障害者への芸術文化活動を新たに取り組み始めた（※）団体はどれくらいありますか。各項目 1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

※「組織・団体として取り組み始めた」とは、「職員が展覧会や舞台を鑑賞しただけでなく、組織として主体的に障害者芸術文化活動にかかるプログラムやイベントを企画・開催すること等」を指します。

		かなりある	少しある	あまりない	全くない
20-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）	1	2	3	4
20-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等	1	2	3	4
20-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1	2	3	4
20-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
20-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1	2	3	4
20-6	その他(地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習い事等)	1	2	3	4

問 21-1.仮に地域の団体が障害者への芸術文化活動の支援力をより上げたいと思った時、地域に情報・ノウハウの共有を行える場や環境が、どの程度存在していると思いますか。1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

1.　かなりある	2.　少しある	3.　あまりない	4.　全くない

問 21-2. 問 21-1 で「1. かなりある」「2. 少しある」と答えられた方は、具体的にどのような場や環境があるかについて、教えて下さい。

問 22-1.担当する都道府県において、以下のような関わり方で障害者の芸術文化活動を応援する人はどの程度いますか。各項目 1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		かなりいる	少しいる	あまりいない	全くいない
22-1-1	鑑賞者として**無料の**展覧会・舞台公演に来場する人	1	2	3	4
22-1-2	鑑賞者として**有料の**展覧会・舞台公演に来場する人	1	2	3	4
22-1-3	**職業として**障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	1	2	3	4
22-1-4	**職業と関係なく**障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	1	2	3	4
22-1-5	有償・無償ボランティアとして障害者の芸術文化活動に関わる人	1	2	3	4

問 22-2. 問 22-1 の各項目について、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、それぞれどのように変化していますか。1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	とても減っている
22-2-1	鑑賞者として**無料の**展覧会・舞台公演に来場する人	1	2	3	4	5
22-2-2	鑑賞者として**有料の**展覧会・舞台公演に来場する人	1	2	3	4	5
22-2-3	**職業として**障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	1	2	3	4	5
22-2-4	**職業と関係なく**障害者と一緒に作品作りを楽しむ人	1	2	3	4	5
22-2-5	有償・無償ボランティアとして障害者の芸術文化活動に関わる人	1	2	3	4	5

問 23-1. 支援センターの事業として、以下の団体や場所において、どの程度障害当事者と地域住民が関わる機会を創出しましたか。各項目、1～4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		かなりある	少しある	あまりない	全くない
23-1-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）	1	2	3	4
23-1-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	1	2	3	4
23-1-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1	2	3	4
23-1-4	保育園・幼稚園・学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
23-1-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1	2	3	4
23-1-6	その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習いごと等）	1	2	3	4

問 23-2. 問 23-1 の各項目について、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、それぞれどのように変化していますか。1～5 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		とても増えている	少し増えている	変わらない	少し減っている	かなり減っている
23-2-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）	1	2	3	4	5
23-2-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	1	2	3	4	5
23-2-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1	2	3	4	5
23-2-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4	5
23-2-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1	2	3	4	5
23-2-6	その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習いごと等）	1	2	3	4	5

問 23-3. 貴センターが行った交流型のイベントの内、特徴的な事例があれば教えて下さい。

問24.　担当する都道府県において、貴センターが提供した機会以外に、地域住民と障害者当事者が直接関わりあうことのできる芸術文化活動の機会（ワークショップ、展覧会、舞台芸術）を提供している団体は現状どの程度ありますか。各項目、1〜4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		かなりある	少しある	あまりない	全くない
24-1	障害者福祉施設（入所・通所含む）	1	2	3	4
24-2	芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）	1	2	3	4
24-3	文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）	1	2	3	4
24-4	保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）	1	2	3	4
24-5	コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）	1	2	3	4
24-6	その他（地域のダンスクラブ、ピアノ教室、絵画教室、造形教室等地域のお稽古・習いごと等）	1	2	3	4

問 25-1. 担当の都道府県において、地域住民の障害者の芸術文化活動への関心はどれくらいあると思いますか。1〜4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

1.　かなりある	2.　少しある	3.　あまりない	4.　全くない

問 25-2. 問 25-1 について、普及支援事業の開始時、もしくはモデル事業を行っていた団体はモデル事業開始時と比較した時、それはどのように変化していますか。1〜4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

1.　とても高まっている	2.　少し高まっている	3.　どちらでもない	4.　少し下がっている	5.　とても下がっている

問 25-3. 問 25-2 の背景として、担当の都道府県において、以下のどの点において変化が起きたと思いますか。各項目、1〜4 の選択肢の中から該当するもの一つに○印をおつけ下さい。

		とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
25-3-1	無料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた	1	2	3	4
25-3-2	有料の障害者の芸術文化活動に係る美術展、舞台公演、イベントへの来場者数が増えた	1	2	3	4

		とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
25-3-3	障害者と一緒に作品を作る取り組みにより多くの人が参加するようになった	1	2	3	4
25-3-4	障害者が地域で芸術文化活動を行える機会が増えた	1	2	3	4
25-3-5	作品をグッズ化したものの売り上げが増えた	1	2	3	4
25-3-6	作品の購入・レンタルの件数が増えた	1	2	3	4
25-3-7	今までつながっていなかったアーティストや地域の団体から、障害者の芸術文化活動に係る協力のオファーが増えた（例：一緒に何かイベントを企画したいという申し出や、障害者芸術文化に係る企画を行いたいという地域の団体が増えた等）	1	2	3	4

問 25-4. 問 25-3 以外で何か地域住民の関心の変化として気づくことがあれば、教えて下さい。

- 本調査について、何かお気づきの点・ご意見がございましたらご記入下さい。

質問は以上になります。お忙しい中、アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
同封しております返信用封筒をご利用の上、**2月8日（金）まで**にご返送下さい。

障害者芸術文化活動普及支援事業　評価ガイドライン作成事業　調査票②

日付	2019 年　　月　　日
団体名	

調査票②では、「障害者芸術文化活動普及支援事業（以下、普及支援事業とする）」の「都道府県における障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センターとする）」が行っている**活動**について伺います。

＜調査票②の回答方法＞

① 本調査票は、各支援センターが「各活動を行っているか確認するため」のものになっております。一つ一つの活動項目を確認していただき、**その活動を行っていれば□に✓**を入れて下さい。

② □の下に項目（△）を用意している設問に関しましては、△にも✓していただいた上で、□の要件を満たす場合に、□に✓を入れて下さい。

③ 各項目（A1、A2 等）ごとに**□についた✓の数（△は含まない）**を数え、項目の最後に記入してください。

※本調査票では、活動と成果の関係性を調べるために、項目ごとに示した「レーティング（評点）基準」によって配点を行い、統計的に分析を行います。「レーティング（評点）基準」は参考資料として添付しており、本調査で皆さんに使用して頂く必要はありません。また、**この点数によって各支援センターの活動が評価されるということではありません**ので、ご了承下さい。

調査票①と同様、支援センターの実施年度により、**以下のいずれかに従って**回答いただくようお願い申し上げます。

① 平成 29 年度に**実施**、平成 30 年度に**未実施**の場合
平成 29 年度の活動状況についてご回答下さい。

② 平成 29 年度と平成 30 年度共に**実施**、または、平成 29 年度に**未実施**、平成 30 年度に**実施**の場合
平成 30 年度の現況についてご回答下さい。

また、活動に関しては、特に注釈があるものを除いて、**全て担当の都道府県内における活動**についてご回答下さい。

A. より多くの障害者が芸術文化活動に取り組めるための支援についてお伺いします。

A1：地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動

＜活動の内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような地域の障害者による芸術文化活動の現状を理解するための活動を行っているかについて確認します。

a)　障害者福祉施設や文化施設等を対象としたアンケート調査をしているか

□ 様々な団体・施設を対象とした障害者の芸術文化活動の現状把握のためのアンケート調査を実施している

（アンケート調査の対象が、以下の△に 3 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 障害者福祉施設（入所・通所含む）

△ 芸術文化活動を主眼として活動する NPO 等（アート NPO、公益財団法人等）

△ 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館等）

△ 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）

△ コミュニティスペース（カフェ、図書館、役所のホール等を含む）

△ その他（　　）

☐ アンケート調査の結果を分析し、地域の障害者芸術文化活動の全体的な活動状況や特性、課題等を明らかにしている

b) 障害者の芸術文化活動の現状把握のための現場訪問調査をしているか

☐ 現場訪問調査の対象として、障害者の芸術文化活動を盛んに行う団体や施設等を選定している

☐ 現場訪問調査の対象として、障害者の芸術文化活動に関心があるものの、十分な活動を行えていない団体や施設等を選定している

☐ 現場訪問調査では、障害者の芸術文化活動に関する具体的な取り組みの状況を把握している

☐ 現場訪問調査では、障害者の芸術文化活動に取り組むことができない団体や施設等の課題を明確にしている

c) 障害者の芸術文化活動に関する既存の調査を活用しているか

☐ 他団体が行った担当の都道府県における調査の結果を、現状把握に役立てている

☐ 他団体が行った担当の都道府県以外の地域における調査の結果を、現状把握に役立てている

d) 定期的な調査を実施しているか

☐ 網羅的なアンケート調査を定期的に行っている

☐ 現場訪問調査を定期的に行っている

※「定期的」とは、例えば「1 年に 1 度」、「数か月に 1 度」や「〇か月ごとに」、「毎年〇月に」等を意味する

チェックの合計数	**個**

A2：障害者の芸術文化活動に関する相談事を解決する活動

＜活動の内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害者の芸術文化活動に関する相談事の解決に資する活動を行っているかについて確認します。

a) 支援センターの広報活動を行っているか

□ 支援センターを周知するための広報媒体を準備し、積極的に広報をしている

（準備している媒体が、以下の△に 2 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ ホームページや SNS

△ パンフレットやリーフレット

△ その他（　　）

b) 多様な障害者の相談を受け付ける環境を整えているか

□ 障害特性に配慮し、障害者が安心して相談できる窓口を設置している

□ 様々な障害に対応できるよう、色々な通信手段で相談を受け付ける

（受け付けている通信手段が、以下の△に 2 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 電話

△ FAX

△ パソコン（電子メール）

△ 訪問・対面

△ その他（　　）

c) 相談内容の管理・共有に関する活動をしているか

□ 支援センターでは、相談内容が漏洩しないような配慮を行っている

□ 必要に応じて相談内容は記録し、データベース化等して保管・活用している

□ データ化された相談内容を相談者の同意とプライバシーへの配慮の上で、団体内や他団体と共有している

□ ホームページやパンフレット等に相談事例を掲載している

d)　相談の質・体制向上に関する活動をしているか

☐ 相談員が 1 人で悩まず、支援センター内部で検討しながら対応できるように、複数の相談員を配置している

☐ 弁護士や学芸員、舞台制作者等、専門家のアドバイスを受けたり紹介できる体制を整えている

☐ 相談の内容に応じて、関係機関の紹介を行っている

チェックの合計数	**個**

A3：障害に配慮した芸術文化活動の情報を収集・発信し、届ける活動

＜活動の内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害に配慮した芸術文化活動の情報収集・発信に関する活動を行っているかについて確認します。

a)　鑑賞機会についての情報収集・提供を行っているか

☐ 芸術文化活動を行う様々な団体・施設から日常的に鑑賞機会についての情報を得ている

☐ 芸術文化活動に関する鑑賞機会について、様々に工夫した情報の発信を行っている

（行っている工夫が、以下の△に 2 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 支援センターのウェブサイトにイベントの情報を掲載する

△ 支援センターのウェブサイトに音声読み上げ対応等工夫をしたイベントの情報を掲載する

△ 平易な言葉を使用したり、漢字にルビを振る等工夫したパンフレット等を作成する

△ イベントやコンサート等の情報が掲載されたチラシやパンフレット等を障害者福祉施設、学校（特別支援学校・学級を含む)、文化施設等、様々な場所で設置・配布する

△ その他（　　）

b)　参加・創造機会についての情報収集・提供を行っているか

☐ 芸術文化活動を行う様々な団体・施設から日常的に参加・創造機会についての情報を得ている

☐ 芸術文化活動に関する参加・創造機会について、様々に工夫した情報の発信を行っている

（行っている工夫が、以下の△に 2 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 支援センターのウェブサイトにイベントの情報を掲載する

△ 支援センターのウェブサイトに音声読み上げ対応等工夫をしたイベントの情報を掲載する

△ 平易な言葉を使用したり、漢字にルビを振る等工夫したパンフレット等を作成する

△ イベントやコンサート等の情報が掲載されたチラシやパンフレット等を障害者福祉施設、学校（特別支援学校・学級を含む)、文化施設等、様々な場所で設置・配布する

△ その他（　　）

チェックの合計数	**個**

B. 「障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増えるための支援」についてお伺いします。

B1：障害者が作品を創造し発表する機会が増えるための活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害者が作品を創造・発表する機会の増加に資する活動を行っているかについて確認します。

a) 作品や芸術家の調査・発掘を行っているか

☐ 地域で見かけた作品（興味深いもの）をもとに、人づてに辿っていき、作品や芸術家を探す

☐ 気になる作品・芸術家には現地まで確認しに（会いに）行く

☐ 地域の展覧会や舞台をみてまわり、作品や芸術家に出会う可能性を広げる

☐ 障害者による作品や芸術文化活動の記録及び保存を行う

b) 創作のための環境整備と発表機会の創出を行っているか

☐ 障害種別を問わず、どんな障害者でも参加可能な芸術文化活動の環境整備を支援している

☐ 記録及び保存している作品をアーティストの同意を得た上で貸し出している

☐ 支援センターが自ら企画・運営し、展覧会や舞台公演等の機会を創出する

☐ 地域の団体が展覧会や舞台公演等の機会を創出するよう働きかけを行う

チェックの合計数	**個**

B2：障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増えるための活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会の増加に資する活動を行っているかについて確認します。

□ 障害者のニーズに合わせ、芸術文化活動を学べる場等、適切な情報提供を行う

□ 障害者のニーズに合わせ、多様な芸術文化活動の作品制作が可能な場を提供する用意ができている

（作品制作が可能な場を提供するための用意が、以下の△に 1 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 美術作品を制作する場合、地域の中にある作品制作の選択肢（絵画、工芸、陶芸等）を把握している

△ 舞台芸術作品を制作する場合、多様なジャンルの芸術家とのネットワークが構築されている

△ その他（ ）

□ 必要に応じて、障害者福祉施設や学校（特別支援学校・学級を含む）等に芸術文化活動支援の専門家の派遣・紹介を行う

チェックの合計数	**個**

B3：障害者の芸術文化活動に対する社会的認知が上がるための活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害者の芸術文化活動に対する社会的認知度の向上に資する活動を行っているかについて確認します。

□ 展覧会や舞台公演において、観客から作品の意見を聞く機会を設けている

（意見を聞く機会が、以下の△に 1 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 観客に対してインタビューを行う

△ 観客に対してアンケートを行う

△ その他（ ）

□ インタビューやアンケートの情報をまとめ、障害者にフィードバックを行っている

□ 観客と障害者がコミュニケーションをとる機会を設けている

（コミュニケーションの機会が、以下の△に 1 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 展覧会やイベントにあわせてアーティスト・トークを行う

△ 対話型鑑賞等のプログラムを行う

△ 参加型ワークショップを行う

△ その他（　　）

☐ 展覧会や舞台公演等を積極的に開催している

☐ 展覧会や舞台公演等において、専門家からの評価やコメントを得る仕組みを構築している

☐ 担当の都道府県内において障害者の作品を売買する仕組みを構築している

☐ 担当の都道府県内において障害者の作品をグッズ化する仕組みを構築している

☐ 舞台芸術に関わる障害者の出演機会の増加や、作品の媒体化（CD・DVD・Blu-ray・YouTube 等）が行われるよう支援している

☐ 様々なメディアを活用し、障害者の芸術文化活動を紹介している

（活用しているメディアが、以下の△に 1 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 新聞・雑誌（オンラインも含む）等の活字メディア

△ テレビ・ラジオ等の放送メディア

△ その他（　　）

チェックの合計数	**個**

C.「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体（以下、関係者）がより質の高い活動を行うための取り組み」についてお伺いします。

C1：関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が、組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような関係者の必要な知識やスキルを向上し、地域の団体が、組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになるための活動を行っているかについて確認します。

a） 関係者の障害者の芸術文化活動に関する知識・スキルの向上を行っているか

☐ 関係者を対象とした研修会・勉強会を企画・主催している

☐ 関係者からの要請や依頼に応じて、障害者福祉施設等を訪問して研修会・勉強会を行っている

☐ 研修に参加した関係者に対して継続的なフォローアップ支援を行っている

☐ 地域の団体の成功事例・失敗事例やノウハウ等を蓄積し、発信している

☐ 障害者と関係者がともに芸術文化活動の企画・運営を行う機会を設ける

b） 地域の団体が障害者の芸術文化活動を組織の事業として行えるようになるための支援を行っているか

☐ 障害者福祉施設等の施設長や管理者へ障害者の芸術文化活動の魅力やもたらした変化について説明を行っている

☐ 障害者福祉施設等の施設長や管理者が障害者の芸術文化活動を鑑賞したり一緒に体験できる機会を設けている

☐ 障害者芸術文化活動を行う組織・団体に組織のマネジメント力を強化するプログラムを提供している

☐ 障害者福祉施設や文化施設等の意思決定者を、すでに障害者の芸術文化活動支援を行っている団体同士のネットワークやコミュニティへつなげている

チェックの合計数	**個**

C2：（障害者の芸術文化活動を支援する）多様な主体のネットワークを強化する活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような障害者の芸術文化活動を支援するための多様な主体によって構築されているネットワークを強化する活動を行っているかについて確認します。

a) 連携・協力するためのネットワークづくりを行っているか

□ 様々な機関・専門家が参加した協力委員会等の協力体制を整えている

（参加する多様な機関・専門家が、以下の△に 5 つ以上該当すれば□に✓をする）

△ 障害者の芸術文化活動の実践者

△ 学校（特別支援学校・学級を含む）等教育関係者

△ 都道府県の職員（福祉及び芸術担当）

△ 市区町村の職員（福祉及び芸術担当）

△ 学芸員や舞台制作者等の芸術分野の専門家

△ 弁護士等、法律分野の専門家

△ その他（　　）

□ 協力者と委員は定期的に集まり情報共有等を行っている

b) ネットワークを生かした取り組みを行っているか

□ 全国の支援センター、広域センター、連携事務局とのネットワークを生かした事業を行っている

□ 独自のネットワーク（アート系コンソーシアム、福祉関係ネットワーク、協議会等）を生かした事業を行っている

□ 障害者の芸術文化活動支援に関わる都道府県の担当部局や担当者と定期的に情報交換を行っている

□ 障害者の芸術文化活動支援に関わる市区町村の担当部局や担当者と定期的に情報交換を行っている

□ 著作権等の権利保護については、必要に応じて、弁護士等の法律の専門家を活用している

□ 芸術文化活動支援については、必要に応じて、学芸員、舞台制作者、研究者等の専門家を活用している

チェックの合計数	**個**

D.「地域に障害者の芸術文化活動を応援する人を増やすための取り組み」についてお伺いします。

D1：地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくる活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できる場をつくる活動を行っているかについて確認します。

☐ 支援センターとして、地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられる多様な機会を創っている

（地域住民が障害者の芸術文化活動に触れられる機会が、以下の△に 2 つ以上該当すれば☐に✓をする）

△ 展覧会・美術展

△ 舞台公演

△ 障害者芸術文化活動に関する講演会・シンポジウム

△ その他（　　）

☐ 地域住民が障害者の芸術文化活動を通して障害者と直接交流・関わる場を創っている

（地域住民が障害者の芸術文化活動を通して直接関わる場が、以下の△に 2 つ以上該当すれば☐に✓をする）

△ 地域住民も参加できるイベント・ワークショップの開催

△ 舞台公演前後のパブリックトークの開催

△ イベント内のアーティストトークの開催

△ その他（　　）

☐ 地域のイベント（祭り等）に障害者の作品等が参加できるように働きかけを行っている

☐ 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）等を訪問し、児童・学生が障害者の芸術文化活動に触れられる機会を創っている

☐ 障害者と様々な分野の専門家（芸術家等）が共同して作品制作に取り組めるよう支援している

☐ 地域住民の中で障害者の芸術文化活動に興味のある人から問い合わせや相談を受け付けている

チェックの合計数	**個**

D2：地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心が高まるよう情報を発信する活動

＜活動内容とその目的＞
ここでは、支援センターが、以下のような地域住民の障害者の芸術文化活動に関する関心が高まるような情報を発信する活動を行っているかについて確認します。

☐ 支援センターの役割について、地域住民に知ってもらうためのリーフレットやウェブサイトを準備し、広報を行っている

☐ 支援センターが実施する障害者の芸術文化活動に関するイベント等のチラシ等を作成し、地域住民向けに配布している
（配布の場所が、以下の△に 3 つ以上該当すれば☐に✓をする）

△ 障害者福祉施設

△ 文化施設（美術館、博物館、劇場、映画館）

△ 保育園、幼稚園、学校（特別支援学校・学級を含む）

△ カフェ、レストラン、バー

△ 市役所、図書館

△ その他（　　）

☐ 地域における障害者の芸術文化活動の情報（イベントや取り組み）を、地域住民向けに公開・発信している
（発信の方法が、以下の△に 3 つ以上該当すれば☐に✓をする）

△ 新聞

△ 区報や市報等の行政紙

△ コミュニティ紙、フリーマガジン

△ ソーシャルメディア

△ 支援センターのウェブサイト

△ 支援センターのメーリングリスト

△ 関係団体のメーリングリスト

△ その他（　　）

□ 地域住民が継続的に障害者の芸術文化活動に触れたり学んだりできるよう、アーカイブ（記録及び保存）を整理・公開する

チェックの合計数	**個**

- 本調査について、何かお気づきの点・ご意見がございましたらご記入下さい。

質問は以上になります。お忙しい中、アンケート調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。
調査票①と合わせて、同封しております返信用封筒をご利用の上、**2月8日（金）までに**ご返送下さい。

＜参考資料＞

調査票②レーティング（評点）基準

	評点・アンカーポイント				
項目	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点
A1	示された要素のいずれも満たさない、あるいは示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～5 要素を満たす	示された要素のうち 6 要素以上を満たす	示された要素のうち 6 要素以上を満たし、かつ <a><b><c><d> のいずれにも ✓ が入っている	示された要素のうち 7 要素以上を満たし、かつ <a><b><c><d> のいずれにも 2 つ以上の ✓ が入っている
A2	示された要素のいずれも満たさない、あるいは示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5～6 要素を満たす	示された要素のうち 7～9 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
A3	示された要素のいずれも満たさない	示された要素のうち 1 要素を満たす	示された要素のうち 2 要素を満たす	示された要素のうち 3 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
B1	示された要素のいずれも満たさない、あるいは示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5～6 要素を満たす	示された要素のうち 7 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
B2		示されたいずれの要素も満たさない	示された要素のうち 1 要素を満たす	示された要素のうち 2 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
B3	示されたいずれの要素も満たさない あるいは 示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5～6 要素を満たす	示された要素のうち 7～8 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
C1	示されたいずれの要素も満たさない、あるいは示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5～6 要素を満たす	示された要素のうち 7~8 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
C2	示されたいずれの要素も満たさないあるいは示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5～6 要素を満たす	示された要素のうち 7 要素を満たす	示された要素の全てを満たす
D1	示されたいずれの要素も満たさない	示された要素のうち 1～2 要素を満たす	示された要素のうち 3～4 要素を満たす	示された要素のうち 5 要素を満たす	示された全ての要素を満たす
D2	示されたいずれの要素も満たさない	示された要素のうち 1 要素を満たす	示された要素のうち 2 要素を満たす	示された要素のうち 3 要素を満たす	示された全ての要素を満たす

平成 30 年度　厚生労働省障害者総合福祉推進事業

障害者芸術文化活動普及支援事業評価ガイドライン作成事業

【検討委員】（五十音順）
大澤　寅雄　　ニッセイ基礎研究所
大塚　晃　　上智大学　総合人間科学部　社会福祉学科　教授
重光　豊　　特定非営利活動法人障碍者芸術推進研究機構　天才アート KYOTO 副理事長
新藤　健太　　群馬医療福祉大学　社会福祉学部　助教
長津　結一郎　九州大学　大学院芸術工学研究院　コミュニケーションデザイン科学部門　助教
西村　陽平　　日本女子大学　名誉教授
保坂　健二朗　独立行政法人国立美術館　東京国立近代美術館主任研究員
松下　功　　東京藝術大学　副学長　演奏藝術センター　教授
源　由理子　　明治大学　専門職大学院ガバナンス研究科　教授
吉野　さつき　愛知大学　文学部　メディア芸術専攻　教授

【執筆担当】
1．清水潤子、鴨崎貴泰
2．清水潤子、鴨崎貴泰
3-1．新藤健太、清水潤子、落合千華、鴨崎貴泰
3-2．新藤健太、清水潤子、落合千華、鴨崎貴泰
3-3．落合千華、清水潤子、鴨崎貴泰、新藤健太
3-4．新藤健太、清水潤子、落合千華、鴨崎貴泰
3-5．清水潤子、鴨崎貴泰
4．長津結一郎、清水潤子、鴨崎貴泰
5．清水潤子、鴨崎貴泰

【編集者】
清水潤子、新藤健太、鴨崎貴泰

平成 30 年度　厚生労働省障害者総合福祉推進事業

障害者芸術文化活動普及支援事業
評価ガイドライン作成事業報告書

発行日　2019 年 3 月 31 日
発行者・事務局　特定非営利活動法人　日本ファンドレイジング協会
〒105-0004 東京都港区新橋 5-7-12 ひのき屋ビル 7F
TEL 03-6809-2590 / FAX 03-6809-2591